

戰鬪分隊教練

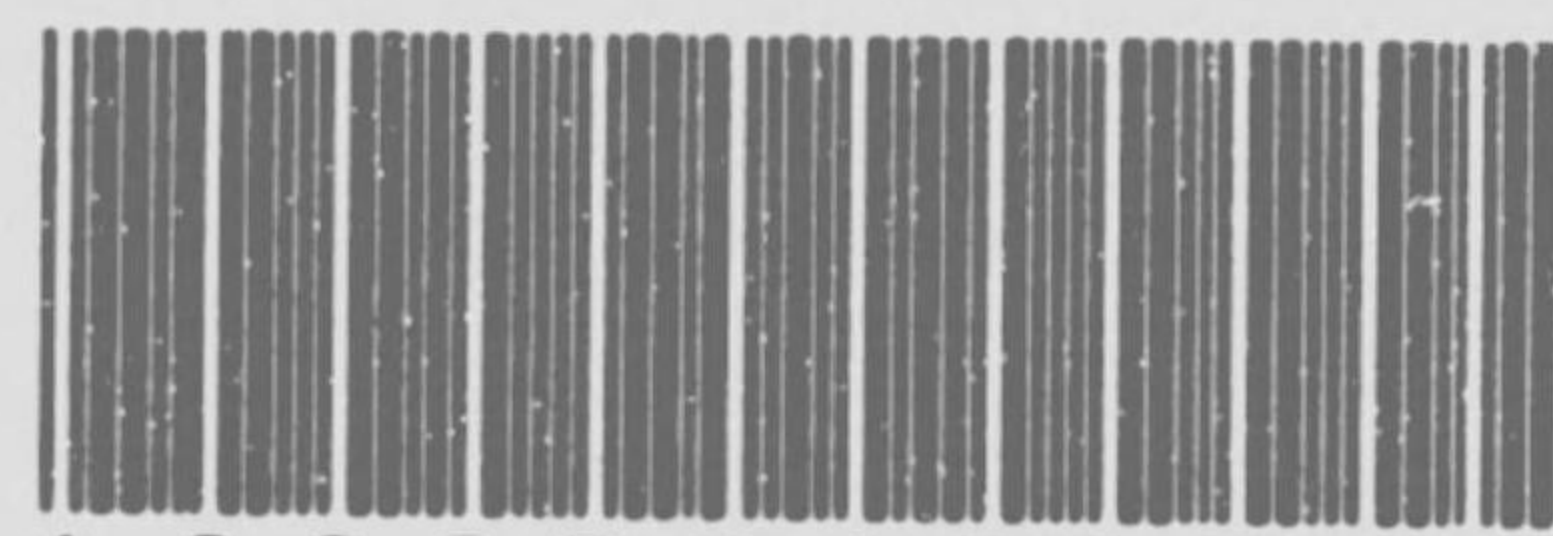
機關銃教育參考書

第二卷

陸軍步兵學校編纂

特 240

398



\* 0057245000 \*

0057245-000

特 240-398

戰鬪分隊教練

陸軍步兵學校・編纂

陸軍步兵學校將校集会所

昭和 5

AJF

特240  
398

陸軍步兵學校校長 原田敬一序  
陸軍步兵學校編纂



第二卷

# 隊教練

陸軍步兵學校將校集會所



## 序

本書ハ機關銃教育ニ資スル目的ヲ以テ關係職員  
ニ命シ編纂セシメタルモノニシテ其内容未タ完璧  
ト謂フヲ得サルモ機關銃教育ノ爲有益ナル參考書  
ト認メ謄寫ニ代ヘ梓ニ上シ本校職員竝ニ同好ノ士  
ニ頒ツ

昭和五年九月

陸軍歩兵學校長 原 田 敬 一

## 凡 例

一、本書ハ機關銃教育ニ關シ操典ニ準據シテ各種ノ參考事項ヲ一卷毎ニ纏メテ編述セルモノニシテ第一卷ノ冒頭ニハ特ニ步兵操典第三篇、機關銃中隊教練ノ通則ヲ掲ケ以テ教練全般ニ關スル件ヲ明カナラシメタリ

一、記述ノ様式ハ分隊教練ノ部ハ操典ノ各條項ヲ順序ヲ逐フテ説明シ其間、教育ノ目的、順序、著眼、課目ノ輕重、等ノ諸注意ヲ自然ニ了解シ得ル如クシ尙一部ノ課目ニツキテハ教育ノ要領ヲ添加シ參考ニ供セリ

夜間教練ハ基礎ノ動作ヨリ中隊戰鬪教練ニ至ル迄一貫シタル主旨ヲ以テ説明スルヲ適當ト認メ逐條説明ノ方法ニ據ラサル事トセリ

一、説明ノ内容中既刊「機關銃教育要領」ニ準據セル點尠シトセスコレ該書ハ機關銃教育ノ爲過去ニ於ケル寶典タリシノミナラス將來ニ於テモ亦指針タルヘキヲ信セルカ故ナリ茲ニ特記シテ出所ヲ明カニス

一、步兵操典總則(第一乃至第二十六)ニ示サレタル事項ハ本書ニ於テハ記述シアラサル  
モ機關銃教育上、當然遵守スヘキ要件ナリ、敢テ教育當事者ノ留意ヲ希望ス

一、本書中ニ示セル教育ノ要領及例示ハ全ク編者ノ私見ニシテ、單ニ一參考トシテ記述  
セルモノナリ、誤解ナカラシムコトヲ望ム

一、本書中「草案」ト稱セルハ「大正十四年 步兵機關銃操典草案」ニシテ「射擊教範」ト稱  
セルハ「昭和五年四月制定 機關銃步兵砲射擊教範」ノ略稱ナリ

# 戰鬪分隊教練目次

## 第二節 戰 鬪

### 要 旨

#### 第一款 攻 擊

##### 戰鬪ノ爲ノ前進

##### 陣地選定及進入

(參 考)

##### 地形地物ノ利用ニ就テ

##### 射 擊

##### 陣地變換

#### 第二款 防 禦

目 次

|            |     |
|------------|-----|
| 要 旨        | 一   |
| 第一款 攻 擊    | 三   |
| 戰鬪ノ爲ノ前進    | 三   |
| 陣地選定及進入    | 三   |
| (參 考)      |     |
| 地形地物ノ利用ニ就テ | 四九  |
| 射 擊        | 七九  |
| 陣地變換       | 一一四 |
| 第二款 防 禦    | 一二七 |

# 戰鬥分隊教練

## 第二節 戰鬥

要 旨(第三九六—第三九七)

### 第三九六

抑々制式ハ應用ヲ待テ始メテ光アリ而シテ其應用ノ適否ハ各種ノ戰況地形ニ適應セルヤ否ヤニ存ス現地ノ狀況ニ應シ分隊ノ戰鬥ヲシテ遺憾ナカラシムルハ分隊長以下ノ戰術能力ノ程度ト地形地物利用ノ巧拙ニ因ルヲ以テ此等ノ訓練ハ最モ綿密周到ニ行フヲ要ス即チ基本ニ於テ修得セシ諸制式ハ

#### (1) 基礎的

- 1 地形地物ニ之ヲ應用ス
- 2 更ニ戰況ヲ加味シテ行フ

(2) 各種狀況ニ應シ被教育者ニ自ラ判斷セシメテ行フ

先ツ部分的ニ其基礎トナルヘキ事項ヲ次ニ之等ノ應用ヲ教育シ所謂教育ノ漸進法ニ依リ逐次能力ヲ向上スルヲ緊要トス之カ爲適好ノ地形地物ノ選擇戰況ノ現示ニ工夫ヲ凝ラシ以テ教育ノ分量ヲ定メ實施ノ目的精神ヲ明ニシテ被教育者ノ理解ヲ容易ニスルコト極メテ肝要ナリ兵卒ヲシテ一塊ノ土、一株ノ樹木ト雖等閑ニ附セシメス常ニ戰況ヲ腦裏ニ畫イテ各最善ヲ畫サシムルハ教練ヲシテ生命アラシムルモノニシテ徒ラニ形式ニ流レ活用ヲ拘束スルカ如キハ特ニ戒メサルヘカラス

分隊長ノ指揮ニ從ヒ舉止恰モ一體ノ如ク戰闘セシムルニハ第一ニ分隊長ノ技能卓越ナルヲ要シ次ニ銃手ノ協同ノ精神充溢シ適當ナル獨斷能力ヲ具備シアルヲ必要トス故ニ戰闘教練ハ此等ヲ主眼トシテ行ハルヘキモノトス

### 第三九七

分隊戰闘教練ハ通常小隊内ノ分隊トシテ演練スヘキモノナルコトハ本條ニ明示セラレアルモ之カ實施ハ動モスレハ獨立分隊ニ傾キ易ク小隊長ノ號令、指示ニ從ヒ圓滑ニ運用スルコトニ關シテ著意足ラサルモノ多シ

蓋シ此等ハ教育者ノ計畫指導共ニ獨立分隊トスルヲ容易トスルカ爲ニ陷ル弊ナラン分隊長ノ獨立指揮運用亦緊要ナル演練項目ナリト雖機關銃戰闘ノ主旨ト第二期以後ニ於ケル小隊教練實施ノ回数ニ鑑ミル時ハ教育者ハ最モ留意セサルヘカラサルコト、ス

## 第一款 攻撃

### 戰闘ノ爲ノ前進(第三九八—第四〇一)

### 第三九八

本條ヨリ「第四〇一」ニ至ル四條ハ戰闘ノ爲前進スル分隊ノ爲訓練上ノ準據ヲ與ヘラレタルモノニシテ之等ノ訓練ニハ特ニ留意ヲ要スルモノナリ

戰闘ノ爲ノ前進ハ敵情地形ノ許ス限リ馱載ニテ敵ニ近接シ止ムヲ得サルニ至リテ卸下スルヲ本則トス(「第四四一」参照)而シテ其隊形モ亦成シ得ル限リ密集隊形ニテ近接スルニ勉ムヘキモ敵ノ有效射撃ヲ受クルニ先チテ分(小)隊間ノ間隔ヲ開クニ至ルモノトス(「第

### 四四二」参照)

本條ニ於テハ其馱載ナルト卸下ナルトヲ問ハス分隊間ノ距離間隔ヲ開キタル後ニ於ケル分隊ノ行動ニツキ據ルヘキ法則ヲ示サレタルナリ

而シテ分隊ノ行動ハ小隊及中隊教練ト密接ニ關聯シアリテ殆ント不可分ノ關係ヲ有スルカ故ニ本條ニテハ努メテ分隊ノミニツイテ説明セント欲スルモ二、三ノ事項ニツキテハ小隊(中隊)教練ニ言及スルコトアルヘシ

凡ソ戰場ニ於ケル接敵ノ要領ハ指揮掌握ノ容易ナル隊形ヲ以テ敵ヨリノ損害ヲ受クルコトナク前進スルニアリ之カ爲距離間隔ヲ開キタル分隊ハ

(一) 隣接分隊ト連繫ヲ害セサルコト

(二) 連繫ヲ害セサル範圍ニテ地形地物ヲ利用スルコト

ヲ必要トス

(三) 要スレハ自ラ隊形歩度ヲ選擇スルコト

(一) 隣接分隊トノ連繫ト地形地物ノ利用

本項ニ示セル連繫ヲ「害スル」トハ隣接分隊ト連繫ヲ失スルコトナク又混淆スルコトナク相協力シテ共同ノ目的ニ向テ前進ニ勉ムヘキコトヲ意味スルモノニシテ若シ

自己ノ前進地域敵ニ暴露セル爲他分隊ノ前進地域ニアル有利ナル地形、地物等ヲ利用セントスルカ或ハ自己ノ前進地域ニ障碍等アル場合ハ相連繫シテ地形ヲ利用シ若ハ障碍ヲ通過シテ前進スヘキモノトス本條ニテ「……連繫ヲ害セサル範圍ニ於テ巧ニ……」ト教ヘアルハ即チ之等ノ關係ヲ意味スルモノト解セラル

(二) 要スレハ自ラ隊形、歩度ヲ選擇ス

距離間隔ヲ開キタル後ノ行動ハ既ニ戰鬥ニ移レルモノナルヲ以テ分隊長ノ指示、號令之ニ應スル動作等モ歩兵ノ疎開セル場合ノ動作ニ準スヘク(「第四四三」ニ據リ「第一六二」「第一七〇」等ニ準ス)從テ敵火ノ状態、地形等ニヨリテハ分隊長自ラ隊形ヲ變更シ又ハ適時歩度ヲ加減スル等ヲ許容セラレアリ

距離、間隔ヲ開キタル後ニ於ケル隊形ハ「第一七〇」ニ準シ通常一列側面縱隊ヲ以テ行進スヘク敵火ノ状態其他ニ依リテハ前項ノ如ク分隊長之ヲ變更スルコトヲ認めラレアリ而シテ一列側面縱隊ト散開隊形トノ關係ハ左ノ如シ(小隊及中隊ノ項ニ屬スルモノナルモ便宜上茲ニ記述ス)

(1) 要旨 一列側面縱隊ハ歩兵ノ分散隊形ト同一主旨ニ依ルモノナルモ散開隊形



ハ射撃ノ隊形ニ非スシテ損害ヲ減少スル爲ノ一手段ニ過キス尙兩種共ニ一般歩兵ト類似ノ隊形ナルニヨリ機關銃タルコトヲ過早ニ察知セラレサルノ利益アリ

(2) 使用スヘキ場合

- 1 單ニ兩者ノ利害ヲ顧慮スル時ハ敵ノ小銃並機關銃火ヲ蒙ラサル場合ニ於テハ常ニ一列側面縱隊ヲ利用スルヲ有利トス
- 2 附近ノ歩兵ト類似ノ隊形ヲ採リ機關銃タルコトヲ察知セシメサラントスル場合ハ常ニ歩兵ト一致セシム
- 3 散開ヲ以テ通過シ得サル地形例へハ狹キ道路、畔路、交通壕、森林内等ノ如キ狹小ナル地形ノ通過ニハ一列側面縱隊ニ限ル

以上ハ凡テ損害ヲ減少シ行動ヲ秘匿スル大目的ノ下ニ記述セラレタルモノニシテ分隊長タルモノハ活眼ヲ以テ全般ノ戰況ヲ洞察シ戰機ヲ捉ヘテ自己ノ行動ヲ有利ナラシムル如ク勉ムルヲ必要トスルモノナリ

(三) 「散開ノ爲ノ前進」動作教育ニ關スル参考事項

- (1) 前進ニ方リテハ狀況ノ許ス限リ馱載ニテ敵ニ近接スルモノトス(「第四四一」參照)

照)

(2) 馱載行進ニ於ケル諸注意

- (イ) 地形ニヨリテハ前進路ノ偵察ヲ必要トス  
之カ爲銃手ノ内一、二名(通常四番若ハ二番)ヲ分隊ノ前方近距離ニ派遣シ進路一般ノ狀況ヲ偵察シテ若シ地障等アル場合速ニ報告セシメ以テ之ニ應スル處置ヲ探ルニ便ス

狀況ニヨリテハ分隊長自ラ挺進シテ偵察ヲ要スルコトアリ但シ此際部下ヲ手裡ヨリ脱逸セシメサルヲ要ス

- (ロ) 進路開設ノ爲豫メ準備ヲ整フルヲ必要トスルコトアリ

馱載時ハ往々ニシテ器具ヲ背囊ニ附着シタル儘行動シアリテ偶々障害ニ遭遇セシトキ其進路ノ開設ニ思ハヌ時間ヲ費スコトアリ故ニ少クモ器具ノ一部ハ銃手ニテ携行シ進路開設ノ準備ニアルコト必要ナリ又前項ノ進路偵察者ニ携行セシ

ムルモ有利ナリ

(ハ) 銃手ト駄馬トハ常ニ一體トナリ行動スルヲ要ス

難路ニ遭遇セル場合ニ銃手ノミ速ニ通過シテ前進シ駄馬ヲ顧ミサルコトアリ分隊ハ常ニ一體トナリテ始メテ其性能ヲ發揮シ得ルコトニ思フ致シ常ニ行動ノ基準ヲ駄馬ニ取り所要ニ應シテ馭卒ヲ援助スルノ準備ニアラサルヘカラス

(3) 卸下ノ爲ノ諸注意

(イ) 卸下スヘキ位置ハ能ク敵眼敵火ニ掩蔽シアルコト

(ロ) 卸下シタル時ハ通常駄馬ニ背囊ヲ積載スルモノトス而シテ背囊ヲ積載スヘキヤ或ハ銃手背囊ヲ負ヒタル儘ニテ戦闘スヘキヤハ全ク當時ノ状況ニヨルモノニシテ之カ判断ハ小隊長以上ニ非サレハ判定ニ困難ナリ故ニ教育ニ際シテハ左ノ如ク定メ置クヲ便トス

「小隊長ヨリ何等ノ指示ナキトキハ分隊長銃手ハ別命ナク背囊ヲ卸シ駄馬ニ積載スルヲ本則トス」

此際所要ノ器具ヲ背囊ヨリトリテ分隊長以下携行スルヲ可トス  
其種類携行法ハ分隊長之ヲ示スヲ要ス

(ハ) 背囊積載ノ方法

基本ノ條項(第三七二)ニテ説明セル方法ニヨル而シテ分隊全員ヲ以テ積載スヘキヤ又ハ七、八番及馭卒ニテ行フヘキヤ或ハ全然馭卒ノミニ任セシムヘキヤハ状況ニヨルモ勢力ノ關係、所要時間ノ關係ヨリナルヘク全員協力シテ短時間ニ積載ヲ終ルヲ可トス故ニ全員ニテ積ムヲ本則トシ積載途中若ハ銃ノ卸下ト同時ニ「銃前へ」等ヲ命セラレタルトキハ七、八番後ニ殘リテ馭卒ト協力積載シ終リテ銃ニ追及スル如ク定ムルヲ可トス

(ニ) 駄馬ノ處置

戰銃隊ノ駄馬ハ通常給養掛下士ノ引率ヲ以テ彈藥小隊ニ合スルカ或ハ状況ニヨリテハ給養掛下士ノ指揮ヲ受クルカ何レニシテモ先ツ給養掛下士ノ所ニ到ラシムルモノトス

之カ爲馭卒ニ對シヨク其行動ヲ明示シ又自己分隊ノ豫想行動ヲ示シ以テ爾後ニ於ケル連絡、彈藥補充等ニ便ナラシムルノ顧慮ヲ必要トス  
要スレハ七、八番或ハ特ニ配屬セラレアル豫備銃手等ニヨリ馭馬トノ連絡ヲ確保スルノ手段ヲ講スヘシ

## 第三九九

本條ハ卸下シタル場合ノ前進ニ於テ企圖秘匿ノ爲ノ諸注意ヲ示シタルモノナリ  
機關銃戰闘ノ要訣ハ既ニ屢ニ説明セル如ク急襲的火力ヲ以テ敵ヲ壓倒スルニ在ルヲ以テ未タ射撃位置ニ到ラサル戰闘間ノ前進ニ於テ敵ニ發見セラレ其企圖ヲ察知セラル、カ如キコトアラハ爾後ノ戰闘ニ著シキ不利ヲ來スヘシ故ニ前進間ニ於テハ極力其行動及所在ヲ秘匿スルコト緊要ナリ  
特ニ銃及彈藥箱ヲ暴露スルトキハ敵ニ發見セラレ易キヲ以テ地形地物ヲ利用シ又偽裝ヲ巧ニシ地形ト狀況ニ應シテ適切ナル搬送法ヲ用フル等各種ノ手段ヲ講シテ秘匿ニ勉ムルヲ要ス

## 第四〇〇

卸下ニ於テハ銃ノ搬送ニ任スル銃手ノ疲勞ヲ顧慮シ分隊長ハ適宜銃手ヲ交代シテ搬送セシムルノ著意ヲ要ス銃手ノ臂力養成ハ平常ヨリ之ヲ訓練シアルヘシト雖戰時動員ニ際シテハ現役兵ノミヲ以テ編成スルニアラサルカ故ニ體力ノ持續ニモ亦制限アルヘク戰闘ニ方リ充分活躍セシメンカ爲ニハ銃手ノ體力ニ餘裕ヲ存セシムルコト必要ナリ  
其交代時機、方法等ヲ如何ニスヘキヤハ全ク狀況ニヨルモノニシテ分隊長一々之ヲ指示スルモ或ハ約束ニヨリ交代セシムルモ隨意ナラン而シテ四人搬送ノ場合ハ勞力比較的少キヲ以テ單ニ「手、肩」換ヘ」ノ指示ニヨリ左右臂(肩)ノ平均ヲ得ヘク唯長時間ニ互ルトキ彈藥手ト交代セシムルコトアラン二人搬送ニアリテハ通常交代ヲ要スルモノニシテ一番四番、ト二番三番ト交代スル等ノ方法ニヨル

## 第四〇一

本條ハ分解搬送ノ利害ヲ示サレアリ

(一) 要旨 銃ヲ分解シテ搬送スヘキヤ或ハ二(三、四)人搬送スヘキヤハ全ク狀況ニ

因ルモノニシテ敵情地形及友軍ノ隊形等ヲ考慮シテ定ムヘキモノトス（小隊長ヨリ示サレタル場合ハ此ノ限リニアラス）

(二) 分解搬送法ノ利害

| 利                       | 害                                   |
|-------------------------|-------------------------------------|
| 1、銃手ノ疲勞少ク長途ノ行進ニ適ス       | 1、急速ニ射撃開始ヲ要スル場合（特ニ敵火ノ下ニ在リテハ）銃ノ結合遲延ス |
| 2、地形ノ制限ヲ受ケルコト少ク從テ行動容易ナリ | 2、銃手死傷其他ノ故障ニヨリ銃、脚等ヲ放擲シ損傷ヲ來スコトアリ     |
| 3、機關銃タルヲ察知セラレ難シ         | 3、射撃直後ハ此ノ方法ヲ採ルコト困難ナリ（銃身加熱ノ爲分解シ得ス）   |
|                         | 4、銃ト脚ト連絡ヲ失スルコトアリ                    |

二人搬送ハ概ネ利害相反スルモノトス

(三) 分解搬送ヲ用ヒテ有利ナル場合

- (1) 敵ニ尙遠ク而モ長ク此隊形ヲ以テ前進スルヲ要スルカ或ハ戰場一般ノ地形地物ノ關係上之ヲ有利トスルトキ
- (2) 狀況ニ依リ又局部的ノ地形地物ニヨリ分解シテ通過スルヲ有利トスルトキ

例

- イ 散兵壕、交通壕等ノ行進
  - ロ 地隙又ハ小徑
  - ハ 急斜面又ハ山地ノ崖徑或ハ小幅橋ノ通過
  - ニ 各個躍進（敵眼敵火ヲ避クルタメノ）
  - ホ 敵彈雨飛ノ下ニ於ケル匍匐前進  
（某地物迄前進シテ銃ヲ組マントスルカ如キ場合）
- (四) 參考トシテ二人搬送ヲ用フルヲ利トスル場合ヲ掲ク
- 1 敵ニ近接シ不時ノ射撃ヲ要スル顧慮アルトキ
  - 2 短距離ノ前進
  - 3 射撃直後ノ前進（銃身加熱シ分解困難ナルトキ）

陣地選定及進入（第四〇二―第四〇五）

## 要 旨

機關銃陣地ノ適合竝進入動作ノ可否ハ機關銃ノ威力發揮ニ最モ重大ナル關係ヲ有スルモノニシテ若シ陣地ノ選定適當ナラスシテ進入ニ當リ過早ニ敵ニ發見セラレ或ハ時機ニ適合セサルカ如キコトアランカ其任務ヲ達成シ得サルノミナラス多大ノ損害ヲ蒙ルニ至ルヘシ

故ニ本課目ハ射撃動作ト共ニ極メテ重要ナルモノニシテ最モ熟練ヲ要スルモノナリ  
本教育ハ先ツ基本ニ於テ修得セシ要領ヲ各種狀況ニ適合セシメ其應用ノ能力ヲ益々向上セシムルニ勉メ先ツ部分的ニ後綜合的ニ綿密周到ニ實施スルヲ要ス

## 第四〇二

陣地選定ハ通常小隊長（中隊長）ニ於テナスヘキモノナルモ防禦等特別時間ニ餘裕アル時ノ外ハ小隊長以上ハ全般ノ狀況ニ適合スル陣地ヲ選定シ細部ノ銃ノ位置ノ如キハ分隊長自ラ決定スヘキコト多シ

故ニ陣地選定ノ動作ハ分隊長トシテハ最モ重要ナル課目ニシテ之カ適否ハ直ニ任務達成

ニ至大ノ影響ヲ受クルヲ以テ分隊長ハ戰術上竝技術上ニ於ケル陣地ノ價值ヲ充分判斷シ得一瞬ノ觀察ニ依リ狀況ニ應スル適當ナル陣地ヲ選定シ得ルニ至ラサルヘカラス

陣地進入ニ方リ通常三番ヲ伴フ所以ハ進入ニ先立ち狀況ヲヨク三番ニ理解セシメ進入後直ニ有效ナル射撃ヲ實施シ不意ニ現ハレ不意ニ射撃スルノ主旨ヲ徹底セシメンカ爲ナリ故ニ狀況ノ許ス限リ實施スルヲ要ス

銃位置ノ選定ハ目標ノ種類方向ニ因リ變化ス即チ廣正面ノ目標ニ對シテハ射界特ニ廣濶ナルヲ要シ斜射側射目標ニ對シテハ我モ亦側方掩護ヲ顧慮スヘク或ル特定ノ目標ニ對シテハ射界狭少ナルモ遮蔽及掩護ノ良好ナルヲ要スルカ如ク其位置ヲ選定セサルヘカラス故ニ目標（區域）ニ對シ適切ナル陣地ヲ選定スルコトハ緊要ナル演練項目ナリ（選定教育ニ就テハ後述ス）

陣地選定上著意スヘキ要件

## 要 旨

狀況ニ適合シ銃ノ最大威力ヲ發揚シ得ルコト

如何ナル良好ノ陣地モ戰機ヲ逸シテハ價值ナク又如何ニ狀況急ヲ要スル場合ト雖威力ヲ發揮シ得サルカ如キ陣地ハ不可ナリ之カ判斷ハ一ニ選定者ノ伎倆ニ俟タサルヘカラス

1 制高地點ニシテ勉メテ敵眼敵火ニ遮蔽スルコト

制高地點ハ友軍ヲ超過シテ射撃スルニ便ニシテ射界亦廣濶ナリ然レトモ又敵ノ目標トナリ易キヲ以テ特ニ遮蔽シ其存在ヲ秘匿スルコト必要ナリ然ラスンハ過早ニ敵ノ集中火ヲ蒙リ我任務達成ニ支障ヲ來シ遂ニ陣地ノ價值ヲ失フニ至ルヘシ

尙天空ニ對スル遮蔽ニモ著意スルヲ要ス

2 所望ノ射界ヲ有シ目標變換容易ナルヲ要ス

所望ノ射界内ニ於ケル目標變換ノ容易ナルコトハ極メテ緊要ナリ然レトモ射界外ニ對スル目標變換ヲモ顧慮スル時ハ陣地選定上甚タシク拘束ヲ受ク故ニ是等ハ比較問題ニシテ所望ノ射界外ノ目標變換モ容易ナレハ一層有利ナリトス

3 銃ノ安定良好ニシテ銃手ノ操作ニ便ナルヲ要ス

銃ノ位置ハ左ノ如キ所ヲ可トス

イ 三脚特ニ後脚ノ位置堅固ニシテ安定良好

ロ 兩前脚ハ水平ナルカ目標ノ傾度ニ平行スルコト

ハ 昇降軸ノ下方隆起シアラサルコト

ニ 三番ノ位置平坦ニシテ特ニ腹部ヲ壓迫セサルコト

ホ 一番ノ裝填動作容易ナル如ク左肘ノ位置適度ニ隆起シアルコト

4 爾後ノ陣地變換容易ナルコト

5 著名ナル地物ノ附近ヲ避クルコト(第四四五)

6 敵ノ彈著觀測困難ナル地形ナルコト(第四四五)

例ヘハ前後ニ凹地、濕地アリ或ハ叢ノ中又ハ背後ニ森林ヲ有スルカ如キ位置ノ如シ

7 指揮連絡容易ナルコト

8 彈藥補充容易ナルコト

第四〇三

地形地物利用ノ目的ハ射撃威力ノ發揚ヲ主トス。然レトモ掩蔽モ亦極メテ重要ナルヲ以テ射撃威力ノ發揚ニ支障ナキ限リ最大ノ努力ヲナスヘキハ當然ナリ  
殊ニ少數ノ銃數ヲ以テ多數銃ニ對抗スル爲ニハ成ルヘク早く敵ヲ撲滅スルト共ニ又成ルヘク長ク吾ハ存在シテ戦闘ヲ終始セサルヘカラス且安全ナル掩蔽ハ精密ナル射撃ノ基ニシテ從テ效力ノ發揚亦増大ス之カ爲地物ノ利用ハ詳細ニ各種ノモノニ互リ其基礎ヲ教育シ以テ如何ナル場合ニモ適切ニ應用シ得ル如ク訓練シ置ク要アリ  
細部ニ關シテハ更ニ詳述ス

### 一、陣地ノ設備

機關銃ノ陣地トシテ理想的地物ハ容易ニ發見シ得ス其不備ヲ補フハ器具ノ使用ニ依ラサルヘカラス

故ニ簡單ナル地物ノ改造設備ニ依リ良好ナル陣地トナスノ眼識ト伎倆トヲ養成スルハ分隊長並銃手ニハ緊要ナル要件ナリ

器具使用ノ極致ハ所謂築城作業ニシテ本條ニ述フル所要ノ設備トハ掩體ヲ構築スルコ

トヲモ含ムモノナリ

陣地ノ設備ハ豫メ陣地進入前ニ行フヲ可トスト雖若シ狀況急ヲ要シ設備ノ餘裕ナク或ハ設備未タ十分ナラスシテ進入シタル場合ニ於テハ例令射撃開始後ト雖勉メテ器具ヲ使用シテ必要ナル設備ヲ行ヒ又附近ニ新ニ設備シテ銃ヲ移動シ或ハ次ニ變換スヘキ新陣地ニ銃手ヲ先行セシメテ所要ノ加工ヲナサシメ置ク等常ニ所有ユル手段ヲ盡スコトニ留意スルコト肝要ナリ

陣地ノ設備ハ左ノ三件ニ付行フモノトス

- 1 射撃效力發揚ノ爲ノ設備
- 2 敵眼ニ對スル遮蔽設備
- 3 敵彈ニ對スル掩護設備

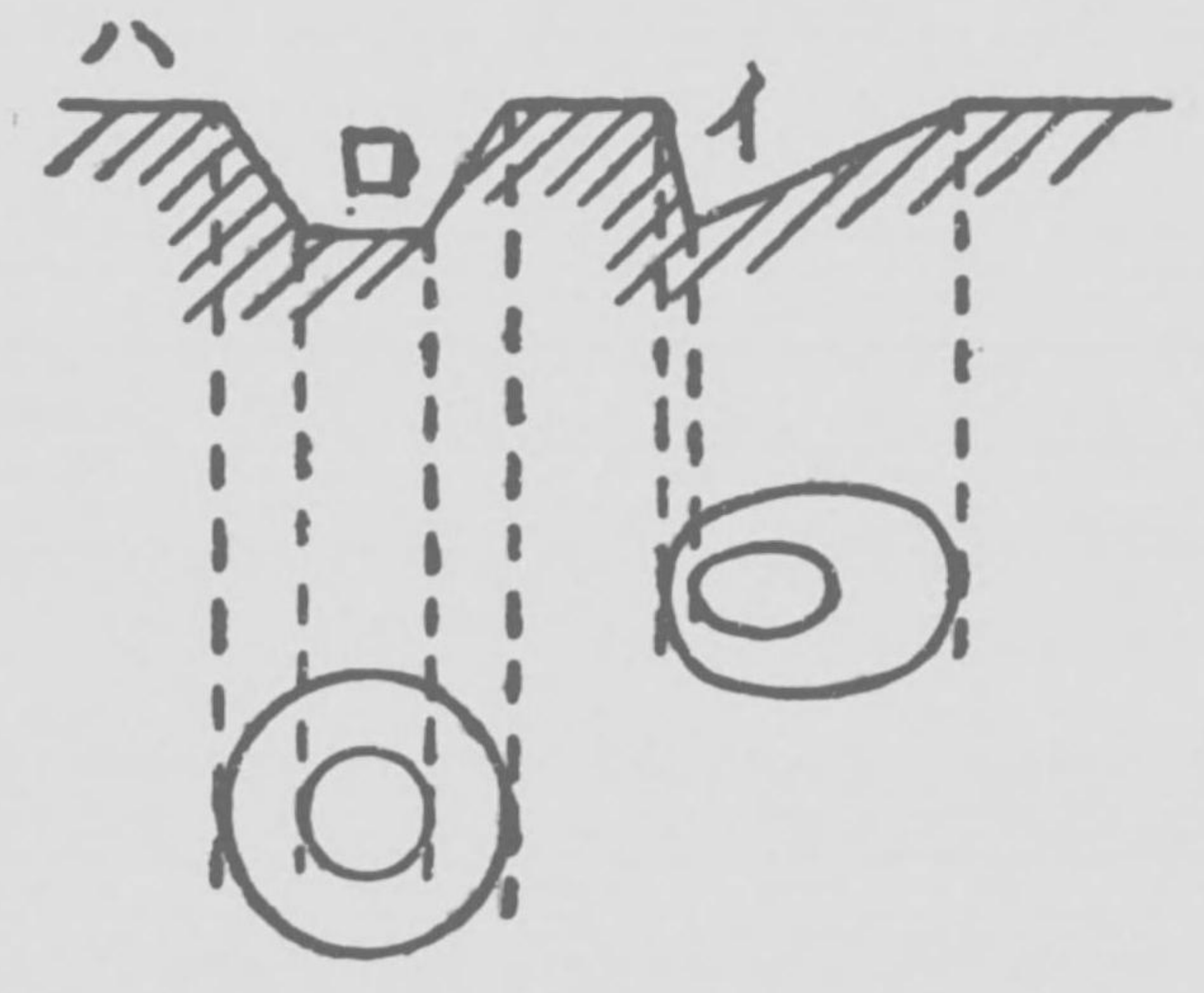
而シテ大ナル作業ヲ要スル築城ニ屬スルカ如キ件ハ省略シ主トシテ通常分隊長ノ陣地選定ニ際シ只單ニ小十字鍬又ハ小圓匙ヲ以テ簡單ニ行フ設備ニツキ其要領ヲ述ヘ以テ參考ニ供セントス

(一) 射撃効力發揚ノ爲ノ設備

(1) 基礎教育

最初ヨリ狀況ヲ設ケ而モ陣地進入ノ動作ト併セ教育スルハ一般ニ徹底ヲ缺クヲ以テ先ツ基礎的ニ左ノ件ヲ教育スルヲ要ス

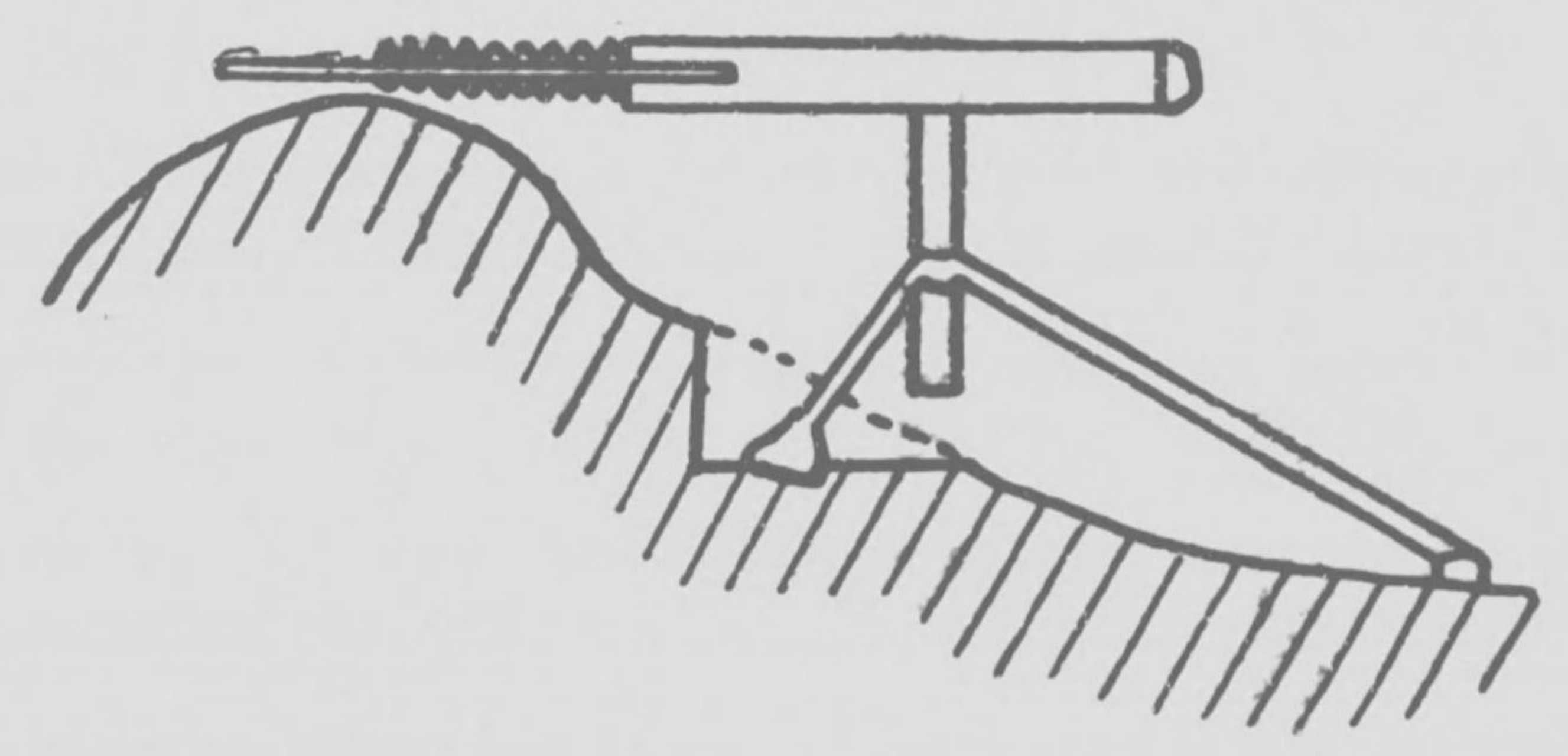
- 1 器具ト脚トノ寸度(銃位置決定ノ爲ノ参考事項参照)
- 2 後脚踵鐵ノ支點構築
  - a 後方降斜面ニシテ踵鐵ノ位置滑リ易キ場合
  - b 過硬ニシテ摺リ込ミ困難ナル時
- 3 前脚ノ位置掘開
  - a 前脚ノ位置ヲ水平ニスル時
  - b 薙射ノ爲目標ノ傾度ニ一致セシムル時



(右脚ヲ低クスル例)

- イ 豫定ノ右前脚位置(稍、豫定ヨリ深ク掘ル)
- ロ 昇降軸ノ位置(稍、大ニ掘ル)
- ハ 左前脚ノ位置

- 4 昇降軸下面ノ掘開
- 5 斜面急ナル爲自然地上ニテハ銃ノ俯角ノ限度(十五度)以外ノ爲前脚位置ノ掘開(下圖)





6 三番一番ノ位置加修

(2) 狀況ノ下ニ於テ行フ教育

狀況下ニ於ケル器具ノ使用ハ變化極リナキヲ以テ一々之ニ應スル教育ヲ豫メ準備シテ行フハ到底不可能ナリ故ニ常ニ機會ヲ捕ヘテ行フヲ要ス之カ爲著眼スヘキコト左ノ如シ

- 1 特ニ敵眼ニ暴露セサル如ク器具ヲ使用スルコト即チ使用ノ要領、豫メ遮蔽ノ設備ヲ實施スル等ノ件ニ著意スヘシ
- 2 器具使用ノ順序ハ要スレハ簡單ナル遮蔽設備ヲナシタル後射撃效力發揚ノ設備ヲ充分ニシ然ル後遮蔽ニ及フモノトス
- 3 設備ノ要否、程度ノ判斷適當ナルコト
- 4 設備ノ完成迅速適確ナルコト
- 5 先ツ部分的ニ教育シ後陣地進入、射撃、陣地變換等ニ連繫シテ各種狀況ニ應スル如ク教育ス

(二) 遮蔽設備

(1) 教育スヘキ事項

- 1 銃位置ノ遮蔽(要スレハ天空ニ對シテモ)
- 2 進入路ノ遮蔽
- 3 正面以外ノ敵ニ對スル遮蔽
- 4 陣地變換路ノ遮蔽
- 5 彈藥補充路ノ遮蔽

(2) 實施上著意スヘキ事項

- 1 設備ハ自然地ニ調和セシムヘキコト
- 2 射撃ヲ妨害セサルコト
- 3 戰況ニ適應セシムヘキコト
- 4 自然ノ地物ハ一木一草ト雖之ヲ利用スヘキコト
- 5 天空ニ對シテハ陰影ヲ利用スルコト

## (三) 敵彈ニ對スル掩護設備

## (1) 教育スヘキ事項

- 1 銃及三番ノ掩護
  - 2 一番及彈藥箱ノ掩護
  - 3 各銃手ノ掩護
  - 4 土囊ヲ利用スルコト
- (2) 實施上著意スヘキ事項

- 1 掩護ノミニ留意シ射擊動作ヲ妨害シ又ハ射擊效力ヲ減殺セサルコト
- 2 成ルヘク陣地進入前ニ行フヲ可トスルコト
- 3 工事ノ爲却テ好目標ヲ呈セサルコト

## 二、銃ノ位置ニ於ケル土質ニ對スル顧慮

## (一) 土質ノ硬軟ニ就テ

- 1 銃位置ノ土質ハ堅カラス軟カカラス脚ノ地面ニ吻合堅確ニシテ彈撥力ヲ有シ發

射ノ震動ニ對スル安定良好ナルヲ要ス

- 2 過度ニ堅硬ナル時ハ震動反撥シテ却テ劇烈トナリ不可ナリ故ニ後脚ノ支點ヲ構築シ又土囊ヲ用フル等ノ處置ヲ要ス

- 3 過度ニ軟弱ナル時ハ後脚逐次後退(降下)シ彈著ノ修正困難ナリ故ニ土囊、編條又ハ打杭ヲ使用スルヲ可トス若シ火急ノ場合ハ一時糾草、土塊、木株等ヲ利用シテ有利ナリ

## (二) 銃口前ノ土質射擊ニ當リ砂塵ヲ飛揚スル場合

右ノ如キ位置ハ之ヲ避クルヲ可トス然レトモ已ムヲ得サル場合ニハ左ノ如キ處置ヲ行フ

- 1 土囊、蓆(四隅ヲ駐ム)ヲ敷ク(撒水スルヲ可トス)
- 2 撒水ス
- 3 糾草ヲ以テ覆フ
- 4 布片ハ發射ニ際シ煽ラレ却テ惡シキコトアリ

5 濟南事變ニ於テハ厚キ「リノリユーム」ヲ使用シタルコトアリタリト云フ  
 之カ爲銃口ハ地上ヨリ相當離隔セシメ置クヲ要ス  
 砂塵飛揚ニ關スル數回ノ實驗射擊ニ於ケル略近値左表ノ如シ

(三) 土砂飛揚防止ノ研究

機關銃陣地ニ發射ノ際生スル土砂飛揚防止ノ處置ヲ緊要トスルハ操典ニ示サレアル  
 如シ地形ノ利用竝ニ偽裝ノ實施共ニ常ニ此件ヲ考慮セラレサレハ陣地ノ價値ヲ失フヘ  
 シ研究ノ一端ヲ表示スレハ次ノ如シ

大正十二年十一月  
 土砂飛揚防止ノ研究 (三年式實包)

| 種<br>類 | 積<br>土                     |             |             | 草<br>被<br>覆 | 斜<br>草<br>半<br>枯 | 被<br>覆<br>水<br>撒<br>ク | 蓆<br>被<br>覆 | 土<br>囊<br>土<br>填<br>實 | 被<br>覆<br>水<br>撒<br>ク |
|--------|----------------------------|-------------|-------------|-------------|------------------|-----------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|
|        | 粗<br>影<br>光<br>ニ<br>曝<br>ス | 踏<br>同<br>右 | 固<br>直<br>後 |             |                  |                       |             |                       |                       |
| 五      |                            |             |             |             |                  |                       |             |                       |                       |
| 七      | 土                          | 砂           | 甚           | 飛           | フ                |                       |             |                       |                       |
| 一〇     |                            |             |             |             |                  |                       |             |                       |                       |
| 一五     |                            |             |             |             |                  |                       |             |                       |                       |
| 二〇     |                            | 稍           | 飛           | フ           |                  |                       |             |                       |                       |
| 二五     |                            |             |             |             |                  |                       |             |                       |                       |
| 三〇     |                            |             |             | 土           | 砂                | 飛                     | ハ           | ス                     |                       |
| 三五     |                            |             |             |             |                  |                       |             |                       |                       |

銃口ト地物トノ離隔(櫃)

備 考

- 一、銃ノ近距離ヨリ觀察セリ
- 二、銃口低キ場合ニモ銃口ニ土砂ノ吸引セルヲ認メス
- 三、最モ砂塵ヲ飛ハス位置銃高ニ依リ差アレトモ銃口前二〇櫃—六〇櫃ノ間ナリ其前方更ニ四〇櫃—一〇〇櫃間ハ多少飛揚ス
- 四、空包射擊ヨリハ飛揚ノ度少キカ如シ

右ノ結果ト平素ノ射撃ノ際ニ於ケル實驗トヲ綜合セハ次ノ如シ

(1) 乾燥シ且粗鬆ノ土地ハ最モ土砂ヲ飛揚シ之ニ反スル土地ハ其度少シ又一般ニ芝地及良好ニ被覆セラレタル地ハ土砂飛揚少シ

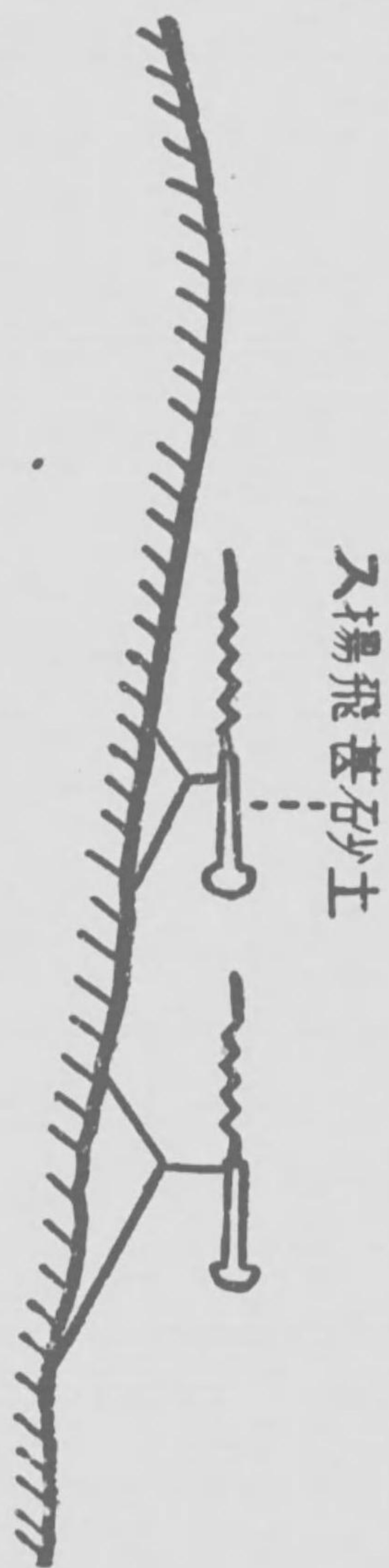
(2) 被覆ニハ土囊、蓆其他ノ布類ヲ可トス糾草ハ上面ニ土砂ヲ着ケサル時ニ於テ效果アレトモ其被覆粗雜ナルトキハ殆ント效ナシ(以上偽裝ノ立場ハ別トス)

(3) 銃口ト地面トノ間隔約七糎迄ハ接近セシメ得ルモ其以上ニ接近セシムルトキハ布類ヲ破ルニ至ル普通糾草等ニテ被覆セシ場合ハ約一五糎内外離隔セシムルヲ可トス

(4) 水撒ハ效果アリ故ニ狀況之ヲ許セハ實施スルヲ可トス而シテ直接地面ニ撒布スルトキハ多量ノ水ヲ要スルヲ以テ土囊、蓆、布等ヲ水ニ濕シテ用フルヲ利トス

(5) 胸墻ハ僅ニ前方ニ傾斜セシメ(約1/10)

又左圖ノ如キ傾斜地ハ銃ノ位置ヲ後退セシムルヲ可トス



### 三、陣地選定ノ教育

一般ニ陣地ノ可否ニ關スル教育ハ相當重視シテ教育セラレアルモ陣地ノ選定法特ニ敵彈雨飛ノ中ニ於テ一瞥シテ良好ノ陣地ヲ選定スル爲ノ教育ハ往々等閑ニ附セラレ所謂非實戰的陣地選定法ヲ爲スモ敢テ介意セサルニ至ルコトアリ然ルニ陣地選定ノ良否ハ任務達成上重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ特ニ意ヲ用ヒテ教育スルノ要アルモノトス

#### (一) 教育ノ要領

(1) 本教育ハ特ニ分隊長タルヘキモノニ深刻ニ行フモノニシテ時ト所トヲ論セス屢々實施シ前述ノ陣地選定上著意スヘキ要件ノ如キ期セスシテ想起シ適切ナル判斷ヲ下シ得ルニ至ラシムルヲ要ス  
之カ教育ニハ次ノ區分ニ依リ順序ヲ追フテ實施スルヲ可トス

- 1 狀況ヲ設クルコトナク實施(基礎教育)
  - 2 敵眼ニ遮蔽シツ、實施(特ニ選定ノ動作教育)
  - 3 狀況ニ應スル實施
- (2) 教育ノ準備

1 目標ノ設置

目標ハ相當明瞭ナラシメテ可ナリ目的ニ依リ射撃スヘキ目標ノミナラス動作上顧慮スルヲ要スル他方面ノ目標ヲモ設置ス

2 偵察ハ注意周到綿密ナルヲ要ス

豫メ能ク偵察計畫スルコトナク練兵場ニ臨ム時ハ著眼スヘキ各種事項ヲ含ム陣地ハ容易ニ發見シ難ク又單一事項ニ就キテモ各種ノモノヲ逐次教育スル爲ニハ必ス偵察シ置クヲ要スルモノトス

3 機會ヲ捕ヘテ毎ニ教育スルノ著意ヲ要ス

一演習ニ於テ狀況之ヲ許セハ更ニ部分的ニ復行シヨク其要領ヲ會得セシムルヲ

要ス連合演習等ニ於テハ他トノ關係上往々簡略ニ流ル、モ止ムヲ得サルコトアルヲ以テ後ニ復習的ニ教育スルハ甚タ有利ナリ

(3) 教育ノ實施

1 基礎教育

設置セシ目標ニ對シ如何ナル銃位置ヲ適當トスルヤヲ比較研究シテ選定セシムルモノニシテ教育者ハ豫メ教育スヘキ要件(銃位置選定上ノ著眼)ニ適スル位置ヲ選定シ置キ綿密ニ利害得失ヲ教示ス

イ 同一目標ニ對シ一ハ地物ヲ改造セストモ射撃シ得一ハ少シク改造セハ遮蔽シテ良好ニ射撃シ得就レヲ選定スヘキカ

ロ 遮蔽ニ適スルモ射界狹小ニシテ充分目的ヲ達シ得ス他ハ射界大ナルモ銃手ノ姿勢カ窮屈ナリ

等各種ノ場合ヲ想定シ長ヲ採リ短ヲ補フ方法手段ニ付綿密ニ教育ス

2 選定動作ノ教育

銃位置選定ノ爲如何ニ著眼行動スヘキカノ要領ヲ教育スルモノニシテ主トシテ  
敵眼ニ遮蔽シツ、躍進的ニ行動シ任務ニ適スル銃位置ヲ細密ニ研究決定スルモ  
ノトス

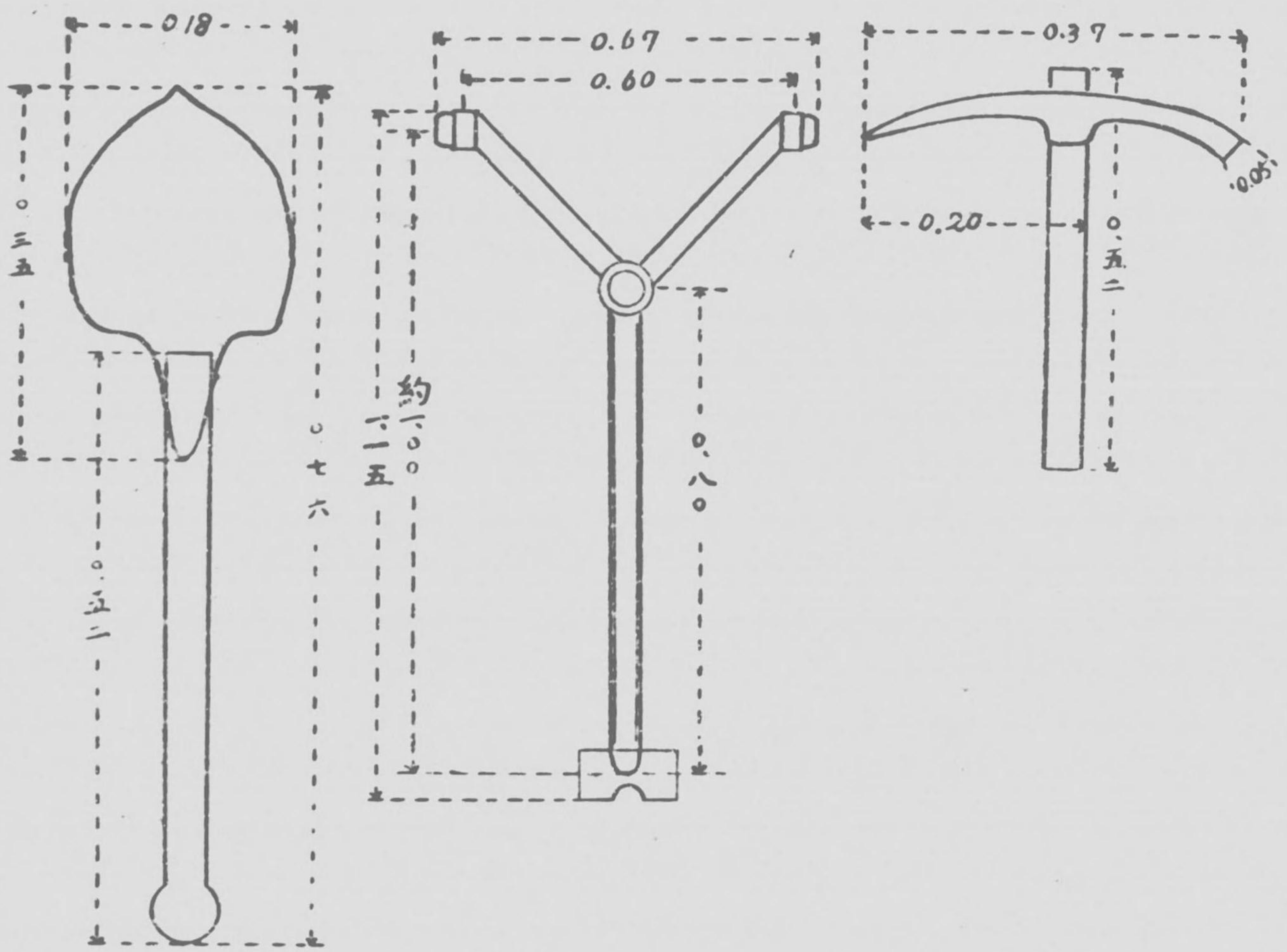
3 狀況ノ下ニ於テ行フ教育

前項ニテ修得セシ要領ヲ狀況ニ適合スル如ク實施セシメ應用能力ヲ向上養成セ  
シムルモノトス

(二) 銃位置決定ノ爲ノ参考事項

(1) 銃位置決定ノ爲必要ナル寸度

1 脚ト器具トノ關係



2 銃身高

最高 〇、五五米

最低 〇、三七米

3 薙射角度 約三十三度半(五分畫半)

4 俯仰角

俯角 約十五度

仰角 約九度

(2) 姿勢ヲ以テスル位置決定法

1 銃ノ姿勢ノ決定

最低姿勢 伏姿ニテ頭ヲ昂起シ目標ヲ見得ル位置

最高姿勢 腹ヲ地ニ著テ兩腕ヲ伸ハシテ目標ヲ見得ル位置

2 脚ノ位置決定

伏姿ヲ以テ兩肘ヲ地ニ著ケ兩手ノ掌ヲ合セテ握リタル姿勢ニ於テ概ネ兩肘ノ位置ハ兩前脚、上衣ノ第二釦ハ昇降軸、膝ノ位置ハ後脚トス

(3) 小十字銃ヲ以テスル位置ノ決定法

1 銃ノ姿勢決定

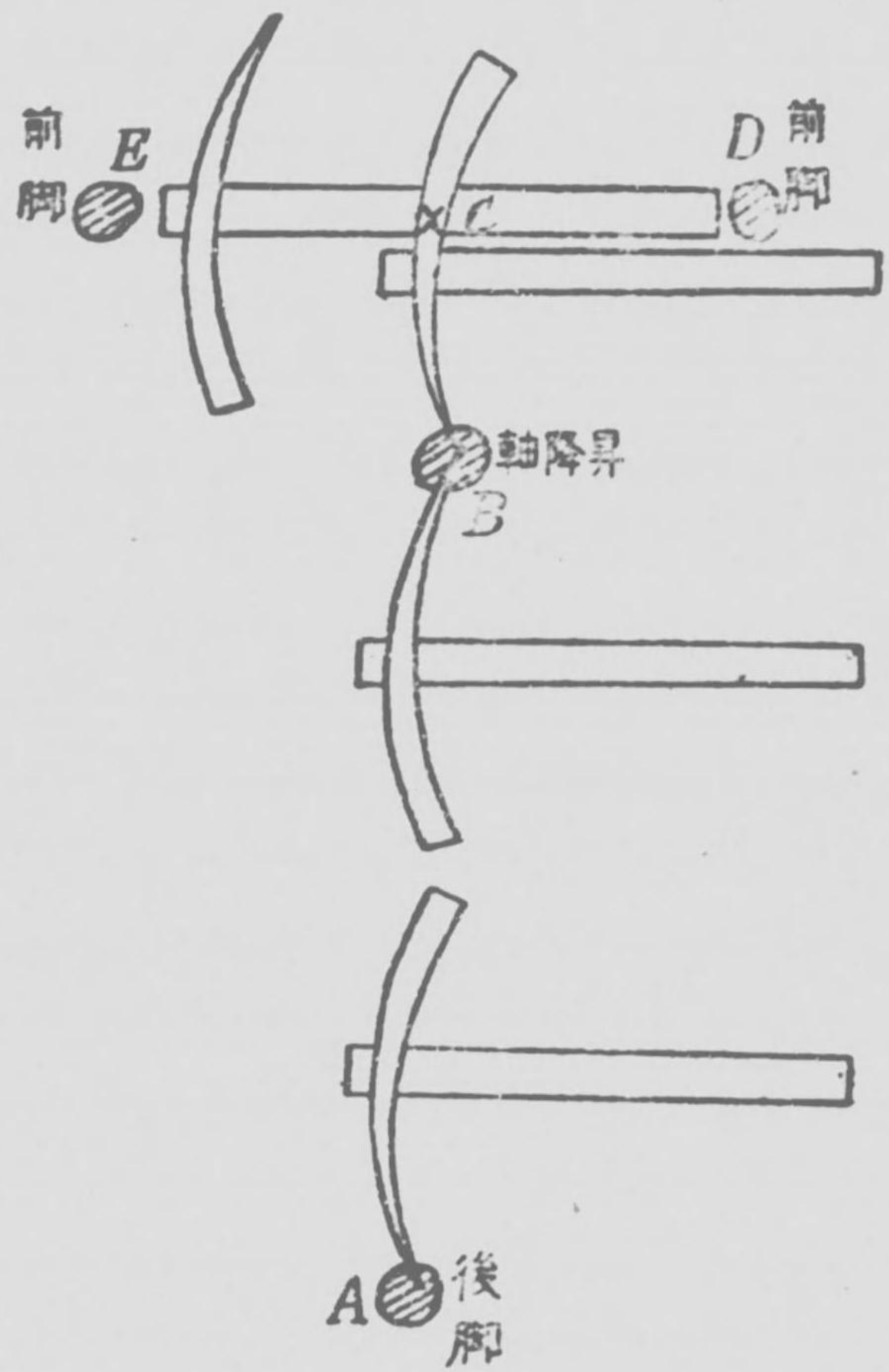
最低姿勢

鐵部ノ長サニ同シ

最高姿勢

柄ノ長サニ略同シ

2 脚ノ位置決定



(4) 小圓匙ヲ以テスル位置決定法

1 銃ノ姿勢ノ決定

最低姿勢 鐵部ノ長サニ同シ  
最高姿勢 柄部ノ長サニ同シ

(5) 最高最低姿勢ニ於ケル公算躲避ノ比較

1 最低姿勢ニ於ケル公算躲避カ最高姿勢ノモノニ比シ小ナルハ言フ迄モナキコトナレトモ、幾何程度ノ差異アルカハ疑問ナリ往年下志津原ニ於テ之カ實驗射撃ヲナセシトキノ判決ハ「殆ント差異ナシ」トアリ  
然ルニ右實驗ハ一回五連乃至十連射撃セリ故ニ射撃操作特ニ照準誤差ノ累加ニヨリ(最低ハ最高ニ比シ操作稍不自由ナルカ故)同一ノ結果ヲ生シタルモノ、如シ

2 一連毎ノ比較ヲ或種ノ實驗射撃ノ成績ニ就テ見ルニ次ノ如シ

| 考 備  |  | 差    | 公算躲避<br>(合成) | 發射彈  | 姿 勢 | 射 距 離 | 射 法   |
|--|--|------|--------------|------|-----|-------|-------|
| 一、此表ハ壓下ニ關スル實驗射撃成績表ヨリ抽出セリ而シテ壓下セサルモノ強ク壓下セシモノニ於テモ三〇〇、五〇〇ニテ八二種乃至一〇〇種ノ差ナルモ七〇〇ニテハ何レモ十七種ノ差ヲ生セリ<br>二、九回ノ平均トス<br>三、平均彈著點ノ偏差ハ大ナル差異ナシ<br>四、植杭シテ堅固ニ据銃ス |  | 3.6  | 20.2         | 各 回  | 最低  | 三〇〇   | 點     |
|  |  |      | 23.8         | 三〇〇發 | 最高  | 五〇〇   | 射     |
|  |  | 2.8  | 41.5         |      | 最低  | 七〇〇   | (緊 定) |
|  |  |      | 44.3         |      | 最高  |       |       |
|  |  | 20.0 | 52.2         |      | 最低  |       |       |
|  |  |      | 72.2         |      | 最高  |       |       |

大正十一年六月 於國王城寺原 最低最高比較表



#### 第四〇四

本條ニハ陣地進入ノ準備ニツキ記載シアリ

火力急襲ハ機關銃ニ於テ最モ緊要ナルモノニシテ殊ニ少數ノ機關銃ヲ以テ多數ノ機關銃ニ對シ優勢ヲ保持スル爲ニハ一ニ此火力ノ急襲ニ據ラサルヘカラス即チ充分準備ヲナシ不意ニ現出シテ穿貫的威力ヲ發揚シ機敏ニ陣地變換シ敵ヲシテ對應ニ暇ナカラシムルヲ要ス

1 分隊長ハ先行スルニ當リ通常三番ヲ同行シ小隊長ヨリ所要ノ指示ヲ受クルヤ三番ニ必要ノ件ヲ指示シ銃位置ヲ設備セシム、此ノ際要スレハ三番ノ動作ヲ補助シ或ハ自ラ設備ニ任スルコトアリ

2 目標指示ノ基點ハ中隊ニ於テ統一セラレアルヲ可トスルモ已ムヲ得サル場合ニ於テモ少クモ小隊ハ統一シ置クヲ要ス

基點ノ數ハ多キニ失スル時ハ却テ錯誤ヲ生シ易ク少ケレハ價值少シ故ニ小隊ノ射擊正面ニ概ネ三個ヲ適當トセン而シテ基點ハ明瞭ニシテ誤ナキモノニシテナルヘク目

標ト同線上ニアルヲ可トス

基點ハ豫メ指示シ得サル時ト雖戰鬪開始後ニ於テナルヘク之ヲ定ムルヲ可トス

3 銃ノ點檢ヲ命スルハ分隊長ノ職責ナリト雖苟モ陣地進入ノ爲分隊長先行セハ銃手ハ命令ヲ待ツコトナク自發的ニ點檢スル如ク教育シ置クヲ要ス

4 分隊長ハ射擊及陣地設備ニ關シ三番ニ所要ノ件ヲ示ス外、陣地進入準備トシテ要スレハ銃手全般ニ左ノ諸件ヲ指示シ、自己ハ銃位置ノ近クニ在リテ敵情ヲ監視シ友軍ト連絡シ分隊全般ノ指揮ニ任ス

(イ) 銃ノ概略ノ位置決定セハ先ツ銃ヲ招致ス

(ロ) 進入經路

(ハ) 進入法

(ニ) 偽裝法 銃位置ヲ偽裝スル場合ハ必要ノ銃手ニ其方法ヲ示シテ設備ヲ命ス

(ホ) 照尺ノ裝置

(ヘ) 銃ノ姿勢

銃ノ姿勢ハ最高(中間)ナル時ト雖豫メ最高(中間)ニスルニアラス只最高ニスル準備(昇降軸緊定桿ヲ弛ム等)ヲナシ置キ且實施ヲ豫知セシメ置クモノトス場合ニ依リテハ豫メ最高(中間)ニナシ置クヲ便利トスルコトアリ

(ト) 豫メ目標ヲ指示ス

後方ニテ遮蔽シテ一般ニ指示シ得ル時ハ全銃手ニ理解セシメ置クヲ可トス

(チ) 射撃ノ目的、陣地ノ移動豫定、使用弾數等豫メ指示シ置クヲ可トスルコトアリ

#### 第四〇五

本條ハ陣地進入法ニ就キ記述シアリ

現今各種兵器ノ進歩ハ機關銃ノ暴露ヲ許サス故ニ單ニ銃位置ノ遮蔽ノミナラス如何ニセハ敵ニ發見セラレス所定ノ陣地ニ進入シ得ルカハ緊要ナル演練項目ナリトス

機關銃ノ陣地進入ハ通常蔭蔽シテ行ハルヘキモノナリ

暴露シテ進入スルハ狀況上特別ノ場合又ハ萬已ムヲ得サル場合ニシテ之等ノ時ハ「速ニ」

「其儘」直チニ等ノ言辭ヲ以テ指示スルヲ可トス

#### (一) 銃ヲ据ウル銃手ニ就テ

抑々銃ヲ一番及四番ニテ搬送セシムルハ三番ヲシテ陣地進入前ニ先行シテ充分射撃ニ必要ナル準備ヲナサシムルト進入直前激動シテ沈靜ヲ缺クコトナカラシメンカ爲ナリ然レトモ銃側ニ必要以外ノ兵ヲ集メシメサル主旨ヨリセハ銃ハ一番及三番ヲ以テ進入スルヲ有利トス故ニ狀況ニ依リテハ一、三番ニテ据銃スルヲ有利トスルコト多シ例セハ左ノ如シ

(1) 進入路遮蔽シアリテ銃ヲ陣地ノ近ク迄招致シタル後進入シ得ル時

(2) 銃ノ移動又ハ近距離ノ陣地變換等ノ場合

(3) 三番ヲ先行セシムルノ暇ナク又ハ敵火先行ヲ許ササルカ如キ場合

歩兵ノ第一線(火線)ニ進出シテ歩兵ト行動ヲ共ニスルカ如キ場合ハ一番、三番ニテ陣地進入スルコト多カルヘシ

(4) 緩ナル稜線ヲ利用スルトキ

#### (二) 不意ニ射撃ヲ開始スル手段

不意ニ射撃ヲ開始スル手段ニ就テハ所有ユル工夫ヲ廻ラシ其目的達成ニ萬全ヲ期セサルヘカラス之カ爲訓練スヘキ事項次ノ如シ

- 1 進入前ニ於ケル充分ナル準備(「第四〇四」参照)
- 2 地形地物ノ利用
- 3 隊形、步度ノ選擇
- 4 偽裝
- 5 特別ノ進入法(匍匐前進、各個躍進)
- 6 狀況、目標等ヲ指示スル位置ト銃ノ進入位置ヲ異ニスルコト
- 7 横方向ノ移動等

### (三) 教育ノ順序

此等ノ教育ハ最初基礎教育ヲ行ヒ後狀況下ニ於テ充分綿密ニ教育スルコト肝要ナリ

#### (1) 基礎教育トシテ實施スヘキ事項

##### 1 匍匐前進ノ要領

一番ハ右手ヲ以テ左前脚ヲ四番ハ左手ヲ以テ右前脚ヲ共ニ下方ヨリ握リ一(四)

番ハ右(左)膝ヲ立テ左(右)手ト右(左)足トヲ以テ身體ヲ推進シ銃ヲ引キ摺リツ

ツ匍匐前進ス

要スレハ三番ヲシテ後棍(後脚)ヲ持タシメ後脚ノ地物ニ拘セサル如ク少シク扛ケシム

又、地物等ニ依リテハ銃ヲ引キ摺ルコトナク三銃手協力シ躍進的ニ進ムコトアリ

彈藥箱ノ搬送法モ教育ス(砂囊ヲ入ル)

匍匐前進ハ應用ノ範圍大ナルヲ以テ熟練セシメ置クヲ要ス

- 2 地物ヨリ地物ヘノ躍進要領
- 3 稜線ノ進入法
- 4 點在セル地物ヲ利用スル法  
(堆土、叢、彈痕等)

## 5 壕ノ前進法

## 6 堤防ヲ横斷スル等一時暴露スル地物ノ通過法

少クモ以上ノ件ニ就テハ部分的ニ進入法ヲ教育シ以テ各種地形ニ於ケル應用ノ基礎タラシムヘキモノナリ

而シテ進入後一般銃手ノ配置ニ著キ方ニモ特ニ留意スルコト肝要ナリ

## (2) 狀況ノ下ニ於ケル教育

同一地形ト雖狀況ニ依リ利用法竝ニ進入法ニ差異ヲ生スルモノトス故ニ基礎教育ノ後ニハ各種ノ狀況ノ下ニ之ヲ演練シ以テ應用ヲ適切ナラシムルヲ要ス

銃位置ノ選定ニハ必ス其進入路、進入法ニ關シ深刻ナル研究著眼ヲ以テ分隊長ノ技能向上ト共ニ銃手ノ地物ノ判斷利用ヲ適切ナラシムル如ク機會ヲ捕ヘテ屢々行フヲ要ス

## (四) 偽裝ニ就テ

地形地物ノ利用スヘキモノナク我行動ヲ敵ニ發見セラル、ヲ防ク爲有效ナルハ偽裝ナ

リトス

偽裝トハ偽工事、假裝、遮蔽ヲ總稱ス

陣地進入ニ際シ研究スヘキハ主トシテ其行動ノ秘匿ナルヲ以テ假裝及遮蔽ナリ

## (1) 遮蔽

分隊長銃ノ位置ヲ選定スルニ際シ其位置敵眼ニ暴露スル虞アル時ハ豫メ遮蔽ノ設備ヲナスヲ可トス

其方法ハカメテ自然ニ調和セシメ之カ爲ニ却テ明瞭ナル目標ヲ呈セサル様注意スヘシ設備ノ位置ハ銃ニ餘リ近接セサルヲ要ス

又進入路上一部敵眼ニ暴露スル所アル時ハ簡單ニ遮蔽工事ヲナシ得ハ甚タ有利ナリ

## (2) 假裝

假裝ハ銃材料及銃手ヲシテ附近ノ地物ト同色ニ迷彩スルニアリ之カ爲偽裝網ヲ用フルハ比較的有效ナリ

銃手ハ偽裝網ヲ有セサル場合ニ於テモ成ルヘク草木、樹枝等ヲ以テ身邊ヲ覆ヒ殊ニ帽子ノ庇、鉢巻等ノ陰影ヲ消ス如ク勉ムルヲ要ス  
 假裝セルモノ、行動ハ敏速ナラサルヲ可トス附近ノ地物ト同色ニシテ一見如何ナルモノナルヤ判明シ難キ時ト雖急速ニ移動スレハ忽チ敵眼ニ映シ爾後發見ノ動機ヲ與フルコトアリ

此等ノ偽裝ヲ施スモ天空殊ニ寫真機ニ對スル秘匿ハ充分ナラサルヲ以テ陰影其他天空ニ對スル地物利用ニハ充分注意スヘシ

### (3) 偽裝網ノ携行

偽裝網ヲ使用スルトセハ平素携行スルヲ要ス携行法ノ一案ヲ示セハ左ノ如シ  
 行軍間ハ背囊ノ天幕下ニ縛著ス卸下セハ外套ノ如ク右肩ヨリ左腋下ニ掛ク

(4) 偽裝網ニハ時間ニ餘裕アラハ各人ニ於テ草、樹葉等ヲ附著スルヲ可トス  
 時間ニ餘裕ナク其儘使用スルモ價值アリ爾後逐次草類ヲ附ケ偽裝ヲ有利ナラシム  
 ヘシ

### (五) 銃手ノ位置、姿勢

地形地物ヲ利用セル場合銃手ノ姿勢位置ハ任務ヲ妨害セサル限り遮蔽ニ便ナル如ク自由ニ選定スルモノトス

### (六) 陣地進入ノ教育ニ當リ一般ニ著眼スヘキ事項左ノ如シ

#### 一、分隊長

- 1 分隊長ノ進入路ノ選定可ナルヤ
- 2 遮蔽ニ對スル著意アリヤ
- 3 三番及他ノ銃手ニ對スル目標、狀況ノ指示簡明適切ナリヤ
- 4 陣地進入ノ區署適切ナリヤ
- 5 敵情監視ノ方法、友軍トノ連絡等可ナリヤ

#### 二、三番

- 1 目標、狀況等ノ了解迅速確實ナリヤ
- 2 銃位置ノ設備適當ナリヤ

3 進入ニ當リ一、四番トノ連繫協同適切ナリヤ

4 射撃準備完了迅速ナリヤ

5 姿勢堅確ニシテ適當ナリヤ

三、一番及四番

1 銃ノ搬送法適當ナリヤ

2 示サレタル位置方向ニ正シク据ウルヤ

3 一番ノ裝填準備適切ニシテ裝填動作迅速確實ナリヤ

4 四番ノ占ムヘキ位置適當ナリヤ

四、二番

1 進出ノ時機適當ナリヤ

2 任務達成ノ著意適切ナリヤ

五、五番乃至八番

1 彈藥箱ノ搬送法適切ナリヤ

2 位置適當ナリヤ

3 補充ニ關シ顧慮アリヤ

六、全般

1 志氣ノ振否、對敵觀念ノ有無

2 銃手ノ協同ノ良否

3 分隊長ノ意圖ノ徹底

4 銃手ノ獨斷能力

5 射撃準備ノ遅速、點檢ノ著意

6 諸材料ノ配置ノ適否

(参考)

地形地物ノ利用ニ就テ

一、要旨

地形地物利用ノ主眼ハ銃ノ安定ヲ良好ニシ敵彈敵眼ニ對シ掩護遮蔽ノ利益ヲ收メ且銃手ノ動作ヲ容易ナラシムルニ在リ而シテ其利用ノ方法ニ至リテハ當時ノ狀況地形地物ノ状態ニヨリ千差萬別ナルヘキモ要ハ敵ノ不意ニ乘シ有效ナル射撃ヲ實施シ且其位置ヲ秘匿スル如クスルニ在リ

地形地物ノ利用ニ關シ著眼スヘキ事項ハ種々アリト雖モ狀況ニ適合シ地物ニ捉ハレサルヲ第一要件トス此等ハ分隊長以上ノ技能ニ俟ツヘキモノ大ナルモ銃手ニ至ルマテ地物利用ノ要領ヲ會得セシメ置クコトハ極メテ緊要ナルコトナリ以下戰場ニ於テ遭遇ヲ豫期スル主ナル地形地物ニ就キ其要領ヲ記述セントス

## 二、教育上注意スヘキ事項

- 1 形式ニ拘泥セス狀況ニ應シ充分活用セシムルヲ要ス
- 2 最初ハ基礎的利用法ヲ教育スルモ必ス陣地進入、射撃、陣地變換等ト連繫シテ圓滑ニ實施シ得ル如ク演練スルヲ要ス
- 3 必ス目標ヲ設置シテ行フコト肝要ナリ但シ只單ニ脚ノ据エ方等部分教育ヲ行フ時

ハコノ限リニアラス

- 4 本教育ニ於テハ陣地選定ノ可否ト選定セル陣地ニ於ケル利用法ノ可否トヲ混用スルコトナク適切ニ教育スルノ著意ヲ要ス
- 5 地形地物ヲ利用スルニ當リテハ銃位置、進入法、彈藥補充、陣地變換等ニ就テ其適否ヲ考察スルヲ要ス
- 6 地物ヲ改造スルトキハ先ツ遮蔽ノ處置ヲナス等敵ニ發見セラレサルノ注意ヲ要ス

## 三、小地物

一塊ノ土、一株ノ樹木ト雖モ利用スルノ觀念ヲ要スルモノニシテ此ノ小地物ノ利用ハ其主旨ニヨリ實施スルモノトス

利用ノ要領並注意事項

- 1 豫メ練兵場ニ各種ノ小地物ヲ設置シ之ニ就キ各種ノ利用法ヲ周到綿密ニ教育シ其ノ利害得失ヲ充分ニ理解セシム
- 2 土地ト三脚架及銃手トノ關係ハ陣地選定ノ部ニ述ヘタルモノト同シ

此等ハ實際ニ各人ニ體驗セシムルヲ要ス

- 3 小ナル土塊若ハ小叢ハ之ヲ銃及三番ノ掩體トシテ利用スヘキヤ或ハ彈藥箱及一番ノ利用ニ供スヘキヤハ狀況ニヨリ一定シ難シ一ニ當時ノ狀況ニ因ルモノトス
- 4 一般ノ著眼ハ銃位置選定ノ部ニ述ヘタルモノニ同シ

#### 四、堆土

堆土ハ大小、高低ニ應シ銃及三番、彈藥箱及一番或ハ全部ノ掩護若ハ横牆的ニ利用スル等ノ方法アリ

#### (一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 特ニ敵線ノ標示ニ留意スルヲ要ス  
是レ仰角ノ關係敵火ノ位置ニ依リ其ノ利用ニ差異ヲ生スルヲ以テナリ
- 2 掩護ノ確實ヲ期スル爲成ルヘク地物ニ接近シテ利用スルヲ可トス
- 3 進入ニ際シ發見セラレサル様注意スヘシ之カ爲他ノ部分ニ偽裝スル等ノ著意ヲ要ス

- 4 堆土ノ頂上ニ銃ヲ据ウル時ハ却テ目標トナリ易キコトアリ工事ニ時間ヲ要スル場合ハ寧ロ横牆的ニ利用スルヲ可トス

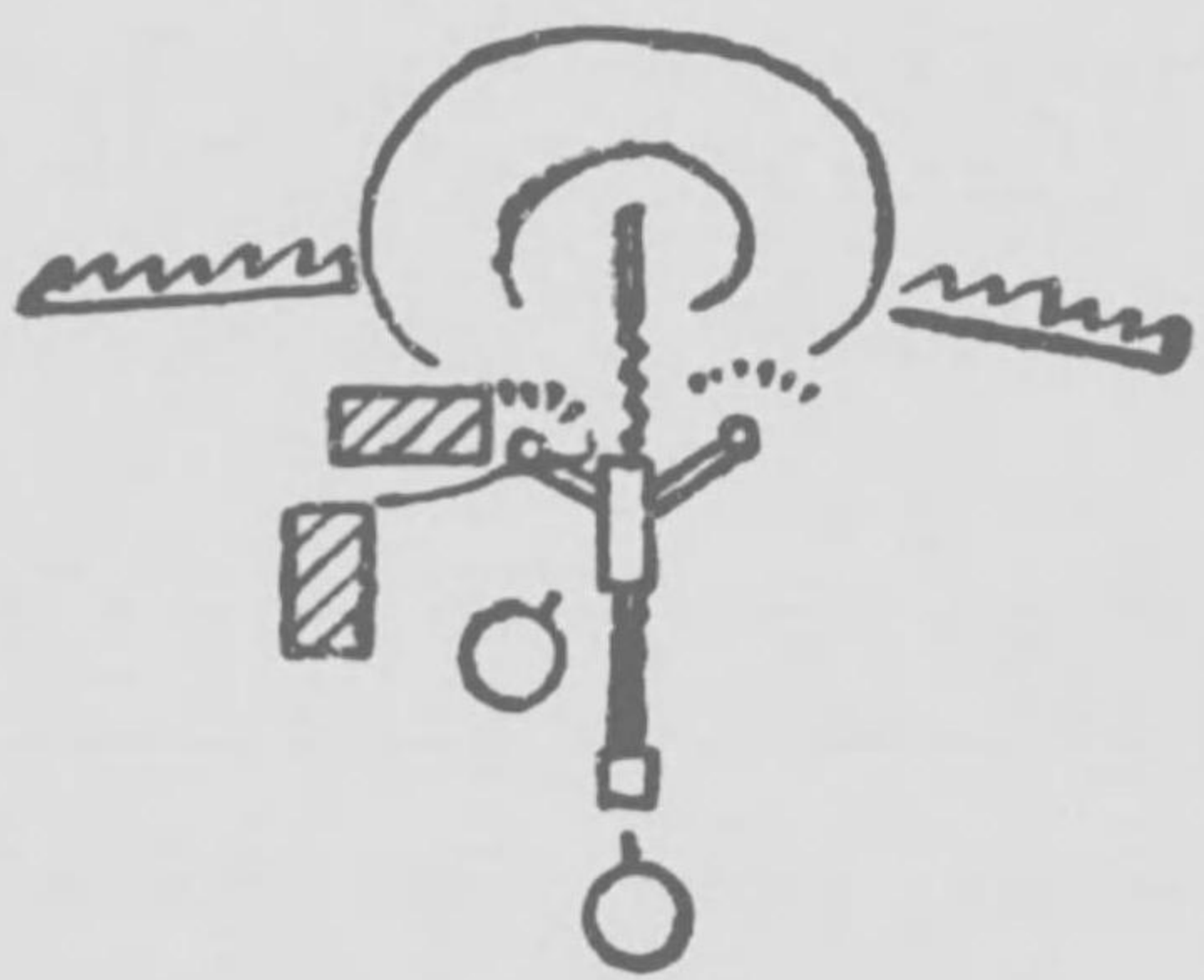
#### (二) 利用ノ要領

##### (1) 小堆土ノ利用



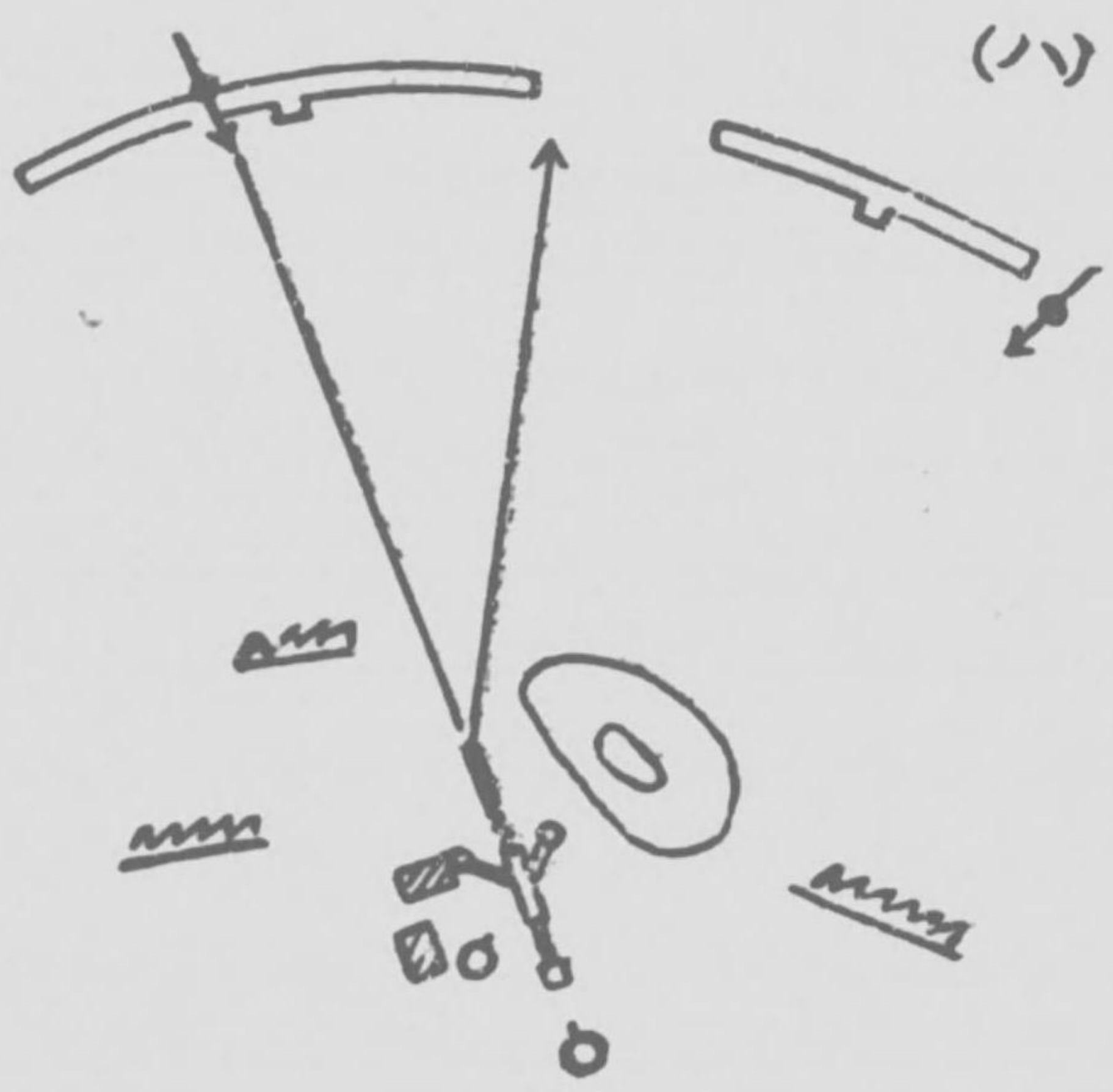
- 1、射界ヲ廣潤ニスル爲銃ハ成ルヘク堆土ニ近接セシム
- 2、前棍ハ脱スルヲ要ス
- 3、左前脚ノ位置ニ加工ヲ要スル場合多シ
- 4、裝填動作ヲ妨害セサル様注意ヲ要ス

(ロ)



- 1、銃口ヲ土面ヨリ適度ニ離ス注意ヲ要ス
- 2、銃ノ俯角ヲ顧慮スヘシ
- 3、前棍ヲ脱シ進入スヘシ
- 4、進入ニ際シ銃口ヲ突込マヌ様注意スヘシ
- 5、堆土ノ高サ約五十糎以下ナルトキハ其儘ニテ可ナルモ五十糎以上ノ場合ハ脚ノ位置ヲ高ムルカ(俯角顧慮)上面ヲ削取スルヲ要ス





1、上圖ノ如キ場合屢々生スヘシ

(2) 大ナル堆土ノ利用

- 1 横牆的ニ利用ス
- 2 上方ヲ利用スル時ハ所要ノ工事ヲ要ス
- 3 敵ニ発見セラレサル注意特ニ必要ナリ

五、林 緣

森林ノ景況特ニ樹木ノ粗密度、地上雜草繁茂ノ状態ニ應シ射撃ト遮蔽トヲ顧慮シ林緣

ヲ利用スル方法ヲ教育ス

(一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 射撃ヲ妨害セサル限リ林緣ヨリ後退スルヲ要ス
- 2 爾後ノ目標變換ヲ顧慮スルヲ要ス
- 3 樹木ノ爲藥莢ノ反跳セサル様注意スヘシ
- 4 林緣ニ並行ニ行動スルコトヲ避クヘシ
- 5 同一地點ニ於テ大ナル射界ヲ得ントスルハ過望ナリ  
故ニ迅速ナル位置ノ小移動ニヨリ目標ヲ變換シ得ル如ク豫メ計畫シ實施セシムル  
如ク教育スルヲ可トス

要ス

- 7 匍匐前進、各個躍進、陣地變換ノ要領ヲ教育スルモノトス

(二) 實施要領

- 1 分隊長ハ森林疎密ノ度ニ應シ敵ヨリ發見セラレサル程度(十米乃至二十米)ニ於テ分隊ヲ止メ三番ヲ伴ヒ先行シ銃ノ位置ヲ選定ス
- 2 匍匐前進ヲ以テ進入セシムル場合ハ通常ノ通り實施ス
- 3 各個躍進ノ方法(密林ニ於ケル一例)

○分隊長ノ下ス號令(先行ニ際シ豫メ準備ヲ令シ置クコトアリ)

「各個躍進」 「銃前へ」 「一番前へ」

○銃手ノ動作

「各個躍進」ノ令ニテ一番ハ前棍ヲ脱シ五番ヨリ彈藥箱ヲ受領ス

四番ハ後棍ヲ脱シ銃、脚携行ノ準備

五番ハ彈藥箱ヲ一番ニ渡シ七番ヲ補助ス

「銃前へ」ニテ四番ハ銃(脚共)ヲ抱キ上ケ分隊長ノ位置へ搬送シ指定ノ場所ニ置キ直ニ後退ス

三番ハ直ニ銃位置ニ就キ射撃ノ準備ヲナス

「一番前へ」一番ハ彈藥箱ヲ抱キテ要スレハ匍匐シテ銃側ニ至リ定位置ニ就ク爾後四番(前後棍ヲ運ヒ)ハ定位置ニ就キ六番ハ彈藥箱ヲ銃側ニ送ル

注意 (1) 三番先行シタル時ト雖モ一旦銃側ニ歸シ四番ノ動作ヲナサシムルヲ有利トスル場合少カラス

(2) 二番ハ通常分隊長先行ト同時ニ任務ニ就ク

(3) 前後棍ハ適時定位ニ置クカ或ハ分隊長ノ指定シタル位置ニ整置ス

(4) 各銃手ノ動作ヲ制式的ニ定メタルモ此等ハ要スレハ分隊長ニテ直接「前棍取レ」「銃ハ四番搬送」「一番ハ五番ノ彈藥箱取レ」等命令シテモ可ナリ

要ハナルヘク小數ノ人員ヲ以テ射撃準備ヲ完了セシメントスルニ在リ

狀況急ヲ要スル等ノ場合ハ必スシモ此ノ方法ニ據ラサルモノトス

4 陣地變換(撤退)概ネ進入ト反對ノ順序ニ行フ

## 六、稜線

稜線ハ機關銃ノ陣地トシテ利用セララルル場合極メテ多ク從テ之カ利用ハ銃手ニ至ルマ

テヨク理解シアルヲ要ス

(一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 最初ハ適當ナル位置ノ選定、進入方法ノ判斷等部分教育ヲナスヲ可トス
- 2 教育上ノ一手段トシテ適當ナル利用法、不適當ナル利用法ヲ比較シ體驗セシメ要スレハ敵方ヨリ觀察セシムレハ有效ナリ
- 3 稜線ハ斜面ノ緩急、地物ノ状態ニ因リ進入法ニ差異アルコトヲ了解セシムヘシ
- 4 位置ハ遮蔽度ヲ深カラシムル爲通常最高トスルヲ可トス  
最高、最低姿勢ノ利害左ノ如シ

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 最 | 高 | 利 | 害 |
|---|---|---|---|

|       |         |
|-------|---------|
| 遮蔽度深シ | 命中精度稍劣ル |
|-------|---------|

|         |         |
|---------|---------|
| 銃手ノ動作容易 | 命中面積大ナリ |
|---------|---------|

後方ノ連絡容易

|   |   |       |
|---|---|-------|
| 最 | 低 | 利害相反ス |
|---|---|-------|

5 銃ノ撤退法ト連繫シ行動ヲ秘匿シテ銃位置移動ノ要領ヲ演練スルヲ要ス

(二) 利用ノ要領

1 分隊長ハ立姿ノ儘稜線ヲ超エテ敵ヲ見得ルニ至レハ爾後注意シテ漸次姿勢ヲ低クシ最後ニハ匍匐シテ稜線ニ近ツキ銃位置ヲ選定ス

此ノ際單ニ前方ノミナラス側方ニ對シテモ願慮スルヲ要ス

2 銃位置決定セハ稜線ノ後方適當ノ所マテ銃ヲ招致シ進入ニ關スル所要ノ準備ヲナサシム

準備ノ爲三番ヲ歸スヲ可トスル場合多シ

(訓練至レルモノハ分隊長ノ命ナクトモ逐次稜線ノ後方ニ銃ヲ推進シ來ルニ至ル)

3 通常匍匐前進シテ進入セシム

4 前進中ハ銃ハ最低姿勢ナルヲ可トスルモ直ニ最高ニナシ得ル如ク緊定桿ヲ緩メ置クヲ要ス

5 後棍ハ後方適宜ノ位置ニテ脱セシム後棍ヲ脱セシ位置遠キトキハ後刻四番ヲシ

テ運ハシム

- 6 豫定位置ニ近ツケハ四番ト三番ト交代セシムルヲ可トスルコトアリ（三番ヲ歸サ、ル場合）

### 七、堤防

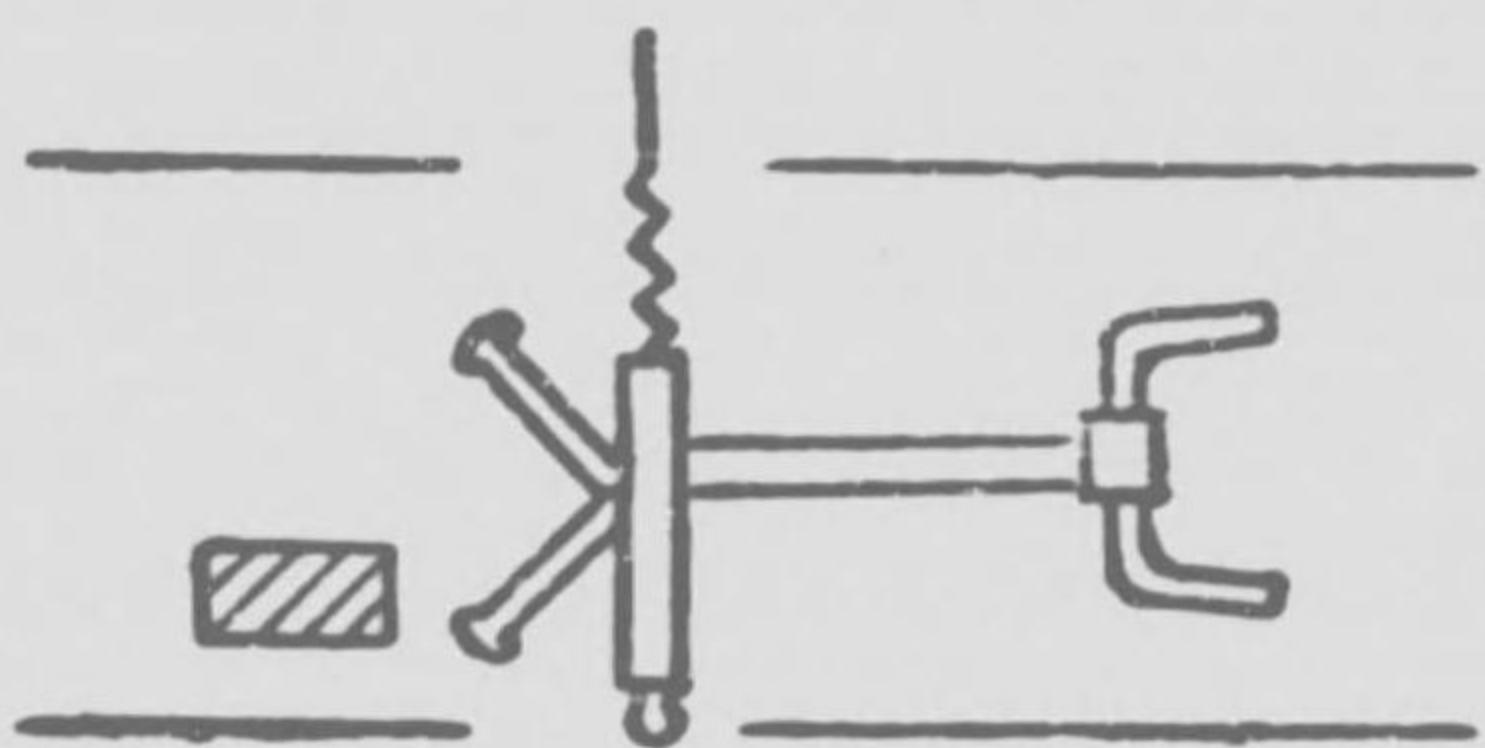
堤防ハ高サ、斜面ノ傾度、上幅等ニ應シ利用ノ方法ヲ異ニスルモ茲ニハ堤防上ニ銃ヲ据ウルモノニ關シ其要領ヲ記述ス

#### (一) 教育上著意スヘキ事項

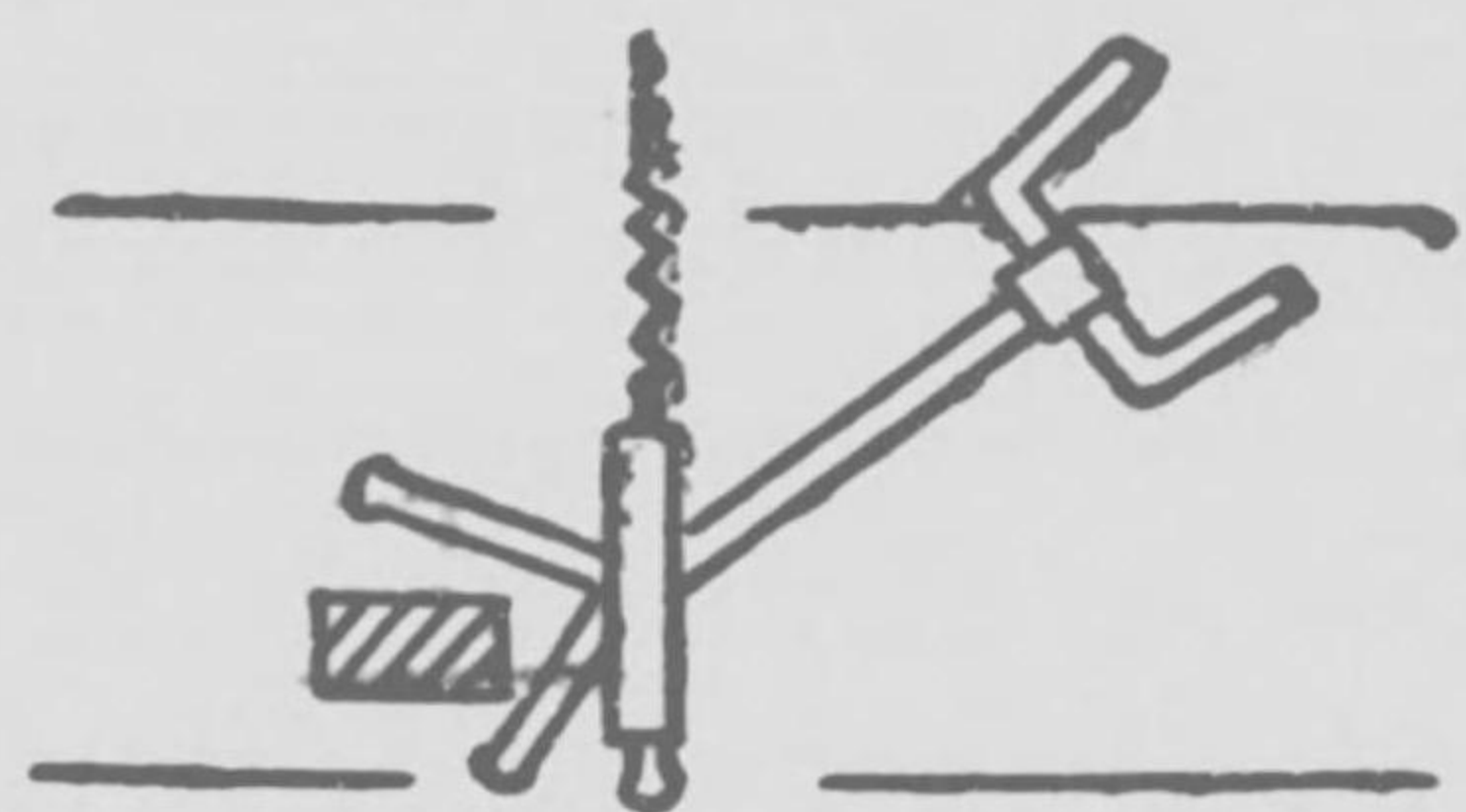
- 1 各種ノ堤防ニ就テ其利用法ヲ基礎的ニ教育シ克ク利害得失ヲ會得セシム
- 2 堤防ヲ利用スル場合ハ通常駐螺桿射撃（射撃教範第五十七ニ示ス方法ヲ略稱ス以下同シ）ヲ行フヲ以テ特ニ其要領ヲ會得セシムルヲ要ス
- 3 据銃ニ際シ姿勢ヲ高クセサル如ク注意スヘシ
- 4 据銃ニ際シ銃ノ安定不良ナルヲ以テ銃手ノ協同ハ特ニ緊密ナルヲ要ス尙其際銃口ヲ土地ニ衝突セシメサル如ク注意スヘシ

- 5 彈藥箱ヲ堤防上ニ置クハ發見セラレ易シ要スレハ發見セラレサル如ク處理スルヲ可トス

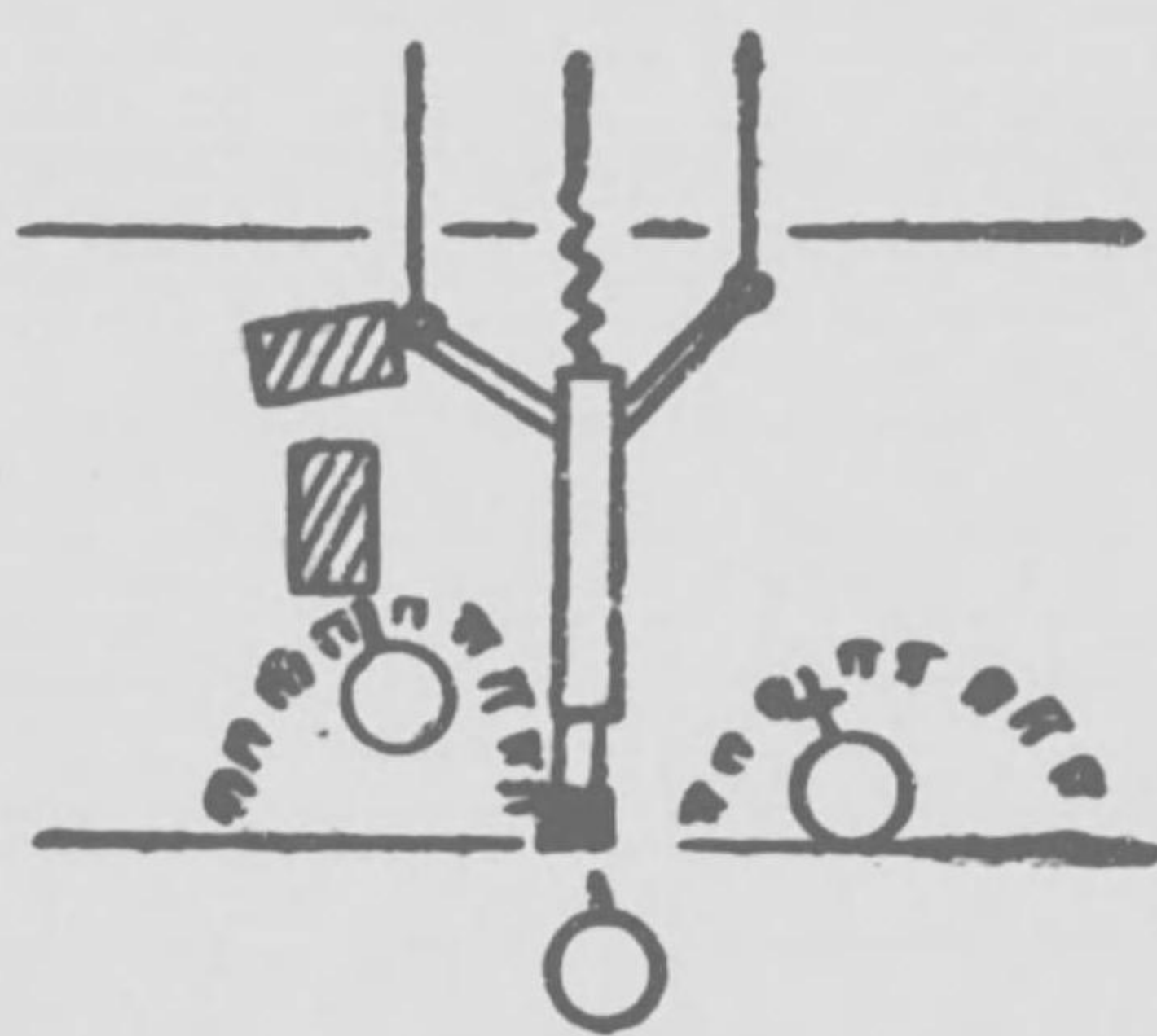
- 6 銃ハ低姿勢ヲ可トス高姿勢ハ安定不可ナリ
- (二) 利用ノ要領



此ノ際前方脚ニ土囊ヲ載スル時ハ脚ノ躍動ヲ少クスルコトヲ得



銃ノ方向ヲ成ルヘク一方前脚ノ方向ト一致セシムレハ命中效力ヲ増大ス  
提上ノ幅員之ヲ許セハ斯クノ如クスルヲ有利トス



上幅ノ幅員通常ノ如ク据銃シ得ル時ハ射撃效力上ハ極メテ有利ナルモ一番ノ暴露ヲ避クル爲加工ヲ要スル不利アリ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テモ駐螺桿射撃ヲ行フヲ有利トスル場合少カラス

(三) 据銃ノ要領

1 分隊長ハ堤防ノ直後迄銃ヲ搬送セシメ「駐螺桿射撃前棍脱レ」ト豫告ス

2 一番ハ前棍ヲ脱シニ番ハ駐螺桿ヲ右轉シテ齒弧ヲ脱シ之カ準備ヲナス

3 一番ハ左前脚、四番ハ右前脚、三番ハ左手ヲ以テ握把右手ヲ以テ後脚ニ近ク後棍ヲ把リ三名相協同シテ前脚ヲ堤防ニ上ク

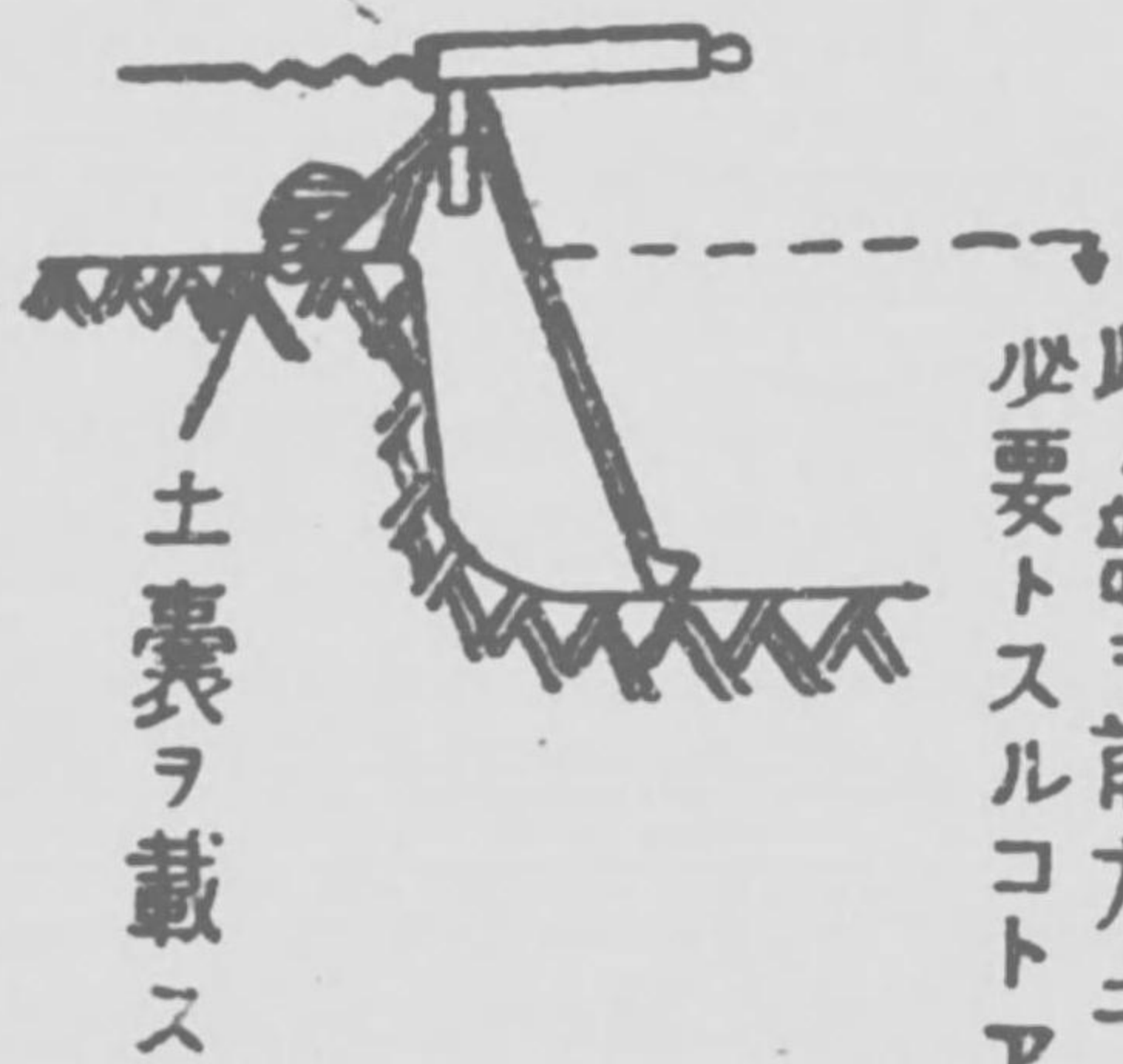
4 四番ハ直チニ前脚ヲ放チ右手ヲ以テ下方ヨリ左手ヲ以テ上方ヨリ後棍ヲ把リ左前脚ヲ軸トシテ後脚ヲ右方ニ旋回シ之ヲ堤防上ニ置ク此際三番ハ銃把ヲ保持シ此

動作ヲ幫助ス

情況ニ依リ次ノ如キ利用ヲナスコトアリ

後脚ヲ折疊シテ行フモノニシテ萬止ムヲ得サル場合ノ方法トス

此ノ部ヲ前方ニ押スヲ必要トスルコトアリ



土嚢ヲ載ス

## 八、散兵壕

一般歩兵ノ散兵壕ヲ利用シテ銃ヲ据ウル要領ヲ教育シ置クヲ要ス

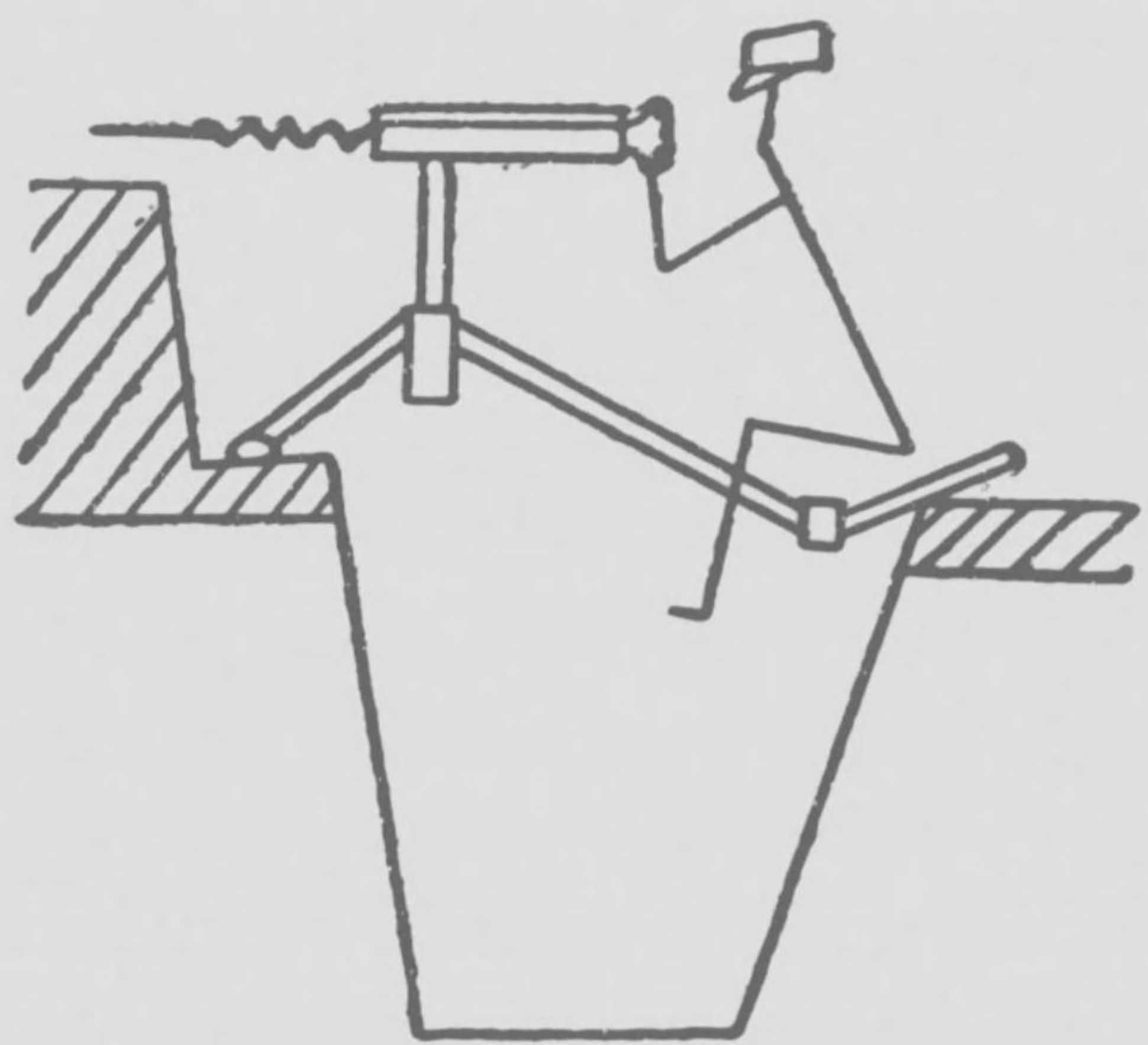
### (一) 教育上著意スヘキ事項

1 散兵壕ノ利用ハ其ノ形狀及射撃ノ目的、準備時間ノ長短等ニ依リ各種各様ノ方  
法アリ

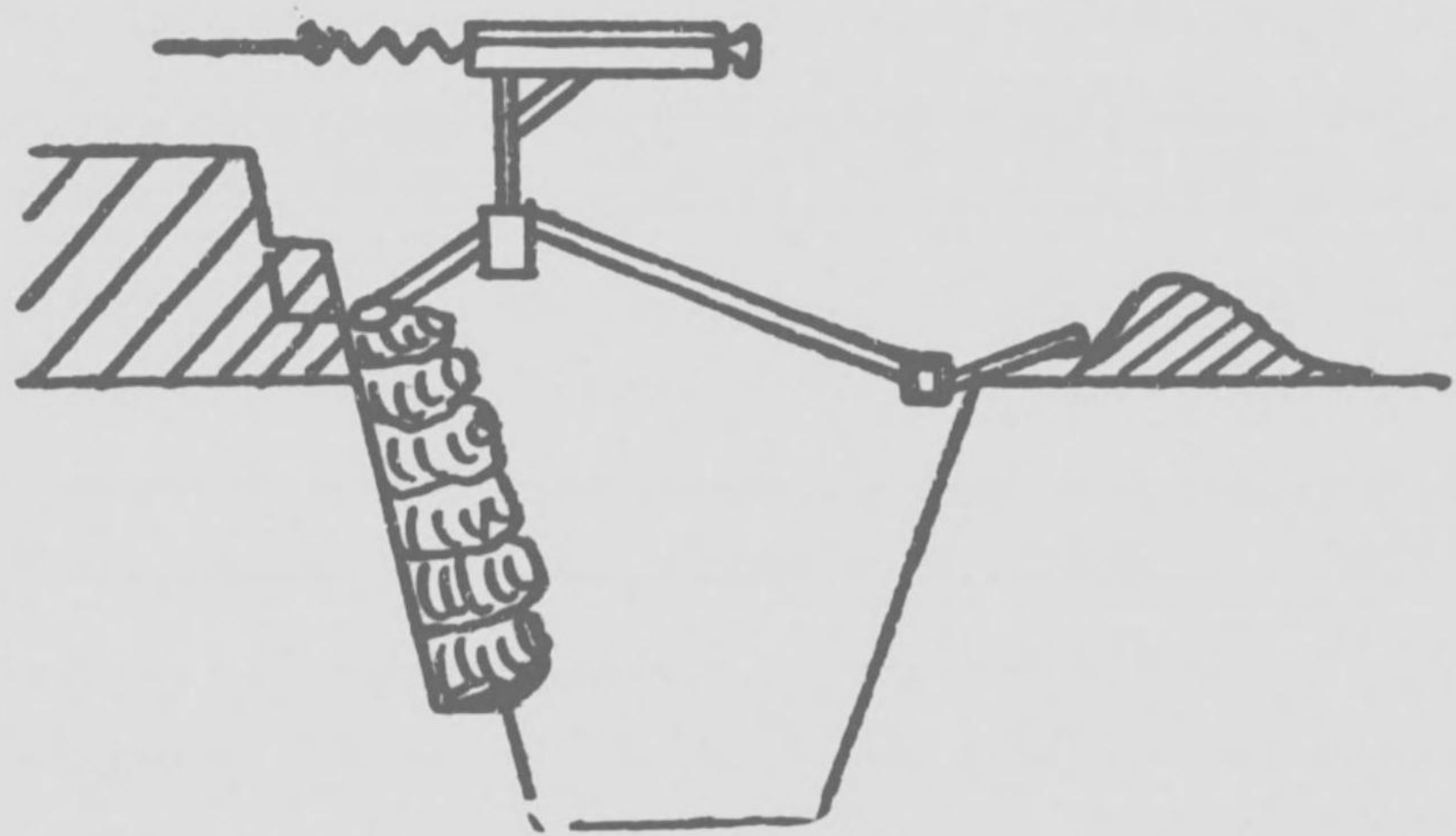
此等ニ就テ先ツ主ナルモノ、要領ヲ基礎的ニ教育スルヲ要ス

- 2 散兵壕ノミナラス胸墻背墻等ヲモ利用スルコトモ訓練シ置クヘシ
- 3 散兵壕、交通壕等ヲ利用セシ場合ニハ交通ヲ妨害セサル如ク注意スヘシ
- 4 据銃法ハ特ニ意ヲ用ヒテ教育シ熟練セシメ置クヲ要ス

### (二) 利用ノ要領

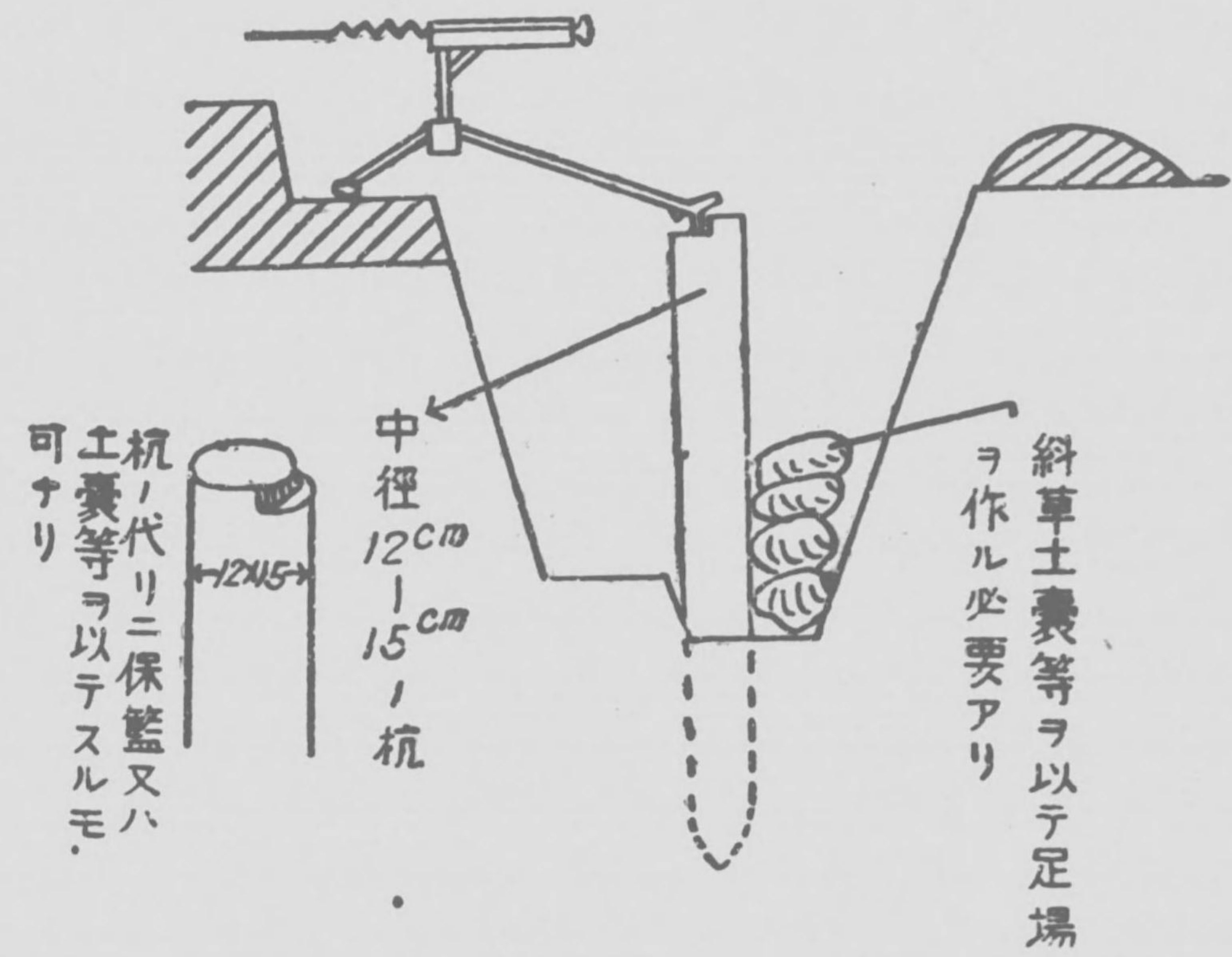


土質ニヨリテハ  
土囊ヲ以テ前脚  
ノ位置ヲ堅固ニ  
スルヲ可トス



### 輕機關銃座ノ利用

前脚ノ位置ヲ若干前方ニ進ムル如ク掘開シ且一番ノ位置ノ爲適當ニ左前崖ヲ切り落ス



### 胸墻ノ利用

堤防ノ利用法ニ準ス

## 九、家屋

市街戰又ハ住民地ニ於ケル戰鬪等ニ於テ利用スル場合多シ故ニ其利用ノ要領ヲ教育シ置クハ緊要ナリ

### (一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 家屋内ノ利用ト家屋上ノ利用トニ就キ區分シ教育スルヲ要ス
- 2 屋内ハ單ニ遮蔽ノミニ利用スルモノト掩護ノ目的ヲモ達シ得ルモノトアリ利用ニ當リ注意スルヲ要ス
- 3 利用法ハ使用時間ノ多少ニヨリ差異アリ故ニ應用ノ伎倆ヲ養成スル如ク意ヲ用フルヲ要ス
- 4 銃位置ノミナラス進入路及彈藥補充ノ設備要領ニ就キテ教育スルヲ要ス梯子ハ強度大ナルヲ要ス

5 屋上ノ利用ノ要領ハ急傾斜ノ堤防ノ斜面等ヲ利用シテ其要領ヲ教育スルヲ可トス

6 屋上ヲ利用スル場合ハ滑走ヲ豫防スル爲所要ニ應シ瓦ヲ除クヲ可トス

7 危険豫防ニ特ニ注意スヘシ之カ爲要スレハ脱靴シ或ハ登降ニ補助者ヲ使用スル等ノ處置ヲ要ス

(二) 利用ノ要領

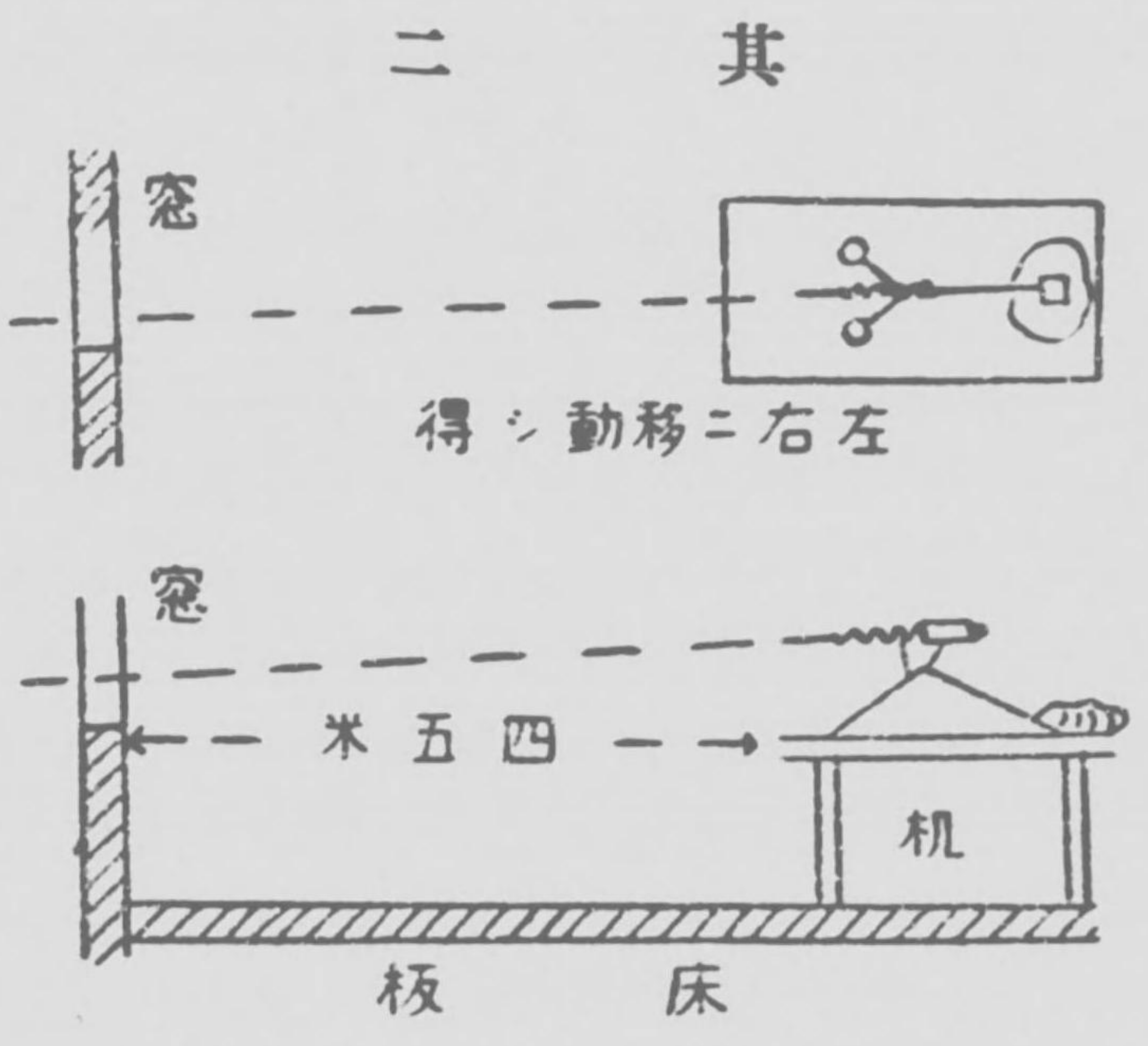
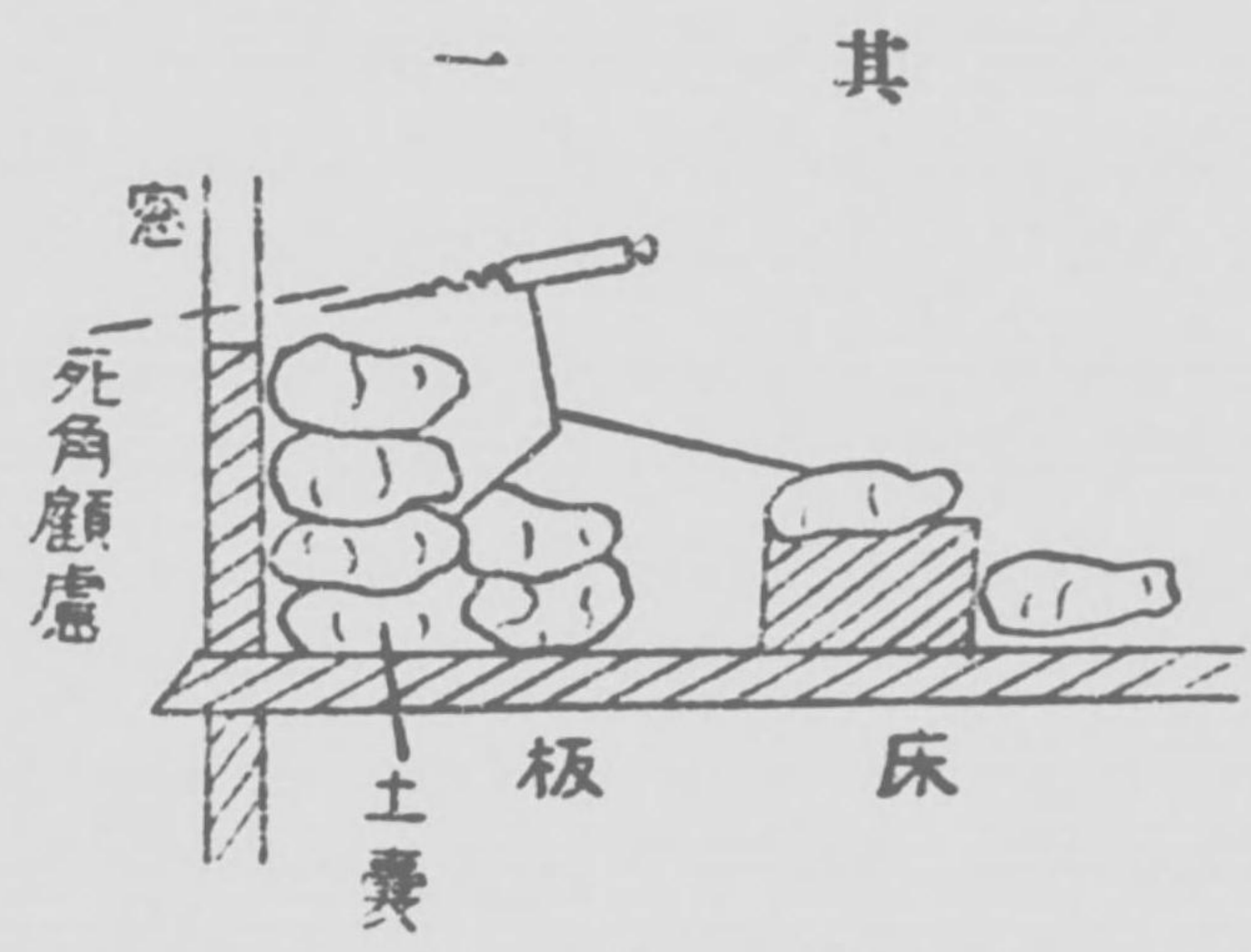
一 屋内ノ利用

1 使用セル窓ハ閉鎖スルヲ可トス

2 出來得レハ窓ハ全部閉鎖シ新タニ銃眼ヲ穿ツヲ可トス

3 壁、窓等ハ要スレハ土囊等ヲ以テ掩護ヲ確實ナラシムル如ク補強スルヲ要ス

窓ヲ利用スル法ノ一例



二 屋上ノ利用

1 特ニ遮蔽ニ注意スヘシ

2 土囊ヲ屋上ニ上クルニハ特ニ頑丈ナル梯子ヲ使用スルヲ要ス

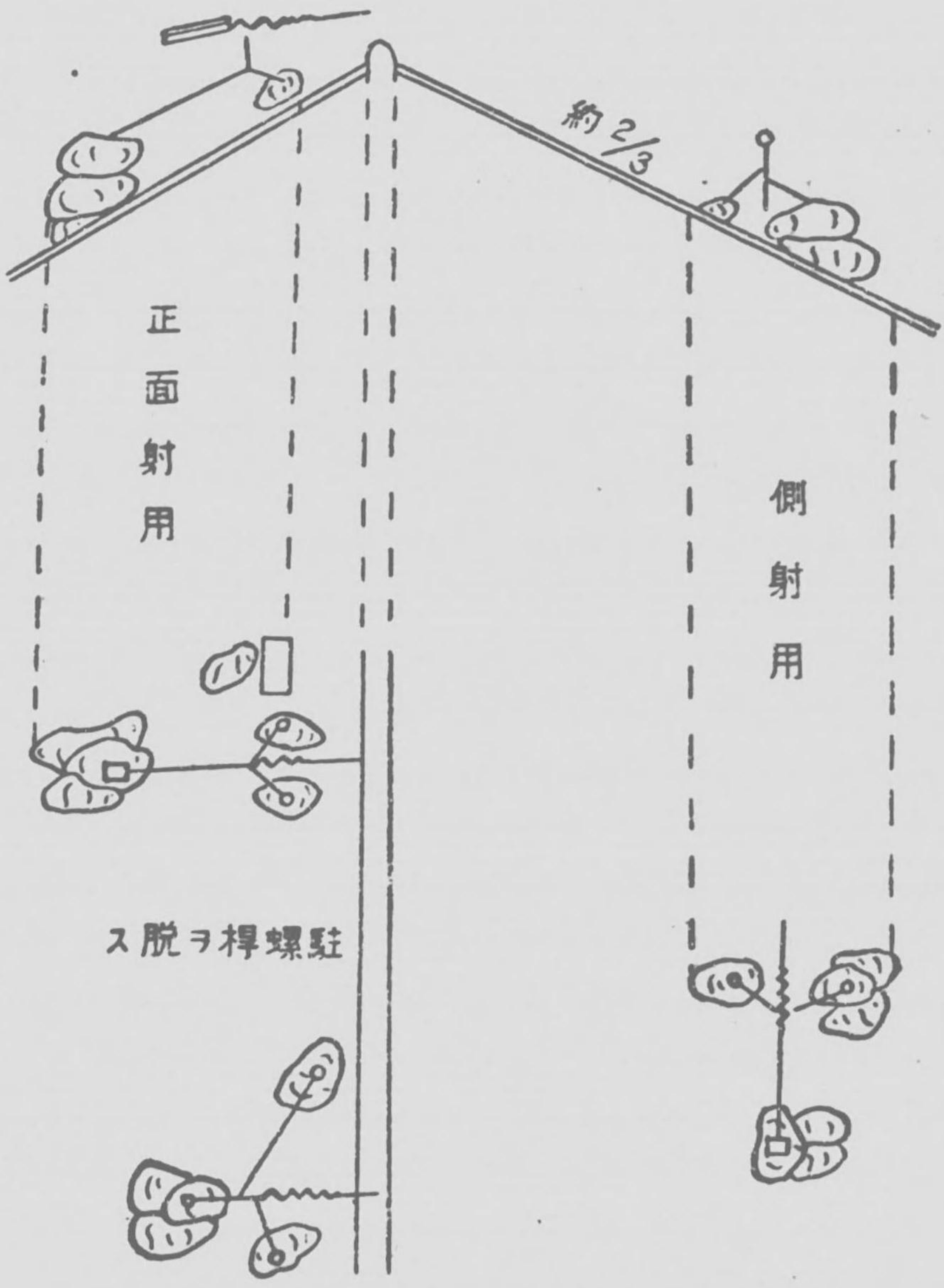
3 土囊ヲ使用シ得サル時ハ嶺ニ据銃スルノ止ムヲ得サルニ至ルヘシ

屋上利用法ノ一例



### 十、耕作地

粗鬆ナル土地ナルヲ以テ脚ヲ固定スルコト必要ナリ而シテ此等ノ場合ハ比較的多キモ  
ノトス



- 1、屋上ニ銃、彈藥箱ヲ上クル  
爲梯子及網等ヲ必要トス
- 2、死角ヲ顧慮ス
- 3、滑走セサル處置

#### (一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 土囊等ヲ以テ位置ヲ堅固ニナシ得レハ有利ナリ
- 2 自然地ヲ其儘銃位置トスルコトモ教育シ置クヘシ
- 3 射撃ニ當リ砂塵飛揚防止ノ方法ヲ講スルコトヲ忘ルヘカラス
- 4 銃腔及銃尾機關及彈藥ノ保護ニ注意スヘシ

#### (二) 利用要領

- 1 下面ヲ踏固ス
- 2 土囊ヲ用フ
- 3 自然地上ニ前後棍ヲ付ケタル儘充分摺込ミヲ行フ

### 十一、砂地

耕作地ノ利用法ニ準ス  
但シ左ノ件ニ注意スヘシ

- 1 砂ノ性質ニ依リ設備法ヲ異ニス

硬質(土ヲ交ヘサルモノ)ノモノニアリテハ自然地上ニ摺込ムヲ却テ有利トスルコトアリ

- 2 場合ニヨリテハ三脚ノ位置ニ彈藥箱ヲ埋置シテ脚ノ動搖ヲ防ク(必要止ムヲ得サル場合ニ限ル)
- 3 其他板、木材、編條等ヲ使用ス

## 十二、砲彈痕

砲彈痕ハ戰場ニ於テ利用スヘキ場合屢々起ルヘク特ニ突撃ヨリ陣内戦ニ至ル間ニ於テ最モ多キヲ豫想セラル故ニ之カ利用ハ最モ迅速ニシテ簡單ナルヲ要ス

### (一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 噴唇ハ加工セサルヲ可トス
- 2 彈痕内部ノ利用ハ工事ノ爲時間ヲ要スルコト大ナルヲ以テ狀況ニヨリテハ外部ヨリ噴唇ヲ利用スルヲ可トスル場合アリ
- 3 多クハ土地粗鬆トナリアルヲ以テ脚ノ固定銃各部ノ保護、砂塵ノ飛揚防止等ニ

### 著意スヘシ

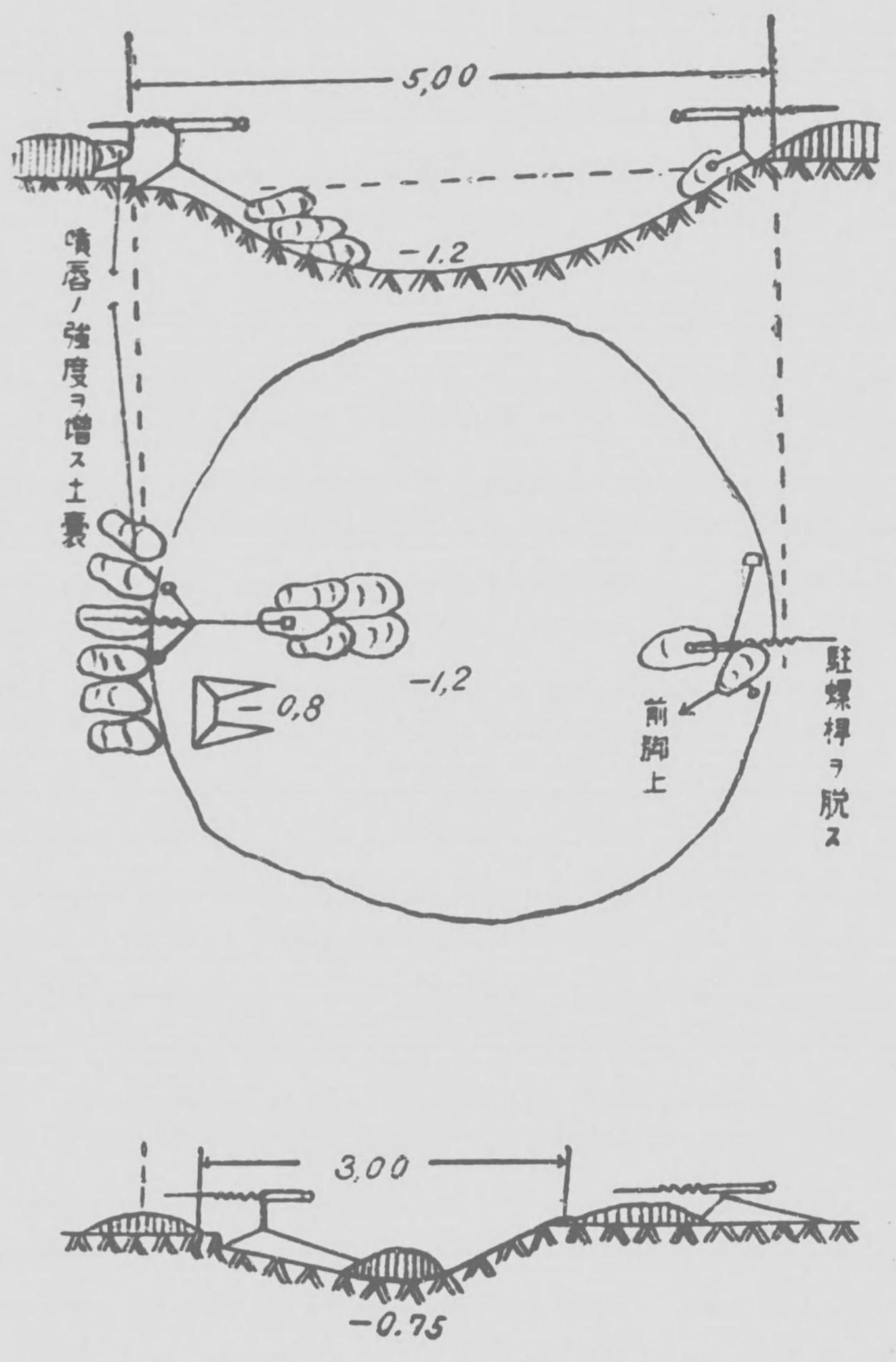
- 4 土囊ノアル場合トナキ場合ヲ教育シ置クヲ要ス
- 5 練兵場或ハ作業場ニ砲彈痕ヲ設ケ置キ屢々演練スルヲ要ス
- 6 夜間利用スル場合多シ特ニ夜間演習ニ於テ教育スヘシ
- 7 進入ニ先立チ豫メ二、三名ノ兵ヲ派遣シ準備セシメタル所ニ進入スル方法ヲモ訓練スヘシ

- 8 銃位置ノミナラス他ノ銃手ノ利用法ヲモ演練スヘシ

### (二) 利用ノ方法

- 一 中徑五米内外ノモノ(二十四糎榴彈砲級)
- 1 噴唇ノ内縁部ニ加工シテ前脚ヲ置キ後脚部ハ散兵壕利用ノ要領ニ依ル
- 2 噴唇部ノ内縁部ニ加工シテ堤防利用ノ要領ニ依ル
- 3 要スレハ噴唇ノ強度ヲ増ス爲ニ土囊ヲ前方ニ置クヲ可トスルコトアリ
- 二 中徑的三米内外ノモノ(十五糎榴彈砲級)

- 1 前項ノ要領ニ依ル
  - 2 止ムヲ得サレハ後脚下ニ彈藥箱ヲ置クモ可ナリ
- 利用法ノ一例



### 十三、市街地及部落

市街地及部落ハ其ノ構造ノ大小強弱ニ依リ或ハ陣地トシテ或ハ掩護遮蔽物トシテ利用セラル、等差異ヲ生ス

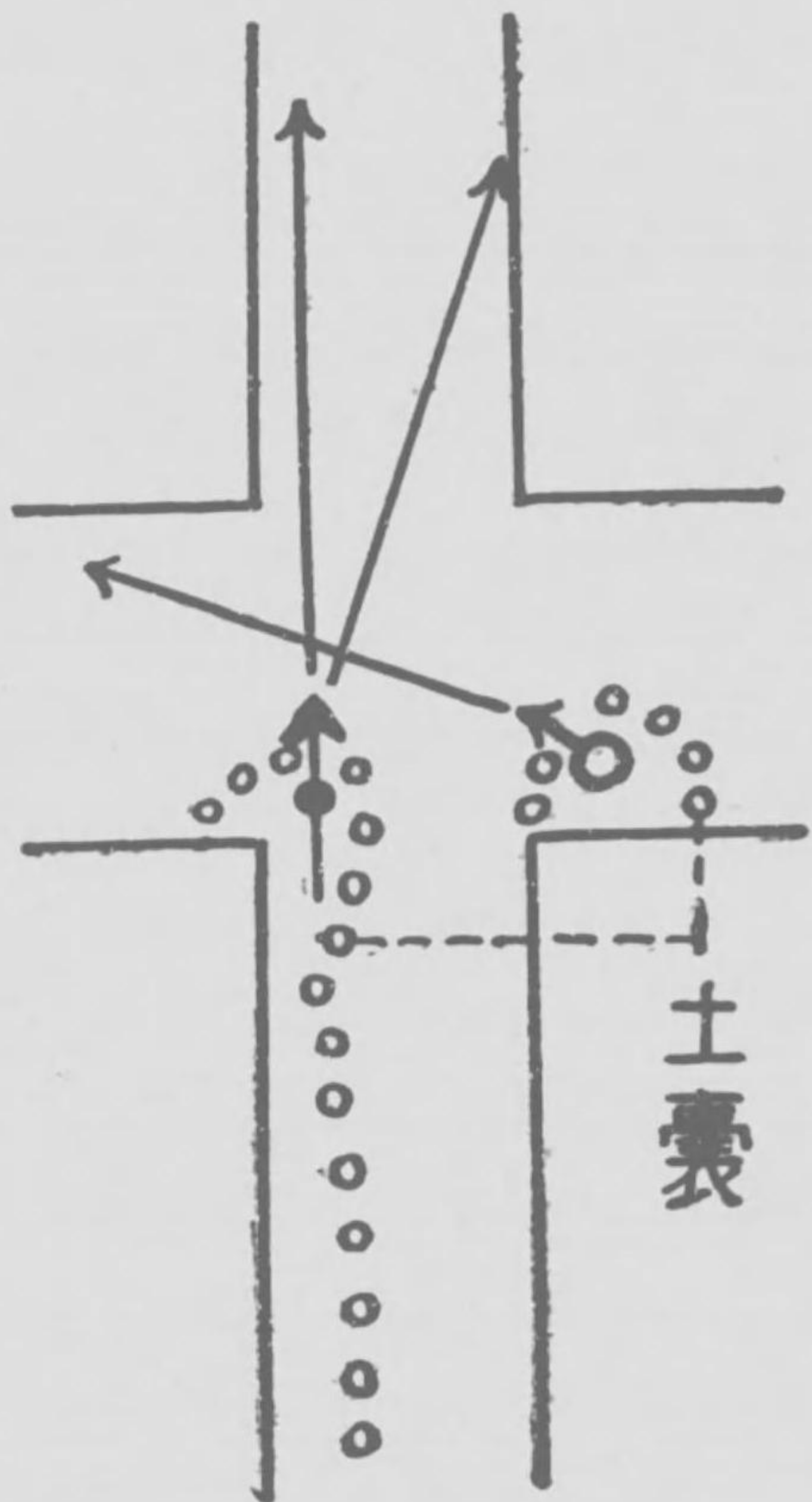
戰場ニ散在スル小部落ハ敵砲兵ノ目標トナリ易キヲ以テ之カ對應策ヲ考ヘ置クヲ要ス市街地ハ道路上ハ附近ノ家屋ヨリ瞰射セラル、コトアルヲ以テ警戒ヲ怠ルヘカラス

#### (一) 教育上著意スヘキ事項

- 1 分隊長ノ價值判斷ハ大イニ利用ノ適否ニ關係ス
- 2 部落ノ大小、附近ノ地形、家屋ノ構造、圍壁ノ有無及構造等ニヨリ各特性ニ應スル利用法ヲ教育スヘシ
- 3 現地ニ就キ實際ニ演習シテ教育スルコトハ困難ナルヲ以テ現地講話ノ方法ニ依リ了解セシムルノ止ムナキニ至ルヘシ
- 4 通信連絡ノ設備ニ著意スルヲ要ス

#### (二) 利用ノ要領

1 市街地ノ道路上ニ於ケル陣地ハ次ノ如クスルヲ可トス但シ多大ノ土囊ト時間ト  
勞力ヲ要ス



- 2 家屋ヲ利用スルコト多シ
- 3 堅固ナル圍壁ハ直接之ヲ利用シ穿孔シテ銃眼ヲ作り或ハ臺ヲ設ケテ壁上ヨリ射撃スル如ク設備スルヲ可トス
- 4 内部ノ交通、連絡容易ナル如ク要スレハ交通路ヲ作り又特ニ記號ヲ定メ遞傳ヲ利用スル等諸種ノ手段ヲ講スルモノトス
- 5 構造堅固ニシテ銃砲彈ニ抗シ得ル家屋ハ據點又ハ支撐點トシテ有利ニ利用セラ

ル、コトアリ

6 火災、瓦斯攻撃ニ對シ顧慮シアルヲ要ス

#### 十四、樹木ノ利用

樹木モ又有利ニ利用セラレ、コトアリ  
地上ニ於テハ主トシテ彈藥箱、一番ノ掩護ニ利用スルヲ可トス  
狀況ニヨリ樹上ヨリ射撃シ得ハ極メテ有利ナル場合アリ、故ニ平常ヨリ樹上射撃ノ方法モ研究シ置クヲ可トス、若シ三脚ヲ固定シ得ハ更ニ效力ヲ發揮シ得ヘシ  
然レトモ脚ヲ固定シ得ルカ如キ樹木ハ容易ニ發見シ得サルヘキヲ以テ近距離ニ於テハ銃ノミヲ以テ依托シテ射撃スルコトヲ得此際土囊ノ枕ヲ置キ且ツ落下ヲ防ク爲綱ヲ以テ縛シ置ク等ノ方法ヲ講スルヲ可トス

#### 十五、凹道凸道ノ利用

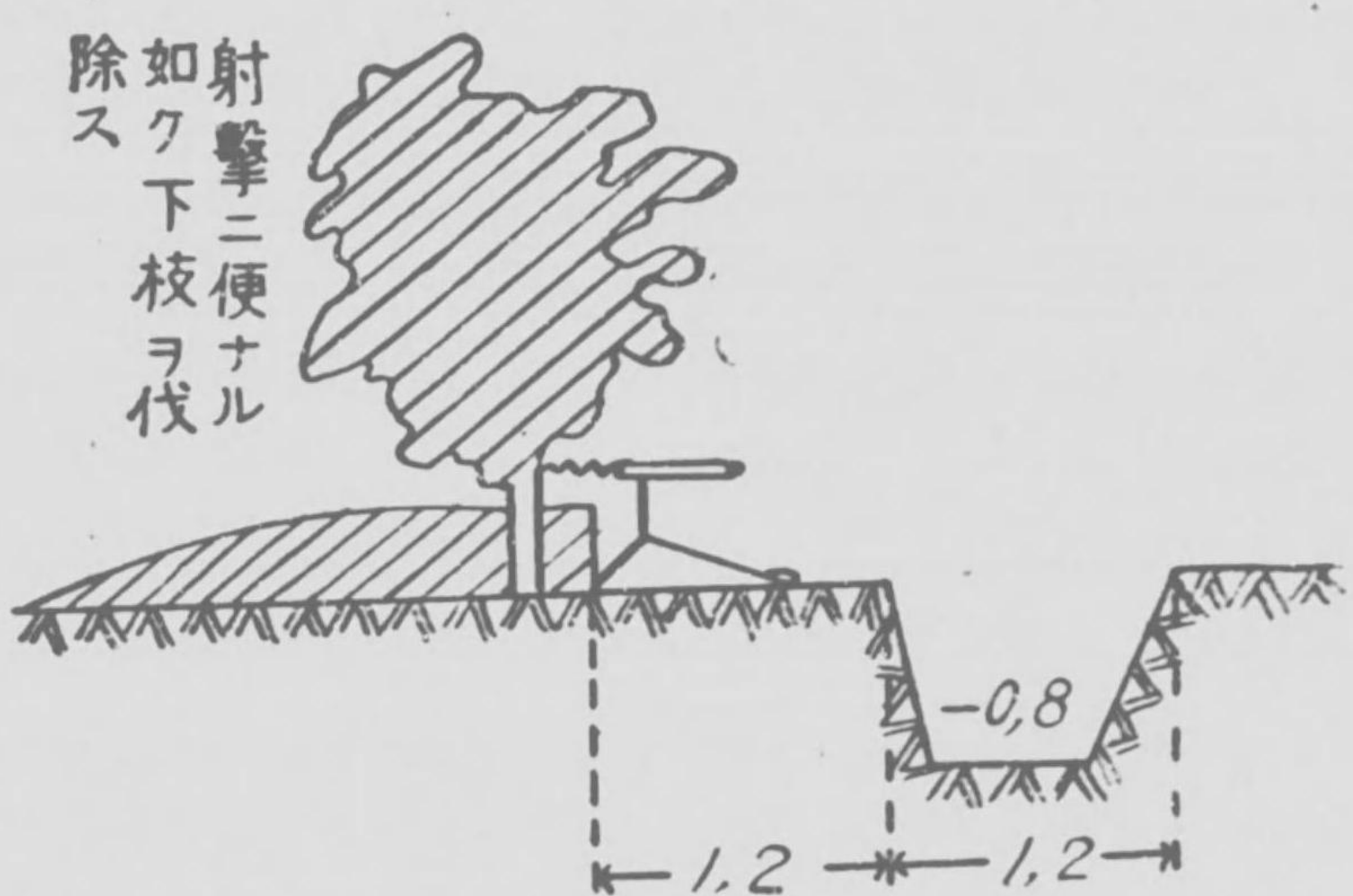
堤防若シクハ散兵壕ノ利用法ニ準ス  
凹道ノ場合ニハ警戒ニ特ニ意ヲ用フヘシ

### 十六、礫積地ノ利用

河床中礫積地ニ銃ヲ据ウルニ際シテハ次ノ注意ヲ必要トス

- 一 分隊長ハ先ツ小圓匙ヲ以テ昇降軸下及三脚踵鐵下ノ礫石ヲ排除スヘシ
  - 二 三番ハ腹下ノ礫石ヲ排除スヘシ
  - 三 狀況之ヲ許ス限リ石ヲ以テ掩護物ヲ構築スヘシ
- 十七、生籬ノ利用

生籬ハ蔭蔽セル陣地トシテ最モ有利ニ利用セラル前後ノ位置ヲ地上及上空ヨリ敵ノ視察ヲ顧慮シ偽裝容易ニシテ射撃ニ際シテモ發見困難ナル如ク選定スヘシ  
時間ニ餘裕アリテ土工作业ヲナシ得ル場合ハ生籬ノ後方約一米二〇位ノ所ヲ前線トシテ壕ヲ掘開シ其土ヲ生籬ノ内外ニ積ミ所要ノ掩體ヲ構築スヘシ



### 射撃 (第四〇六—第四一〇)

### 第四〇六

本條ハ戰鬪ニ於ケル射撃動作ノ教育ノ順序及注意ヲ示サレタルモノナリ、而シテ戰鬪ニ在リテハ凡テ分隊全般ノ教育ニ關シ記述シアルモノトス。射撃ハ機關銃ノ爲ニハ唯一ノ

戰鬥手段ニシテ銃手ノ戰鬥動作中最モ緊要ナルモノナルヲ以テ銃手ハ如何ナル場合ニ於テモ正確且迅速ニ射撃ヲ行ヒ得ル如ク訓練シアラサルヘカラス

之カ爲教育ニ方リテハ先ツ平坦地ニ於テ基礎ヲ固ムル事必要ニシテ既ニ基本ノ射撃教育ニ於テ一、三番ノ動作ヲ教育シアリト雖之ヲ戰鬥ニ移シ狀況ノ下ニ在リテ分隊全銃手協力シテ射撃スル動作ヲ演練スル爲ニハ最初ヨリ困難ナル地形ニ於テ行フハ適當ナラス宜シク先ツ比較的平易ナル平坦地ニ於テ最高、最低ノ兩姿勢及中間姿勢ニ就キ射撃動作ヲ教育シ然ル後各種ノ地形地物ヲ利用シ又諸種ノ狀況ノ下ニ綿密周到ニ教育スルヲ緊要トス

而シテ之等ノ教育ハ射撃豫行演習ノ進度ト密ニ連繫スルヲ必要トスルノミナラス、個々ノ地形、地物ヲ利用スル射撃方法ヲ一通リ會得セシメタル後ハ陣地進入ト連繫シテ教育スヘキモノニシテ「第四〇三」「第四〇四」「第四〇五」ヲ参照スルヲ要ス

「諸種ノ狀況ノ下」トハ遭遇戰、攻撃、防禦、局地戰等戰術的ノ狀況ノミナラス、其戰鬥間ニ發生スル種々ノ狀況ヲ意味スルモノニシテ寧ロ分隊トシテハ後者ノ方ニ關係多カル

ヘク從ツテ教育ニ方リテハ敵狀ヲ變化シ各種目標ヲ隱現セシメ友軍ノ關係ヲ顧慮シ或ハ分隊自身ノ狀態ヲ想定シ以テ射撃ノ要否、緩急等ニ關聯セシメ各種狀況下ニ適切ニ動作シ得ル如ク綿密且周到ニ教育スルヲ緊要トスルモノナリ

機關銃ノ地物利用ニ方リ射撃威力ノ發揚ト位置ノ秘匿トハ相關聯シ同等ノ價值ヲ有スルモノニシテ寧ロ位置ノ秘匿ハ即チ射撃威力發揚ノ爲ト稱スルヲ得ヘク實ニ密接ナル因果關係ヲ有スルモノナリ之等ノ主旨ハ陣地進入ノ部ニ於テ既ニ明瞭ナルモ本條ニ於テハ特ニ地形地物ヲ利用シテ射撃ヲ行フ場合各銃手ハ凡テ實戰的ニ動作シ射撃ニ支障ナキ限リ其位置ヲ秘匿スヘキコトヲ教ヘラレタルナリ、是射撃ニノミ熱中シ一、三番ヲ初メ其他ノ銃手カ不知不識ノ間ニ姿勢ヲ大ニシ或ハ地物利用ノ主旨ヲ忘レテ非實戰的ノ行動ヲナスカ如キ事アラハ戰鬥ノ本旨ニ沿ハサルヲ以テ深ク之ヲ誡メラレタルモノナリ而シテ地物利用法、銃手ノ姿勢等ニツキ基礎的教育ヲナスヘキ若干ノ地物ハ之ニ適スル場所ヲ練兵場附近ニ選定シ置キ或ハ之ヲ構築シ置キ綿密ニ教育スルヲ要ス但シ型ニ捉ハレサル如ク指導スルコト必要ナリ

本條ハ機關銃射擊ニ必須ノ要件ニシテ戰闘動作トシテ是非トモ訓練スヘキ項目ヲ示サレタルモノニシテ分隊長以下本條ノ各項目ニ就テハ充分演練ヲ重ネ自己ノ伎倆ヲ確信シ必中ノ信念ヲ得ル迄ニ熟練スルコト緊要ナリ

之等ノ教育ニ關シ著意スヘキ事項ヲ左ニ記述セントス

茲ニ示サレタル各項目ハ必スシモ獨立スルニ非スシテ各々相關聯シアリ又項目中一番或ハ三番ノ動作ニ關スル件多キモ基本ノ如ク單ニ此ノ二銃手ノ動作ヲ教育スルノ意ニ非スシテ分隊長以下全員カ相協力シ分隊ノ任務ヲ達成スルノ見地ヨリ之等ノ事項ヲ訓練スルヲ要スルモノトス而シテ初年兵ハ射擊教育ノ進度ニ伴ツテ各項目ノ教育ヲ進メ二年兵及下士ハ益々之カ熟練ヲ圖ルト共ニ其程度ヲ向上スル如ク指導スルモノトス

(一) 目標發見ノ教育法

示サレタル目標ヲ速ニ發見スルコトハ分隊長以下全員ノ勉ムヘキ事ナルモ分隊長トシテハ廣範圍ノ目標發見ニ慣熟スルヲ要シ銃手トシテハ分隊長ヨリ示サレタル小範

園内ノ目標發見迅速ナルヲ要スルモノトス、將來戰場ニ現出スル敵ハ目視極メテ困難ナルヘキヲ以テ特ニ目標發見ノ演練ハ之ヲ重視シ、初年兵ハ順序ヲ遂ヒ基礎的ノ事項ヨリ遂次應用動作ニ移ル如ク教育スルヲ要ス而シテ之カ計畫ハ比較的單純ニシテ特別ノ時間ヲ設ケサルモ實施シ得ヘク教練中ノ副課目トシテ或ハ演習ノ前後ニ於ケル若干時間ヲ以テ充當シ得ヘシ、而シテ之カ完成ノ時機ハ射擊教育トモ關聯シアルヲ以テ一律ニ定ムルコト能ハサルモ概ネ第一期ノ半ハ頃ニハ一通リノ教育ヲ終ル如クスルヲ可トス左ニ初年兵第一期ニ於ケル教育進度ノ一例ヲ示サントス  
本表ハ全ク一例ニシテ之カ進度ハ教練、射擊教育等ト相伴フヘキモノトス、距離測量ト同時ニ行フモ一案ナリ

| 初年兵<br>第一期 | 目標發見教育進度表 |                               |  |
|------------|-----------|-------------------------------|--|
| 順次         | 時期        | 目的                            | 實施法  |
| 1          | 第一期       | 實員、標的ノ各種狀態ヲ現ハシ目標發見演練ノ必要ヲ會得セシム | 明瞭ナル目標、稍々不明ナル目標、偽裝セル實員、視エ難キ實員等ヲ配置シ説明シツ、實施セシム<br>距離四〇〇—八〇〇位 |

| 考 備  | 8                                  | 7  | 6                             | 5                                    | 4   | 3  | 2   |
|--|------------------------------------|--|-------------------------------|--------------------------------------|---|--|---|
| 一、本表ハ進度ヲ現シタルモノニテ回数ハ尙屢、行フモノトス、又コレノミニテ止ムルニ非<br>ス益、向上セシムヘキモノトス<br>二、銃手ノ姿勢ハ第一回ハ隨意ナルモ其後ハ伏姿勢ヲ主トシ時ニ膝姿ニテ行フモ可 | 各種目標ニ對スル迅速ナル發見ノ演練                  | 移動スル目標ノ發見  | 同 右                           | 視エ難キ目標ノ發見                            | 不意ニ現出スル稍、不明瞭ナル目標ノ發見                               | 稍、不明瞭ナル目標ノ發見                             | ノ當初<br>概ネ入<br>營後一<br>ヲ月間<br>内                             |
|  | 分隊ヲ編成シ豫行演習ト連繫シ各種狀態ノ視エ難キ目標ノ發見ヲ演練セシム | 地物ヨリ地物ニ躍進或ハ移動スル敵(實員ヲ用フ)ノ發見ヲ演練ス、目視ノ度ハ稍、不明瞭ナルモノ及視エ難キモノトス | 分隊ヲ編成シ射擊豫行演習ト連繫シ視エ難キ目標ノ發見ヲ演練ス | 目標ヲ視エ難ク設置シ、又ハ實員ヲ偽裝セシメテ配置シ之カ發見ノ眼識ヲ養成ス | 把伏的ヲ用ヒ或ハ實員ヲ使用シ地形、地物ヲ利用シテ不意ニ現出セシメ之ヲ迅速ニ發見スルコトヲ演練セシム | 地形、地物ヲ利用シ稍、不明瞭ニ目標ヲ現出セシム最初各人ニ行ヒ後分隊ヲ編成シテ行フ | 比較的明瞭ナル立、膝、伏、頭の等ヲ單獨、散兵群、併立(間隔ヲ密接シ又ハ若干離シ)等ニ立テ之ヲ迅速ニ發見シ判斷セシム |

(二) 照尺裝置ノ正シキコト

機關銃ニ在リテ照尺裝置ノ正シキ事ハ乃チ照準ノ正確ト相俟ツテ最初ヨリ有效ナル

射撃ヲ行ヒ敵ヲ急襲シ得ルノ素因ヲナスモノニシテ最初ノ射撃開始ニ於ケル裝置ハ勿論射撃中ニ於ケル目標變換ノ爲ノ照尺ノ改裝彈著修正ノタメノ照尺改裝等ニ熟練スルヲ要スルモノトス然ルニ基本ノ教育ニ於テハ之等ニツキ綿密ニ注意スルモ、戰鬥動作ニ移ルヤ之カ著意ヲ怠リ往々裝置不確實ニシテ表尺上ノ距離ノ刻線遊標上縁ト一致セス刻線ノ中間ニ裝シタル儘ニテ射撃スルカ如キコトナシトセス故ニ之等ハ射撃教育ニ於テ充分綿密ニ教育スルノミナラス分隊教練ニ於テモ慣熟ヲ圖リ心手期セスシテ正シク裝シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

(三) 視エ難キ目標或ハ不意ニ現出シ又ハ移動スル目標ヲ迅速且正確ニ照準スルコト

既述「示サレタル目標ヲ速ニ發見スルコト」ノ項中ニ於テ記セル如ク目標發見ノ演練ヲ積ミ特ニ視エ難キ目標或ハ不意ニ現出シ又ハ移動スル目標ヲ速ニ發見シ之ニ對シ迅速且正確ニ照準シ得ル如ク演練シ置クコトハ戰場ニ於ケル狀態ニ鑑ミ機關銃ニ要求セラルヘキ任務上極メテ必要ナリ

之カ教育ハ目標發見ノ教育、射撃ノ教育ト相俟ツテ進捗セシムヘク、所謂野外實距離



ニ於ケル射撃豫行演習ヲ經テ分隊戰闘教練ニ移リ各種狀況ニ於ケル射撃ヲ演練シ以テ本項ノ目的ニ達スルモノトス而シテ之カ演練ニハ必ス照準ヲ實施セシメ其正否ヲ檢シ要スレハ之ヲ矯正シ其ノ良否ノ原因ヲ究メ自得セシムルコト必要ニシテ單ニ説明ニ止メ或ハ見學ニ止ムルカ如キコトアルヘカラス

#### (四) 彈著ノ觀測ニヨリ其集束彈ヲ速ニ目標ニ導クコト

目標ニ對スル彈著ノ狀態ヲ速ニ判斷シ遠近及方向ヲ修正シテ集束彈ヲ目標ニ導クコト乃チ射彈ノ觀測修正ノ迅速適確ナルコトハ機關銃射撃ニ於テ特ニ重要ナルヲ以テ茲ニ必須ノ要件トシテ掲ケラレタルモノニシテ之カ教育ニハ周到ナル準備ヲ要スルト共ニ之カ訓練モ亦最モ重視シ啻ニ分隊長ノミナラス銃手モ自ラ觀測、修正スルノ伎倆ヲ具備シ照準點及轉輪ニ依ル修正法ハ各人皆熟達シアルヲ要ス而シテ之カ教育ハ實彈ヲ以テスルニ非サレハ其價值少ナキヲ以テ射撃教育ニ於テハ特ニ觀測教育、應用射撃、分隊戰闘射撃ヲ制定セラレ極力之カ慣熟ヲ計リ尙豫行演習ニ在リテモ之カ著意ヲ以テ行フ如クセラレアリ故ニ其ノ實施ノ細部ハ射撃教育ニ讓ルモ實包ヲ用

ヒサル演習ニ於テモ努メテ目標前後ニ適宜彈著標示器ヲ配置シ教官ノ記號ニヨリテ彈著ヲ標示シ彈著ノ修正ヲ行フ如ク指導スルヲ有利トス但シ此際ニ於ケル彈著標示器ノ配置、記號ノ方法等ハ徒ラニ巧妙ニ走ルコトナク簡單容易ナル方法ヲ選フヲ可トス然ラサレハ現示不自然トナリ演習ノ氣勢ヲ殺クニ至ルコトアリ射撃豫行演習ニ於テハ彈著ヲ標示スルモ戰闘教練ニテハ標示セサルノ傾キアリ、本項ノ主旨ヲ達成スルタメニハ之等ノ思想ヲ改メテ各種ノ手段ヲ講スルヲ要スルモノトス

#### (五) 目標變換ノ迅速ナルコト

機關銃射撃ノ要訣ハ有利ナル目標ヲ選定シ不意ニ射撃ヲ開始シ短時間ニ所望ノ效果ヲ收メ更ニ適時他ノ有利ナル目標ニ對シ射撃ヲ指向スルニ在リ、乃チ某目標ニ對シ所望ノ效果ヲ收ムルヤ直チニ他ノ有利ナルモノニ目標ヲ變換スルヲ主旨トスルヲ以テ之カ動作ハ迅速ニシテ且新目標ニ對スル射撃ハ正確ナラサルヘカラス而シテ目標變換動作ノ教育ニハ概ネ左記ノ各場合ヲ實施シ置クヲ要ス

- (1) 後脚ヲ移動セスシテ照準シ得ル目標ニ對スル變換動作(通常小角度ノ目標變

換ト云フ)

八八

- (2) 後脚移動ヲ要スル目標變換(通常大角度ノ目標變換ト云フ)
- (3) 距離差アル目標ニ對スル變換動作(照尺改裝ヲ含ム)
- (4) 目視ノ景況ニ差異アリ或ハ瞬間現出、移動スル目標ニ對スル變換動作
- (5) 補助照準點ヲトル變換動作
- (6) 射法ヲ異ニスル目標ニ對スル變換動作
- (7) 小隊長ノ指揮下ニ在ル場合、分隊長射擊任務ヲ與ヘラレタル場合、射擊區域及

(六) 各種姿勢ニテ行フ裝填動作

照尺ノミヲ示サレ射擊ヲ命セラレタル時等ノ各場合ノ目標變換(第四〇八參照)

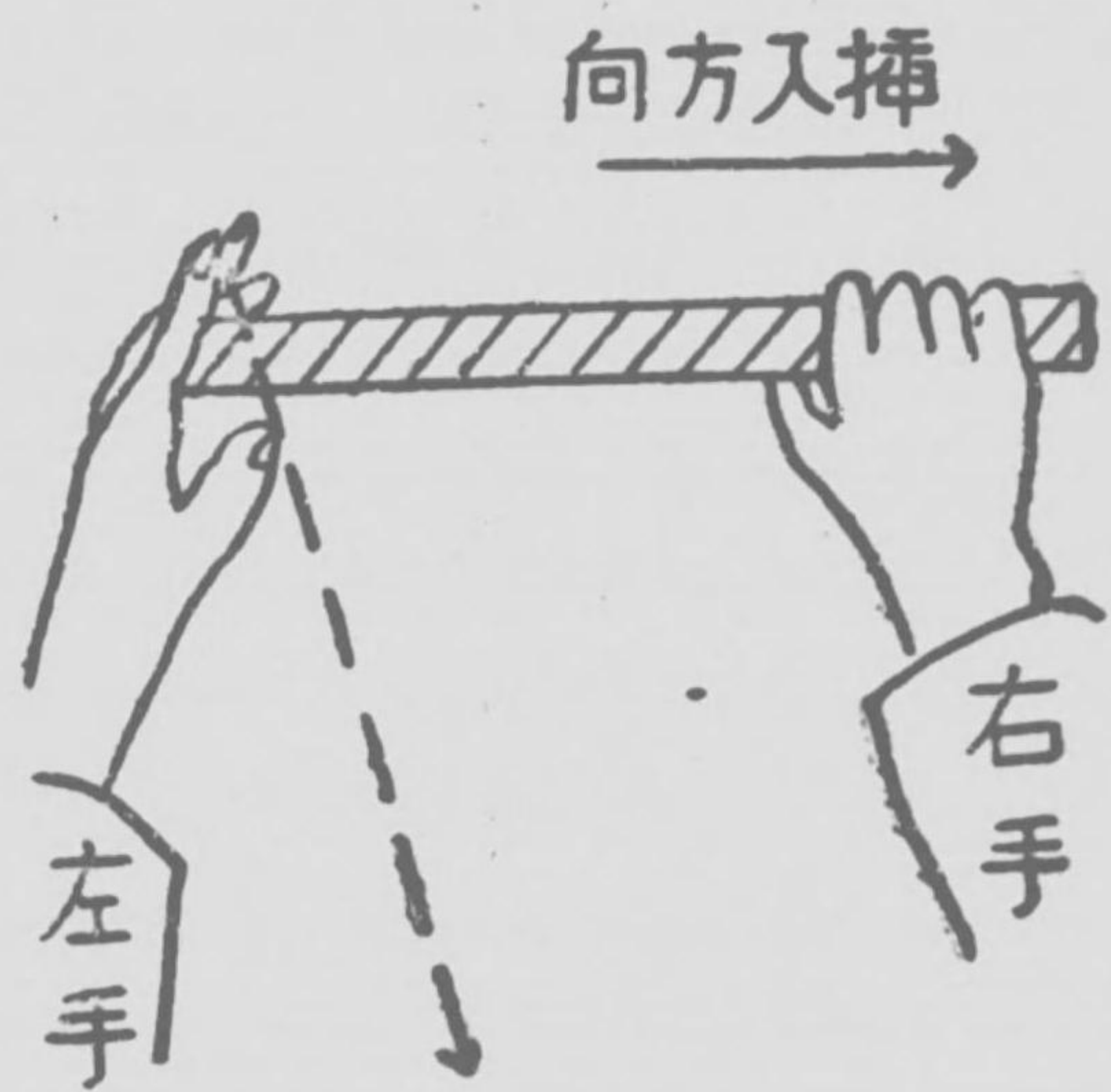
本項ハ草案ニハ無カリシモノヲ操典ニ於テ新ニ増補セラレタルモノニシテ戰場ニ於テ其必要ヲ認メラレタルニ因ル乃チ從來一番ノ裝填操作ニ關スル演練不足ノ爲低姿勢又ハ中間姿勢等ニテ行フ裝填操作未熟ニシテ裝填不良ニ因スル故障ヲ生起シ或ハ低姿勢ニテ行フ動作困難ナル爲不知不識ノ間ニ高姿勢ヲトリ敵眼敵火ニ暴露シ損害

ヲ受クルカ如キコト多カリシニヨル「シベリヤ」出征當時及濟南事變等ニ於テモ一番銃手ノ死傷比較的多數ナリキ銃ノ姿勢最高ノ場合ト雖モ一番ハ必スシモ膝姿ヲトルノ要ナク裝填ノ一瞬時ノミ上體ヲ扛起シテ裝填シ其他ハ力メテ低キ姿勢ニテ地物等ヲ利用シアルヲ有利トスヘシ、又本項ハ「各種姿勢ニテ行フ裝填」ナルヲ以テ單ニ高姿勢低姿勢ニテ演練スルノミナラス中間姿勢、或ハ地物ヲ利用セル姿勢、仰臥シテ行フ裝填等各種ノ状態ニテ裝填スルコトヲ平素ヨリ演練シ置クヲ要スルモノトス之等ハ重要事項ナルニ不拘比較的閑却セラレ易キ傾キアルヲ以テ特ニ留意スルヲ要ス左ニ裝填ノ爲各種姿勢ニ於ケル保彈飯ノ保持法、挿入法等ヲ記述シ參考ニ資セントス

各種姿勢ニテ行フ裝填ノ方法

- (1) 高姿勢(膝姿)ニ於ケル基礎ノ裝填法ハ基本ノ部ニ於テ説明セル所ニ同シ
- (2) 伏姿或ハ中間姿勢ノ場合  
保彈飯ノ挿入要領ハ膝姿ノ場合ニ同シ

八九

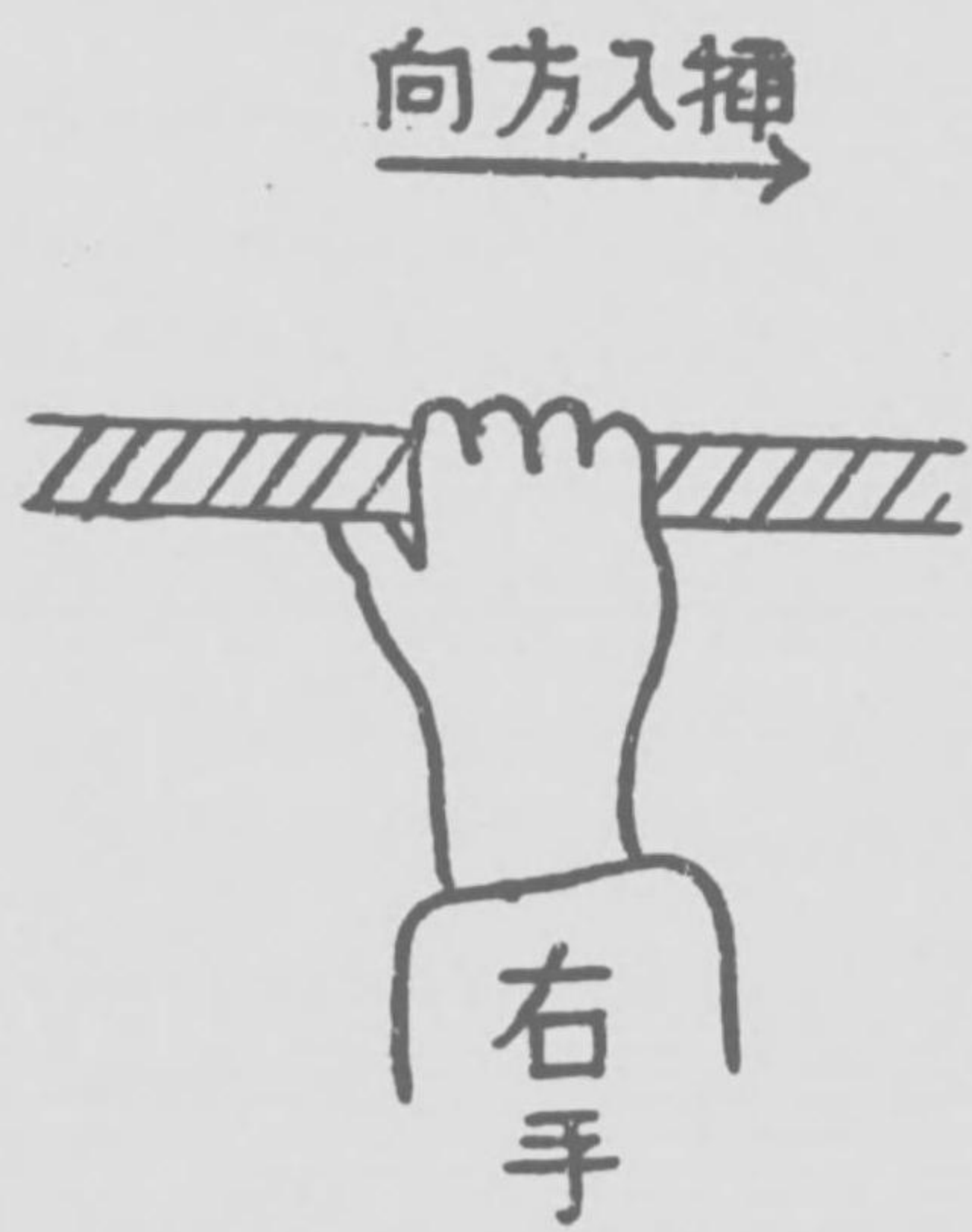


右肘ハ地上ヨリ離シ左肘ハ地上ニ置ク左肘若シ短カキ時ハ左肘  
 (成シ得レハ兩肘)下ニ土、糾草、紙函等ヲ置キ肘ヲ高上ス

中指ノ第一節食指ヨリモ多ク屈シ挿入ノ際力ヲ加フルニ便ニス

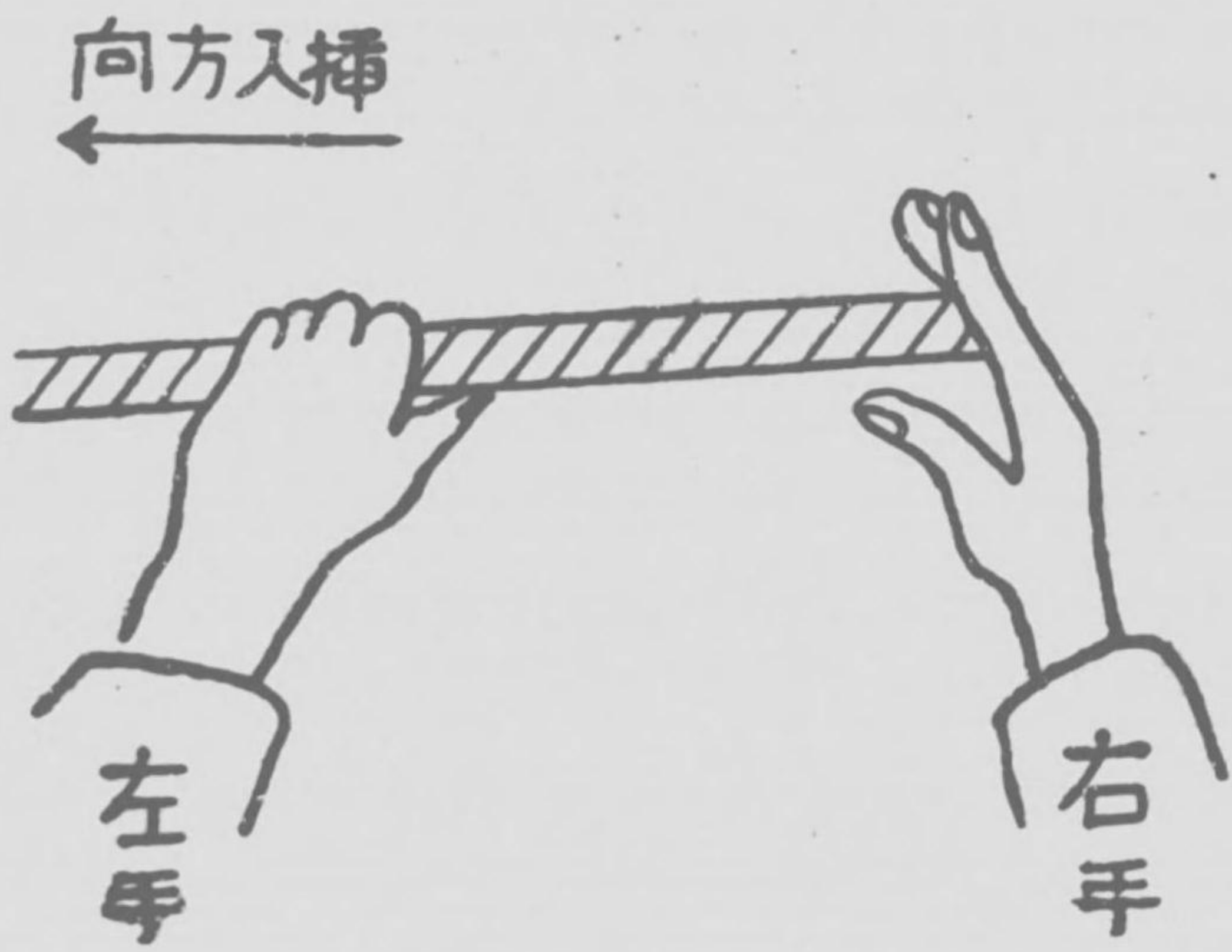
(3) 片手ニテ行フ装填

此ノ方法ニ熟練スルトキハ姿勢ヲ低クシテ容易ニ装填シ得ルモノトス



挿入法  
 右手ノミニテ(2)ノ場合ノ要領ニヨリ挿入ス

(4) 仰臥シテ行フ装填



挿入法  
 先ツ保彈飯ノ頭端末ヲ装填口ノ後部溝ヲ基準トシテ装填  
 口ニ向ハシメ主トシテ右手ニ力ヲ加ヘテ一舉ニ挿入ス

(5) 射手自ラ行フ装填

左手ニテ四指ヲ上方ニシテ保彈飯ヲ握リテ之ヲ装ス

凡テノ場合ノ保彈飯ノ抽出法ハ基本ノ「撃チ方止メ」ノ場合ニ同シ但シ本項(4)ノ仰臥  
 セル場合ハ左手ヲ以テ碍子、右手ヲ以テ保彈飯ヲ保持シテ抽出ス

## (七) 故障ノ豫防排除ニ熟達スルコト

機關銃ハ敵ノ不意ニ乘シ急襲的火力ヲ發揚スルヲ本旨トスルヲ以テ故障ノ發生ハ著シク機關銃ノ價值ヲ減ス

故ニ常ニ銃ノ性能ニ注意シ故障ヲ豫防スルト共ニ一度故障生起セル場合速カニ之カ原因ヲ判斷シ迅速ニ排除スルノ伎倆ヲ具ヘサルヘカラス、而シテ故障ノ豫防及排除ノ方法ニ就テハ射擊教育中ノ重要課目トシテ射擊教範ニ於テ綿密、詳細ニ記述シアルヲ以テ射擊教育ノ説明ニ讓リ茲ニハ單ニ戰闘教練實施上著意スヘキ點ヲ若干述ヘントス

## 戰闘教練ニ於テ故障豫防排除ニ著意スヘキ事項

(1) 幹部ハ勿論銃手ハヨク銃ノ構造、機能ニ精通シ且其ノ銃ノ固癖ヲ詳知シアルヲ要ス

本件ハ既ニ基本ノ部「第二八八」ニテ若干説明セル所ナルモ更ニ本項ノ冒頭ニ掲ケテ印象ヲ深カラシメタルモノトス

## (2) 屬品匣内ノ收容品ヲヨク整備シ置クヲ要ス

屬品匣内ノ整備トハ左記各項ヲ謂フ

- (イ) 各部品ハ銃ニ適合シアリテ何時部品交換ヲ行フモ射擊ニ支障ナキコト
- (ロ) 各部品ハ所定ノ員數ヲ收容シアルコト
- (ハ) 萬能銃及手入具等ノ機能良好ナルコト

往々ニシテ機能不良ノ萬能銃ヲ有シ或ハ萬能銃ノ紐過短(五十六粒アルヲ定規トス)ナルモノ、全ク無キモノ從ツテ擊莖拔ヲ備ヘサルモノ等ヲ收容シアリテ平然タルコトアリ、又洗桿、洗管等ノ不具合ナルモノ等ナキニシモアラス、之等ヲ整備スルコト

## (ニ) 手入材料ヲ充分準備スルコト

拭淨用ノ白木綿、常用鑢油等ヲ所定ノ如ク收容シアルコト

## (3) 銃ノ點檢ヲ迅速且嚴密ニ行フコト必要ナリ

銃ヲ點檢スヘキ時機トシテ操典ニ定メラレアルハ「第四〇四」ニシテ陣地進入前、

分隊長ノ命ニヨリ銃手之ヲ行フヲ本則トシ、陣地進入後ニアリテハ要スレハ之ヲ行フ如クセラレアリ(第三八六第四項)然レトモ此ノ時以外ニ於テモ必要ト認ムル場合ハ常ニ銃ヲ點檢シ射撃ニ方リ萬全ヲ期セサルヘカラス

「第四〇九」ニテハ戰鬪間ニアリテモ銃ヲ點檢スヘキヲ要求セラレアリ

(4) 陣地選定ト相俟ツテ射撃間砂塵等ノ侵入ノ爲射撃故障ヲ生起セサル如ク設備スルコト必要ナリ

「第四〇三」説明參照

(5) 射撃間銃ノ手入、冷却、注油等ニヨリ故障ヲ豫防スルヲ要ス「第四〇九」參照

(6) 戰鬪間ニ於ケル部品交換ニ熟練シアルヲ要ス

「第四〇九」參照

#### 第四〇八

本條ハ分隊ノ射撃法則ト分隊長ノ射撃ニ關スル職責及指揮法トヲ記述シアルモノニシテ小(中)隊ノ射撃ノ部ト關聯シテ重要ナル事項トス以下各項ニツキ説明セントス

#### 一、射撃ハ小隊長ノ號令ニテ行フヲ通常トス

射撃指揮ノ擔任者或ハ射撃開始ノ責任者等ニツキテハ小(中)隊教練ノ部ニ於テ更ニ研究スルモ射撃ノ直接指揮ハ多クノ場合小隊長ノ職責ニシテ從ツテ射撃ノ終始ハ小隊長ニ於テ命スルヲ通常トス、本條ノ冒頭ニ斯克掲ケラレタルハ決シテ故ナキニアラサルナリ

#### 二、射撃指揮ニ關シ本條ニハ三ツノ場合ヲ示シアリ

- (一) 小隊長ノ號令ニテ射撃スル場合(前述ノ如ク通常コノ方法ナリ)
  - (二) 小隊長ヨリ射撃區域及照尺ノミヲ示サレ射撃ヲ命セラレタル場合
  - (三) 時宜ニ依リ分隊ニ射撃任務ヲ與ヘラレタル場合
- 右ノ外「第四一〇」ニアル如ク分隊獨立スル場合アルモ本條ニテハ之ニ觸レサル事トス

#### 三、分隊長ノ責務

何レノ場合ニ於テモ分隊長ハ小隊長ヲ輔佐シ直接分隊ノ射撃ニ關シ責任ヲ有スルモノトス

前項ニ示セル三場合ノ内何レノ方法ニ據リ射撃スル場合ト雖分隊長ハ當然射撃ノ任務ヲ有スルモノニシテ其ノ何レヲ重要トスルヤ等ニ就テハ論外ニシテ常ニ同様ノ重責ヲ負擔シアアルコトヲ自覺シアラサルヘカラス

四、各種場合ニ於ケル分隊長ノ動作

(一) 小隊長ノ號令ニヨリ射撃ヲ行フ場合

此方法ハ通常用ヒラル、方法ニシテ分隊長ノ射撃指揮トシテハ簡單ナルモノトス

(1) 號令ヲ復令シ分隊ノ射撃スヘキ目標(區域)ヲ示ス

分隊ノ射撃スヘキ目標(區域)トハ小隊長ヨリ示サレタル目標(區域)ノ内ニテ分隊

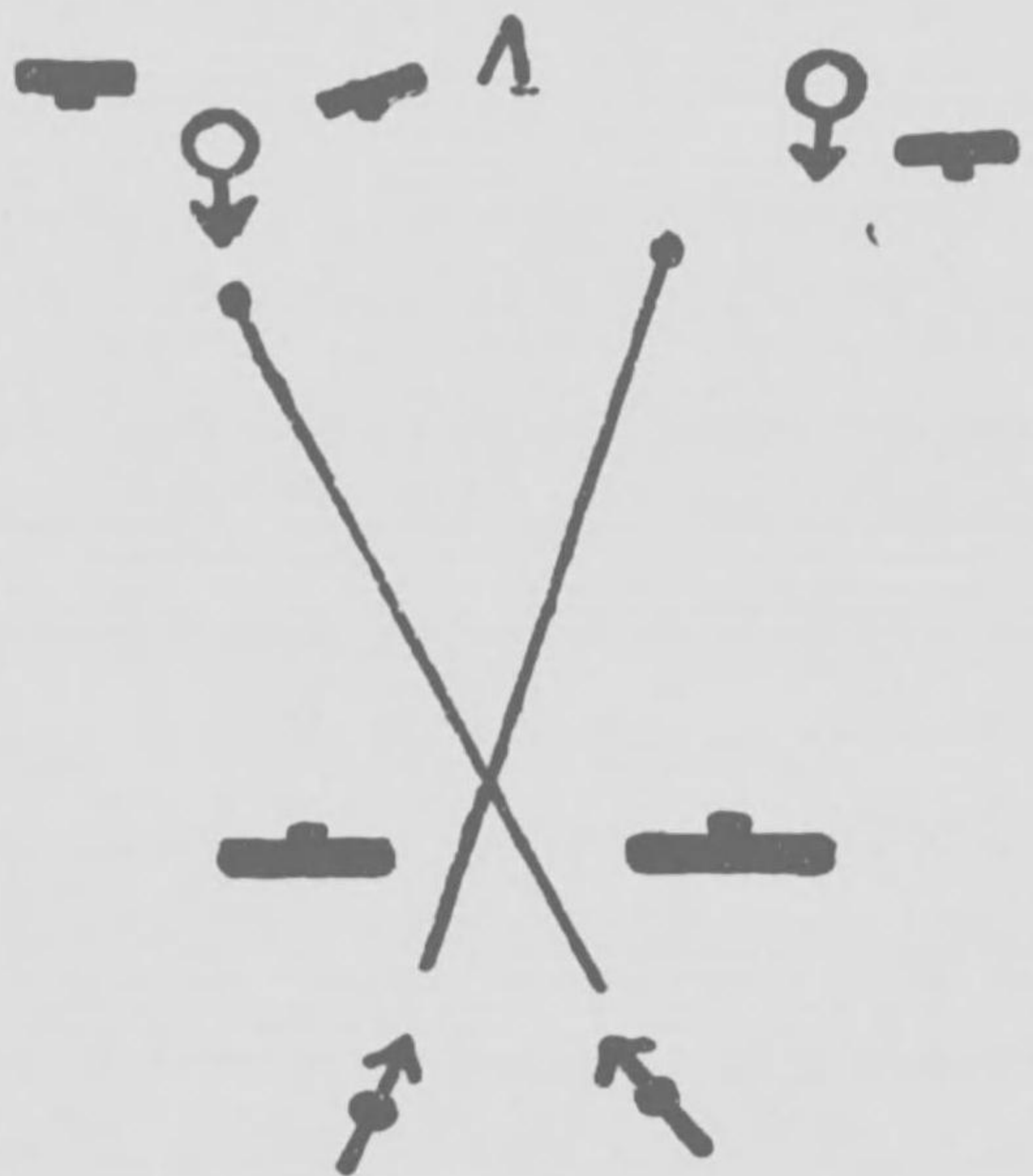
ニ對向スルモノ或ハ命セラレタルモノ等ヲ云フ

(イ) 例ヘハ小隊長ヨリ「……機關銃、點射……百」ト示サレタルトキ



敵機關銃二銃アレハ右分隊ハ其ノ右銃ヲ、左分隊ハ左銃ヲ示スカ如シ

(ロ) 小隊長ヨリ「一本松ノ左右各二分畫ノ輕機關銃、點射……百交叉」ト命セラレタルトキハ各々交叉スル如ク自己ノ目標ヲ示ス



(ハ) 分隊長ハ小隊長ノ號令ヲ復令シ分隊ノ射撃スヘキ區域ヲ示ス、乃チ自己分隊



小隊長號令

一本松ヨリ右二分畫ノ敵

ヲ點射……百

ノ對向セル部分ヲ射撃スルモノナリ

(2) 要スレハ照準點ヲ銃手ニ指示ス

目標不明瞭ニシテ補助照準點ヲ照準セシムルカ如キ時或ハ天候氣象特ニ横方向ノ強風等ノ爲彈著ノ偏避ヲ豫想シ得ルトキ竝ニ其ノ銃ノ固癖ニヨリ狹小ナル目標ニ對シテ射彈ヲ散逸セシメサル爲照準點ヲ示スヲ可トスルカ如キ場合ヲ顧慮シテ記述シアリ

(3) 射撃準備完了セハ片手ヲ舉ケテ報告シ小隊長ノ號令ニ依リ射撃セシム

射撃準備ノ完了トハ種々ノ動作ヲ意味シアルモ通常號令ニ依リ三番照準動作終ル時機ヲ以テ準備完了(何時ニテモ射撃ヲ開始シ得ル意味)トナスヲ便トス而シテ三番ハ準備完了セハ「照準終リ」ト分隊長ニ報告スル如ク教育スルヲ有利トス、斯ノ如キ事ハ何等操典ニ記載シアラサルモ分隊長カ片手ヲ舉ケテ小隊長ニ報告スル爲ニハ三番ノ照準完了時機ヲ知ルヲ要スヘク其ノ爲ニ「照準終リ」ト發唱セシメントスルナリ

準備完了ヲ報告スル爲片手ヲ舉クル方法ハ無意味ニ舉クルコトナク戰況ト地形トヲ顧慮シ小隊長ニ知ラシメ得ル範圍内ニテ舉クルヲ可トス

特ニヨク遮蔽セラレアルトキ偽裝セル時等ハ一層此ノ注意ヲ必要トス

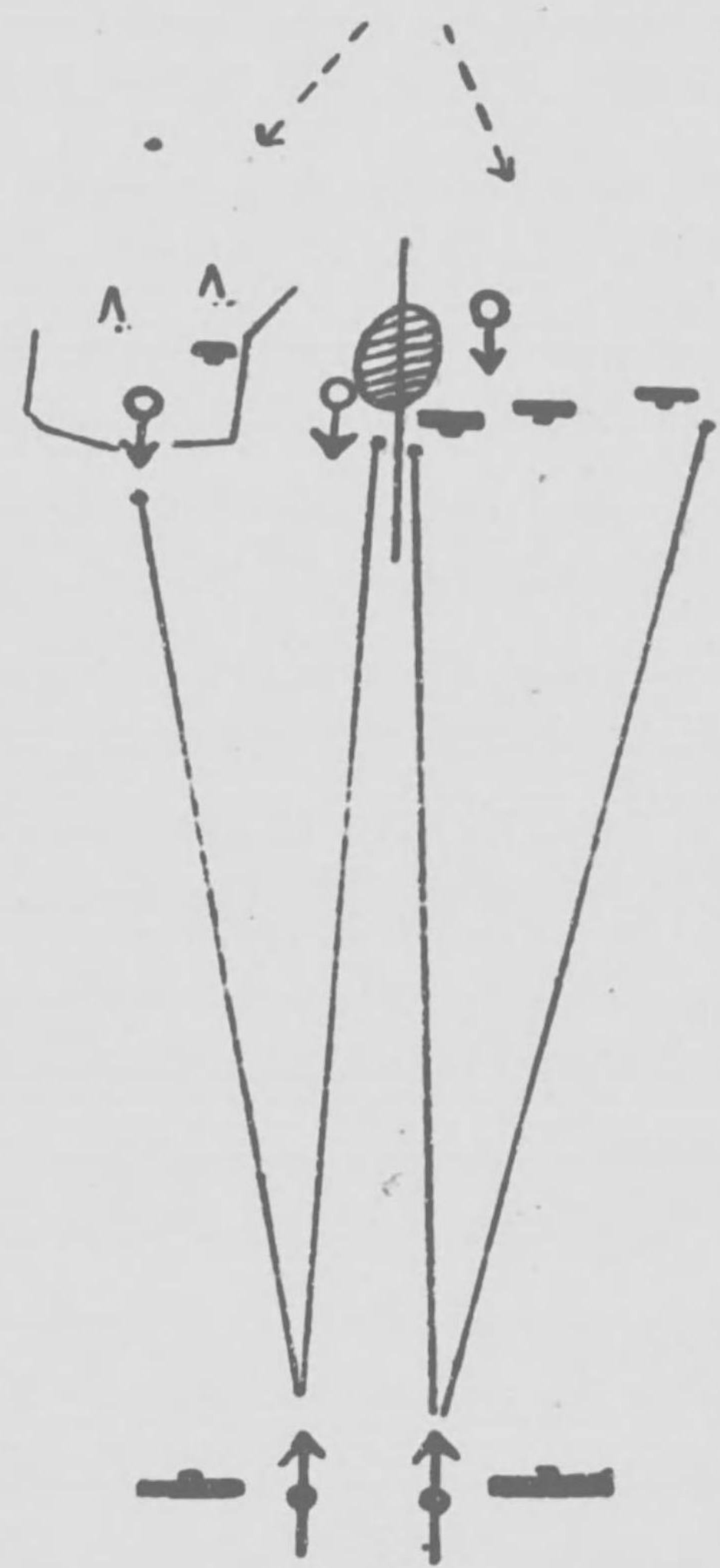
「撃テ」ノ號令ニテ射撃ヲ開始セシム

此際要スレハ三番ニ銃ヲ指向スヘキ部分、射撃スヘキ順序及發射連數等ヲ指示スヘキコト、基本ノ部(等二八九)ニテ説明セルカ如シ

(二) 小隊長ヨリ射撃區域及照尺ノミヲ示サレ射撃ヲ命セラレタル場合

コノ方法ハ本操典ニテ初メテ制定セラレシ法則ニシテ將來ノ戰場ニアリテハ目標點在シ且遮蔽、偽裝等ノ方法ニ依リ目視不明瞭ナル場合多カルヘク、又遭遇戰等ニテハ各種ノ目標、瞬間的ニ出沒スル等、目標及射法ヲ限定シテ示スコト能ハサル場合又ハ不利トスヘキ場合ヲ生スルヲ以テ斯クノ如キ場合ニハ射撃區域ト照尺ノミヲ示シ目標及射法ノ選定ヲ分隊長ニ一任スルノ方法ヲ採用セラレタルナリ而シテ小隊長ニ於テ各分隊毎ニ異ナリタル照尺ヲ示スコトアリ

例、遭遇戦 各種ノ目標隠現シテ射法ヲ一定シ得ス



通常ノ場合  
前ノ部落ノ左右ニ分畫ノ敵  
「六百」「射撃」  
分隊毎ニ照尺ヲ示ス場合  
「第一分隊部落ノ右ノ敵」六百  
「第二分隊部落ノ左ノ敵」五百  
「射撃」

分隊長ノ動作

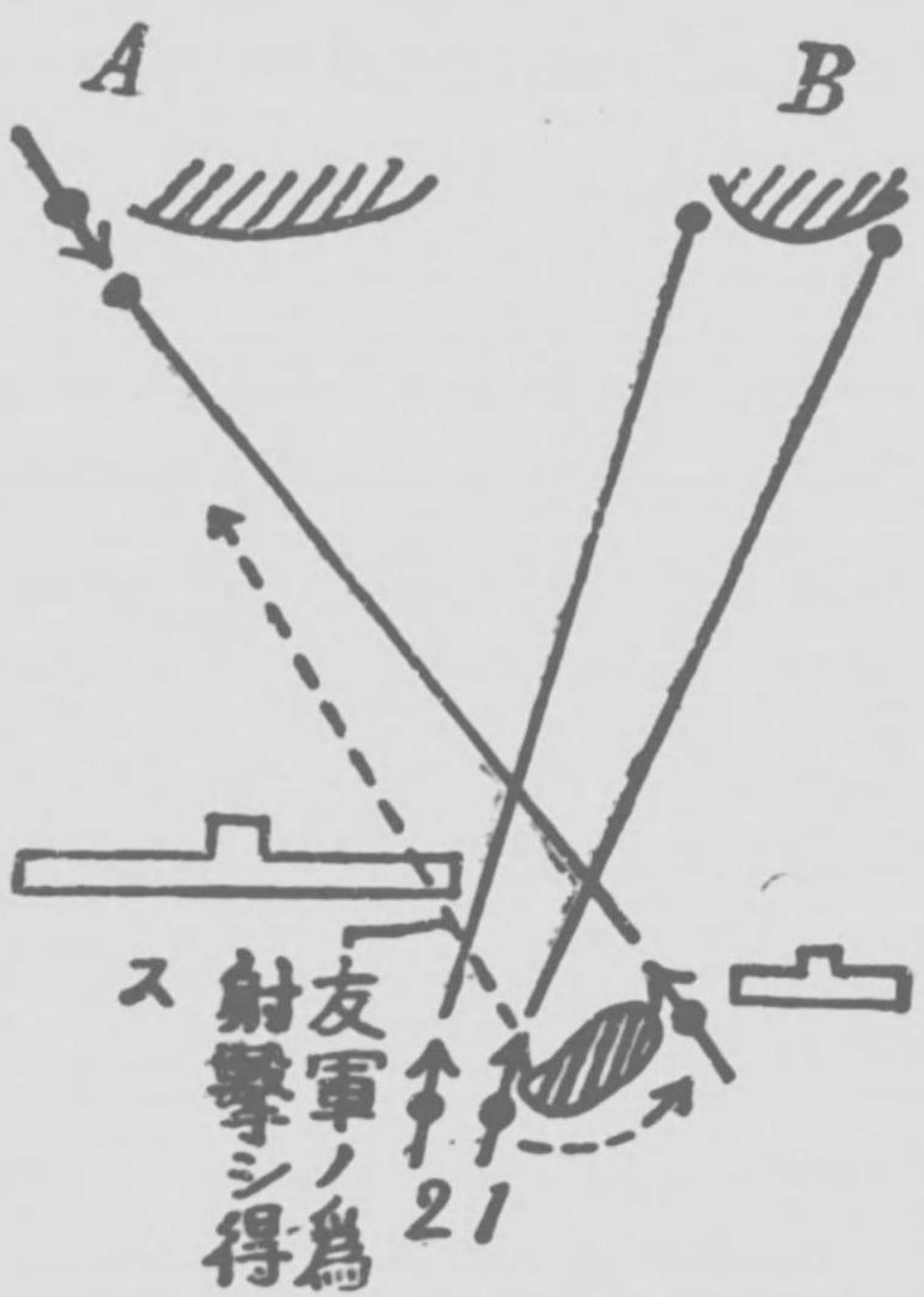
分隊長ハ射撃區域及照尺ヲ復令シ射撃區域中有利ナル目標ニ對シ（「有利ナル目標」ノ判定ニツキテハ基本ノ部第三八九ニテ詳述セリ）適當ナル射法ヲ應用シテ射撃ヲナスモノトス（射法ノ用法モ第三八九ニ記述セリ）

(三) 時宜ニ依リ分隊ニ射撃任務ヲ與ヘラレタル場合（「第四六七」參照）

目標ノ景況相錯綜シアリテ前述ノ如キ指示ヲナスコト困難ナル場合或ハ戰況ノ變化

ニ伴ヒ小隊長統一シテ射撃ヲ指揮シ得サルカ如キ場合ハ分隊ニ射撃任務ノミヲ與ヘテ其他ハ分隊長ノ獨斷ニ委スルヲ利トスルコトアリ  
左ニ二、三ノ場合ヲ例示セン

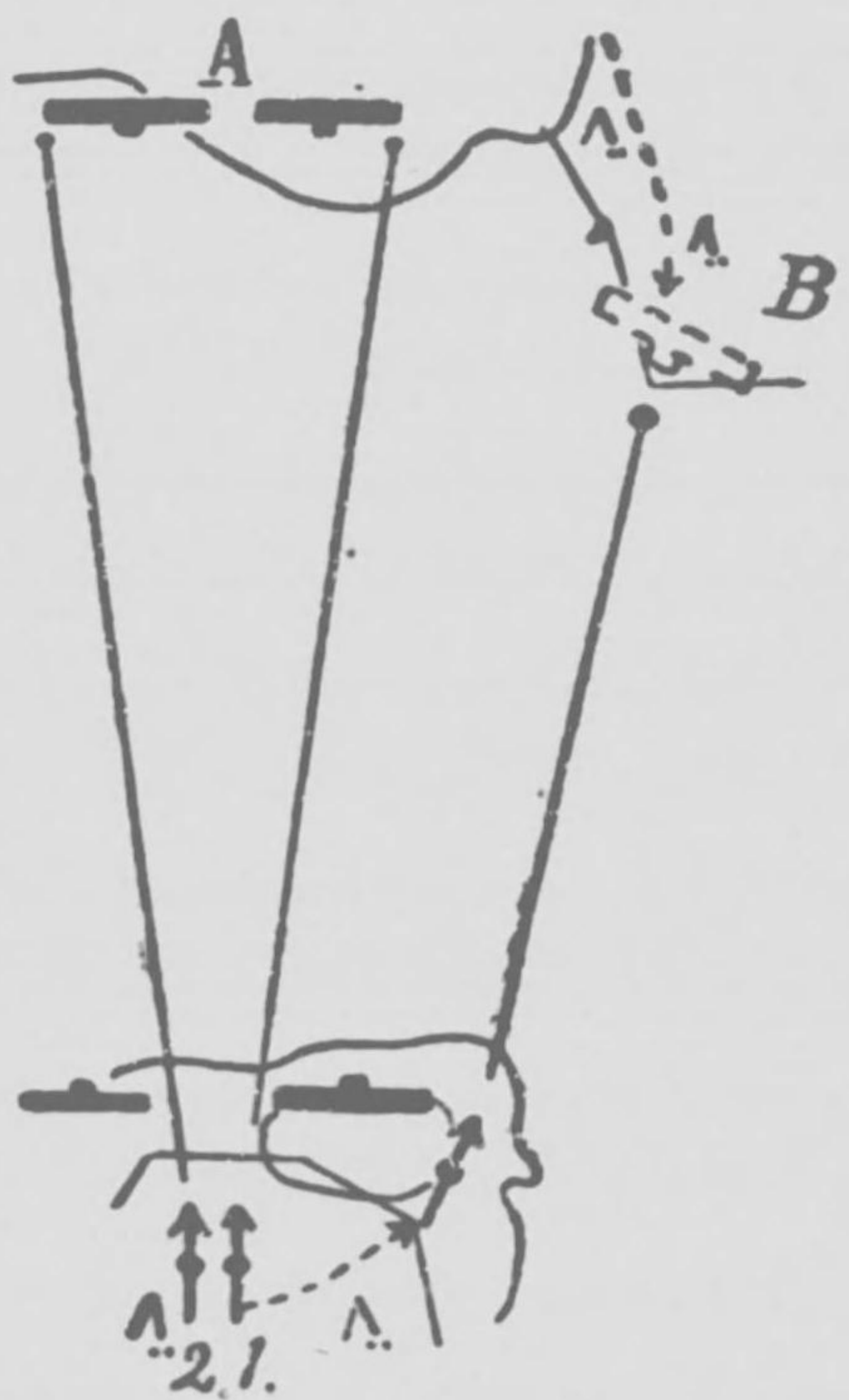
例一



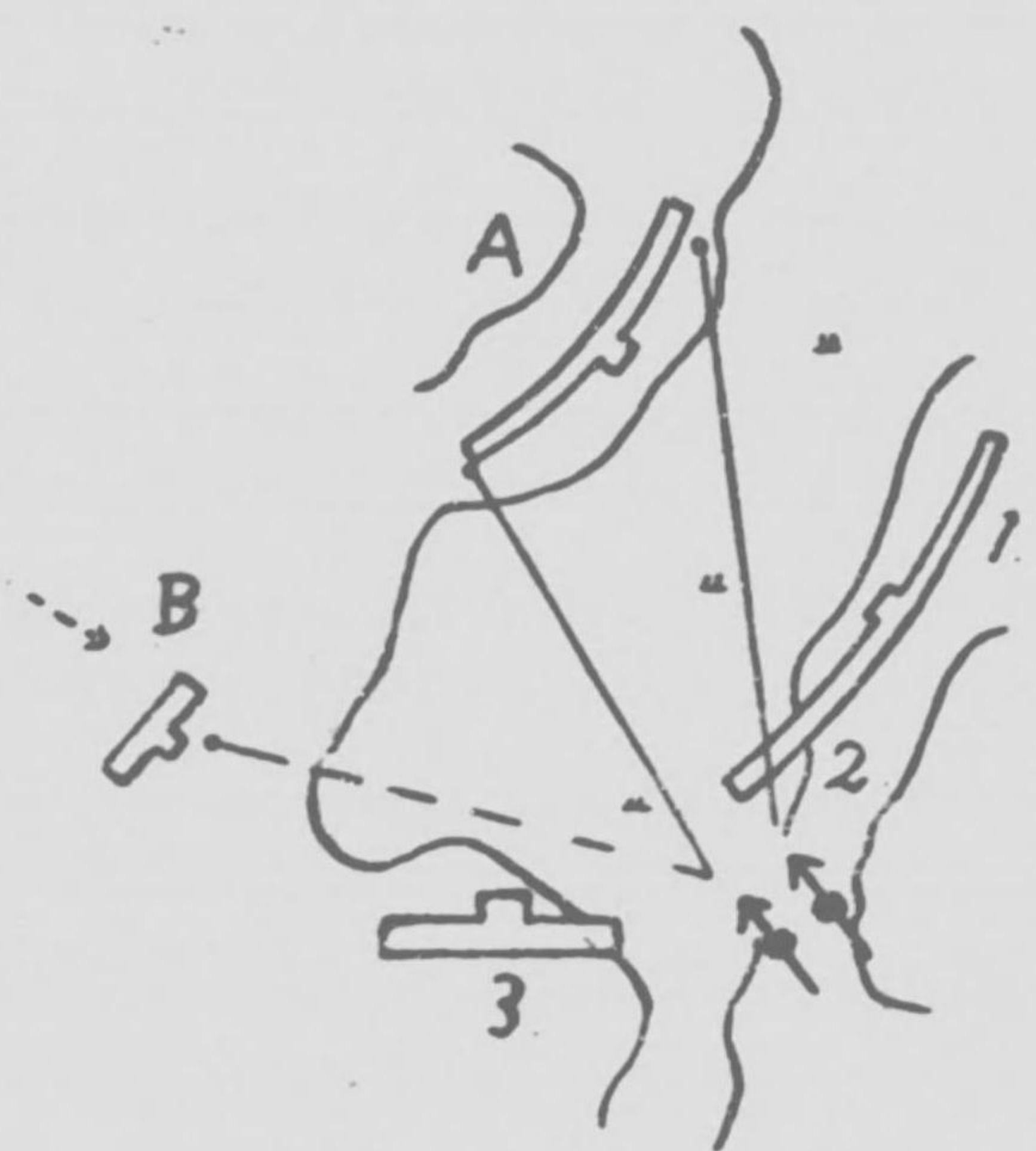
狀況  
小隊ハB支點ヲ射撃中ナリシモAニ現出セル機關銃ヲ射撃スル爲第一分隊ヲ部落ノ東北端ニ進出セシムルカ如キ場合  
命令  
「第一分隊ハ部落ノ右端ニ陣地變換  
Aノ機關銃ヲ射撃セヨ」

例二





狀況  
 小隊ハAヲ射撃中ナリシニBニ新敵現出セリ  
 命令  
 「第一分隊ハ山ノ右側ニ陣他變換  
 我右翼ヲ包圍シ來ル敵ヲ射撃」



狀況  
 Aニ對シ射撃中Bニ新敵現ハレ第三中隊ハ前進困難トナレリ  
 命令  
 「第二分隊ハB方向ノ敵ヲ射撃シ主トシテ第三中隊ニ協カスヘシ」

右ノ如ク射撃任務ヲ與ヘラレタル場合ハ分隊長ハ其任務ニ從ヒ自ラ目標、照尺及射法ヲ選定シテ射撃ヲナスモノトス而シテ斯ノ如キ場合ハ通常一時的ノ指揮系統ニシテ其任務ヲ終了スルカ或ハ更ニ狀況ノ變化ニ依リテ再ヒ小隊長ノ指揮下ニ復歸スルヲ本則トス

五、以上各場合ヲ通シテ分隊長ノ職責トシテ勉ムヘキ事項

(一) 注意シテ觀察スヘキ事項

敵情、彈著ノ景況、銃ノ機能

(二) 監視スヘキ事項

銃ノ高サ。 地物利用

適當ナリヤ

照尺ノ裝置。 銃ノ指向

分隊長ノ指示ニ基ク三番ノ彈著修正適切ナリヤ

沈著シテ操作スルヤ

彈藥ヲ浪費セサルヤ

能ク指揮官ニ注意シアルヤ

(三) 所要ニ應シ自ラ照尺及照準點ヲ變換シテ彈著ヲ修正ス

茲ニアル「自ラ」ノ意ハ「自分カ手ヲ下シテ」ノ意味ニアラスンテ「小隊長ノ命令ナクモ自己ノ判断ニテ銃手ニ指示シテ行フ」ノ意ナリ

彈著修正ノ爲ニ照尺ヲ改装スルハ遠近百米以上ノ場合ニテ百米以下ハ照準點ノ移動又ハ轉輪ノ操作ニ依ル(射撃教範「第九七」參照)故ニ照尺ノ改装ハ獨斷ナルモ(元來小隊長ノ職責ナリ)照準點ノ變換ハ轉輪修正ト同様ニ當然分隊長ノナスヘキ修正法ニシテ敢テ喋々ヲ要セサル所ナリ

(四) 分隊長カ三番ニ代リテ自ラ射撃スル場合

目標ノ認識困難ナルカ或ハ銃手ノ理解充分ナラサルトキ其他必要ナルトキハ分隊長一時三番ニ代リテ射撃ヲ行フコトアリ

斯ノ如キ目標ニ對シ強テ了解セシメントシテ時間ヲ要スルヨリハ寧ロヨク了解シアル分隊長カ自ラ銃ヲ操作シ其目標ヲ照準シテ射撃シ實彈ト照準トヲ以テ三番ニ了解

セシムルヲ得策トスヘケレハナリ

而シテコノ動作ハ全ク一時的ノモノニシテ三番了解スルヤ射撃ノ操作ハ之ニ讓ルヘキモノトス、コレ分隊長ニハ尙幾多ノ重要任務アルヲ以テ一目標ノ射撃ニ執著スヘキモノニアラス

第四〇九

本條ハ射撃中止間ニ於ケル分隊長ノ著意事項ヲ記述セラレアルモ必スシモ射撃中止間ト云ハス射撃間ニアリテモ狀況ニ應シ本條ノ事項ヲ實施スルノ必要アルヘク戦闘間ノ動作トシテ訓練スヘキ重要事項トス

機關銃ハ有利ナル目標ニ對シ急襲的ニ射撃ヲ行ヒ效果アルヤ更ニ他ノ有利ナルモノニ射撃ヲ指向スルモノニシテ常時不斷ニ射撃ヲ繼續スルモノニアラス故ニ戰場内ニ有利ナル目標ナキトキハ適時射撃ヲ中止シ以テ銃ヲ愛護シ彈藥ヲ節約セサルヘカラス、コノ中止間コソ銃ノ休養時期ニシテ必要時ニ際シテ再ヒ活躍スヘキ「エネルギー」ヲ蓄積シ諸準備ヲ完了スヘキ好機會ナリ

乃チ此際、銃ノ冷却、手入、注油、點檢等ヲ行フヘキモノトス而シテコノ注意ハ多數彈ノ連續射撃後ニ於テ特ニ必要ナリ。以下先ツ多數彈發射ノ諸現象ヨリ研究ヲ進メントス

(一) 多數彈連續發射後ノ諸現象

(1) 銃身(腔中)熱度ノ關係

發射彈三百發迄ハ概ネ一發ニツキ一度ノ割ニテ増加、三百發以上ハ二發ニツキ一度ノ割ニ上昇ス

(2) 熱度ト公算躲避

銃身冷却時ノ公算躲避ヲ一トスレハ

六〇〇—二〇〇〇發連續發射後熱シタルマ、ナレハ 一、四倍

同シク冷却シテモ手入セサルトキハ 一、三倍

三、四〇〇—三、八〇〇發連續發射後 二、四倍

(3) 初速ノ減度ハ著シカラス

(4) 金質ニハ大ナル影響ナキモ銃ノ命數ニハ大ナル關係ヲ及ホス

(5) 多數彈發射ニ伴ヒ規整子分畫ヲ伸縮スルヲ要スルコトアリ

(6) 油槽ノ油ハ一杯ニ充填セハ深サ約三厘ナリ

多數彈發射後其消費量ヲ點檢セルニ銃ニヨリテ大ナル差アルモ十連發射ニ要セル油量ハ概シテ一耗乃至六耗ノ深サヲ消費セリ

油ノ消費量モ亦銃ノ固癖ナルカ如シ(主トシテ油導子、同發條等ノ機能ノ差ニヨルカ如シ)而シテ油ヲ多ク要スル銃ハ發射ニ際シ銃ノ油煙(熱ノタメ油燃燒スル薄煙)多キヲ以テ概ネ判定シ得

(7) 故障ハ發射彈多キニ從ヒ増加ノ傾向アリ故ニ某限度ニ止メテ手入ヲ行フノ要アリ(手入ノ部參照)

(8) 照準線ハ上方ニ偏スルヲ以テ約三連毎ニ修正スルヲ要ス

以上ノ如キ現象ヲ生ス而シテ各種ノ事情ヨリ考察シテ操典第四七〇ニ於テハ一地域ニ對スル一銃ノ連續發射彈數ハ六百發ヲ超エサルヲ可トスル如ク規定セラレアリ本規定ハ單一地域ニ對スルノミナラス全般的ニ連續發射ノ限度(通常ノ場合)ヲ示ス

モノト判断シテ可ナルカ如シ

## (二) 銃ノ冷却ニ關スル研究

本條ニ於テ各種ノ手段ヲ盡シテ銃ノ冷却ヲ圖ルヘキ旨示サレアリ而シテ各種ノ手段ヲ盡ストハ精神上ノ意ヲ多分ニ含ムモノニシテ具體的ノ方法トシテハ戰場ニ於ケル實際ノ状態ヨリ考フレハ多數アルヘキモノニアラス、左ニ若干ノ例ヲ舉ク

### (1) 自然冷却

自然ニ放置スルモノニテ乃チ何等手段ヲ講セサルモノ

### (2) 水冷却

冷却法中最モ實用向ニシテ又效果多キモノトス其ノ實際冷却ノ處置左ノ如シ

- (イ) 豫メ準備セル水(或ハ水囊、水筒等ノ水)ヲ直接銃身ニ注キテ冷却ス
- (ロ) 雑布等ヲ濡ラシテカケ履、之ヲ交換ス
- (ハ) 右ノ如ク雑布ヲカケ交換スルコトナク絶エス水ヲ注ク
- (ニ) 戦闘後等ニテ附近ニ水アルトキハ其位置ニテ手ニテ水ヲカケル

水冷却ニツキ疑問ヲ生スルハ熱シタル銃身ニ冷水ヲ注キテ金質ニ差支ナキヤノ件ナリ本件ハ金質ニ及ホス作用寧ロ自然冷却ヨリモ有利ナリト稱セラル

### (3) 草葉、雪等ニヨル冷却

雪或ハ冷タキ草葉等ヲ直接銃身ニアテ、冷ス

### (4) 風ニヨル冷却

(イ) 通風ヨキ所ニ出シテ(戦闘中ハ斯クノ如キコトハ不可能ナランモ射撃中止間ナラハ爲シ得ル場合アラン)冷ス

(ロ) 銃尾機關ヲ開放シ風ノ流通ヲ良好ナラシム

(ハ) 帽子其他所在ノ物ヲ以テ煽キ風ヲ送リテ冷ス

之等各種ノ方法ヲ講シテ如何ナル程度ニ冷却シ得ヘキヤ又ハ幾何ノ發射後素手ニテ持ツニ幾何ノ時間ヲ要スヘキヤ等ハ當時ノ氣温、氣象等殊ニ風ニヨリ著シク差異アルヲ以テ一概ニ之ヲ説明シ難キモ左ニ二、三ノ實驗ヲ掲ケ參考ニ資セントス

一、熱ノ發生ト冷却ノ實驗

- (1) 三連發射後耐熱銃身覆ヲ用ヒテ約三、四分間銃身ヲ握リ得
- (2) 五連(一五〇發)發射セルニ銃身ヲ握リ得ス
- (3) 約六〇連(一八〇〇發)發射セルニ煙草ニ點火シ得ルニ至レリ  
之ヲ水ニテ冷却セルニ七分ニテ銃身ヲ持チ得ルニ至レリ自然冷却ニ任スルトキハ少クモ三十分ヲ經サレハ持チ得サルヘシ
- (4) 二〇〇〇發發射セルニ外部ノ熱二九〇度ニ登リ自然冷却ヲ待チシニ銃身ヲ持チ得ル迄約一時間ヲ要セリ

二、大正十四年下志津ニ於ケル實驗概數

| 天候 | 氣溫  | 風速 | 發射彈 | 冷却法 | 銃覆ヲ燒損セス | 掌ニテ握リ得 |
|----|-----|----|-----|-----|---------|--------|
| 曇  | 二〇度 | 無シ | 五七〇 | 自然  | 二五分     | 三五分    |
| 同  | 二〇  | 一米 | 四五〇 | 同   | 一五      | 二〇     |
| 晴  | 二四  | 二米 | 四五〇 | 同   | 一六      | 二二     |
| 同  | 二六  | 一米 | 五一〇 | 同   | 二〇      | 二五     |

|   |    |      |     |                   |    |    |
|---|----|------|-----|-------------------|----|----|
| 同 | 二五 | 無シ   | 四五〇 | 濡雑布ヲ交換シテ冷ス        | 六  | 七  |
| 同 | 二五 | 一米   | 四五〇 | 濡雑布ヲ一回カケタ儘        | 八  | 一〇 |
| 同 | 二六 | 三、五米 | 五七〇 | 水筒一本ノ水ヲカケル        | 二〇 | 二五 |
| 同 | 二七 | 三、三米 | 五一〇 | 濡雑布ヲカケ射撃間絶エス水ヲカケル | 四  | 六  |

右表ハ單ニ一回ノ實驗ニシテ實際ニ現ハレタル結果ヲ示セルニ過キスシテ之ニヨリテ判決ヲナサントスルハ大膽ナルモ大凡ノ基準ハ之ニヨリテ判斷シ得ヘシト信ス

(三) 手入、注油、各部ノ點檢、要スレハ部品ノ交換ニ就テ

之等ノ事項ハ相關聯シアルヲ以テ一括シテ説明セントス

機關銃ハ前述ノ如ク數百否數千發ノ射撃ニモ抗堪シ得ヘシト雖發射ニ伴ヒ火藥燼燻ノ累積、塵埃ノ附著等ニ因リ故障ヲ生起スルニ至ルヘキヲ以テ射撃ノ間斷ヲ利用シ絶ヘス重要部ノ手入ヲ實施シ以テ故障ノ發生ヲ豫防セサルヘカラス若シ戰況分解手入ヲ許サ、ルトキハ約二〇連ノ發射毎ニ藥室ヲ開キ遊底ノ頭部、藥室ニ塗油スルヲ可トス然ルトキハ幾分カ故障ヲ豫防シ得ルカ如シ、何トナレハ右ノ二ヶ所ハ燼燻ノ

最モ附著シ易キ場所ナルヲ以テナリ

油ノ消費量ニツキテハ前述セルカ如キ状態ナルヲ以テ油槽ノ油ヲ充實スルコトニモ著意シアルヲ要ス

射撃中銃ノ各部ニ缺損、緩解、螺子ノ戻回等ヲ生シ故障トナルコト少カラス特ニ瓦斯誘導螺ノ状態ニハ留意ヲ要ス之カ緊定不十分ナリシ爲弛緩シテ瓦斯漏ヲ生シ又甚タシキハ戻回シテ瓦斯「ポンプ」内ニ脱落セルカ如キ例アリ又、撃莖尖端折損シ折レタル尖端カ圓筒頭部撃莖室内ニテ動搖シ「マクレ」ヲ生セル例アリ、發射約二〇連ニシテ門子缺損セルコトアリ、抽筒子發條弱キタメ抽筒子脱出シ圓頭ト發條トノ間ニ介在シテ故障ヲ生セルコトアリ

要スルニ射撃ニ際シテハ射撃ノ中止間ト實施間トヲ問ハス絶ヘス各部ノ機能爆聲等ニ著意シ又打殼藥莖ヲ點檢シ要スレハ銃ノ部品交換ヲ行ヒ以テ故障ノ絶滅ヲ期セサルヘカラス戰況中ニ於テナシ得レハ地形ヲ利用シ分隊長以下協同シテ上記ノ如キ諸作業ヲ行ヒ且戰ヒ且入スルノ要領ヲ會得スルニ至リテ初メテ分隊長ハ戰鬪教練ニ慣

熟シタリト稱シ得ヘキナリ

#### 第四一〇

本條ハ戰鬪間ニ於ケル分隊長ノ覺悟ト著意トヲ示シタルモノニシテ分隊長ハ縱令小隊長ノ指揮下ニ在リテ戰鬪スル場合ニテモ何時如何ナル事由ニヨリテ獨斷射撃ヲ指揮スルノ必要ヲ生スルヤ豫測シ得サルヲ以テ之カ覺悟ト準備トヲ整ヘアルヲ要スルモノトス即チ戰況ノ變化ニ際シ一々小隊長ノ指示ヲ待ツコトナク分隊長カ獨斷射撃指揮ニ任スルコトアルヘク又敵彈雨飛ノ間戰場ニ於ケル通信連絡ハ兎モスレハ杜絶シ易ク特ニ煙幕等ニヨリテ通視不能ニ陥リ好機ヲ逸スル虞アルカ如キ場合モアルヘク之等ヲ考慮スルトキハ獨斷射撃指揮ヲ採ルノ機會ハ屢、發生スヘク想像セララル

故ニ分隊長トシテハ何時ニテモ小隊長ニ代リテ獨斷射撃任務ヲ遂行シ得ル如ク常ニ戰場内一般ノ狀況ヲ明ニシ小隊長ノ任務ヲ了解シアリ且力メテ附近ニアル友軍ト連絡ヲ密ニシ以テ戰鬪ノ經過ヲ詳知シアルヲ要スルモノトス

## 陣地變換 (第四一一—第四一二)

## 第四一一

## 一、要旨

機關銃ハ戰場ニ於テ屢ニ陣地變換ヲ行フノ必要ヲ生ス之レ狀況ノ推移ニ從テ適時任務ヲ達センカ爲必要ナルノミナラス一旦射撃ヲ開始シタル後ハヨク秘匿セラレタル場合ノ外同一陣地ニ於テ永ク射撃ヲ繼續シ能ハサルコト多キヲ以テナリ蓋シ機關銃ハ其任務ヲ積極的ニ達成センカ爲步兵ノ前進ニ伴ヒ其陣地ヲ推進シ或ハ敵ノ側防機關制壓等ノ爲各所各方面ニ陣地ヲ變換シ有利ニ射撃セサルヘカラス又射撃開始後永ク同一陣地ニアル時ハ敵彈ノ集中ヲ受ケ多大ノ損害ヲ蒙リ遂ニ威力ヲ發揚スルコト能ハサルニ至ルヘキヲ以テナリ

茲ニ於テカ機關銃ハ陣地進入ヲ秘匿シ不意ニ射撃ヲ開始シ所望ノ效果ヲ收ムルヤ適時陣地ヲ變換シ敏活ニ行動シテ戰場到ル所ニ出沒シ敵ヲシテ端倪ニ遑ナカラシムル如ク

スルノ覺悟アルヲ要ス而シテ前進動作ト變換動作トハ共ニ同等ニ訓練スルヲ要ス右ノ如ク陣地變換ノ動作ハ進入、射撃ノ動作ト相俟テ重要課目ノ一ナルヲ以テ各種地形、各種狀況ニ應シ敏活適切ニ行動シ得ル如ク演練スルヲ要ス陣地變換ハ通常小隊長ノ命ニヨルヲ本則トス操典第四五七ニ示ス位置ノ移動モ本要領ニ依リ行フモノニシテ特ニ慣熟セシムルヲ要ス

## 教育上著意スヘキ事項

- 1 陣地變換ハ敵ニ察知セラレサル爲極メテ迅速ニ行ヒ且極力遮蔽ニ努ムルヲ要ス動作ヲ滯滞シ無意味ニ姿勢ヲ高クスルカ如キハ最モ不可ナリ
- 2 分隊長ハ爲シ得レハ陣地變換前ニ新陣地ヲ概定シ要スレハ之ニ到ル進路ヲ定メ前進スルヤ速ニ新陣地迄躍進スルヲ可トス然レトモ距離遠キトキハ地物ヨリ地物ニ躍進シ前進中ニ於ケル損害ヲ減少スルコトニ勉メサルヘカラス
- 3 陣地變換ノ時機ハ敵火ノ景況、比隣部隊ノ狀態等ヲヨク顧慮シテ之ヲ定ムルモ

重要ナル時機ニ於テ歩兵ノ援助ヲ缺カサルコトニ注意セサルヘカラス

4 陣地變換ハ成ルヘク遮蔽シテ行フヲ可トスルモ狀況ニヨリテハ暴露シテモ迅速ナルヲ要スルコトアリ

5 敵砲火ノ損害ヲ減少センカ爲ノ陣地變換ハ少クモ五十米ハ離隔セシムルヲ要ス

## 二、射撃姿勢ヨリ直ニ撤去セシムル方法

射撃姿勢ヨリ直ニ撤去セシムルニハ變換用意「進メ」ノ號令ヲ以テシ同時ニ行フ場合ト各個ニ行フ場合トアリ

其何レノ場合モ戰場ニ於テ屢々生起スルモノニシテ最モ意ヲ用ヒテ教育シ置クヲ要ス本動作ハ通常地形地物ヲ利用シテ行フモノニシテ「動作ヲ秘匿スルコト」「迅速機敏ナルコト」「分隊長ノ手裡ヲ脱セサルコト」等ニ著眼スルコト肝要ナリ

### (一) 教育上著意スヘキ事項

(1) 要領ヲ説明スルニハ稜線等之ニ適スル地形ニテ行ヒ銃手ヨク了解シタル後各種ノ地形地物ニテ實際的ニ演練セシムルヲ可トス

平坦地ニ於テ行フハ意義ナシ

(2) 同時撤去ヲ行フ場合ハ通常狀況急ヲ要スル場合ナルヲ以テ迅速ヲ主トシ各個撤去ハ之ニ反シ遮蔽ヲ主トシ教育スルヲ要ス

分隊長ノ指示ノ適否ハ特ニ動作ノ難易ニ關スルコト大ナリ故ニ分隊長ノ動作ニ著意シテ教育スルコト肝要ナリ

### (二) 同時撤去ノ要領

(1) 同時撤去ヲ行フヘキ場合ハ通常

1 最モ速ニ新陣地ニテ射撃スルヲ要スル場合

2 現陣地既ニ敵砲火ニ夾又セラレ極メテ危険トナリ不取敢一時後方ノ掩護下ニ撤去スルヲ有利トスル場合

(2) 動作

1 分隊長ハ撤去法、掌握ノ場所等ヲ定メ(要スレハ指示シ)タル後「變換用意」ヲ令ス



2 一番、三番ハ直チニ「撃方止メ」ヲナス

一番ハ彈藥箱ヲ後方ニ押シヤリ前棍ヲ脱シアラハ之ヲ裝ス三番ハ後棍ヲ裝ス

(3) 「進メ」ニテ一番ハ左前脚ヲ三番ハ後脚ヲ握リ兩銃手協力シテ銃ヲ引キ摺リ若干後退ス

4 次テ一、三番ハ二人搬送ニテ成ルヘク地物ニ遮蔽シツ、迅速ニ後退ス

5 二番、四番ハ豫令ニテ匍匐シテ銃側ニ至リ彈藥箱ヲ引キ摺リ若干後退シ「進メ」ニテ銃ト共ニ後退ス

6 分隊長ハ遮蔽下ニ入ラハ一應停止シテ掌握ヲ確實ニスルヲ要ス

操典ニ「撤去ノ當初」トアルハ此時機迄ト解シテ可ナリ爾後ハ普通ノ搬送法ニ依ルヲ通常トス

7 應用トシテ

「進メ」ノ令ニテ一番、三番ハ直チニ前後棍ノ間ニ入り後方ヲ向キテ一舉ニ銃ヲ撤去スルコトヲモ實施シテ可ナリ

是ハ特ニ後方ニ有利ナル地物アリテ敵彈ヲ避クル爲速ニ遮蔽下ニ入ラントスルトキニ用フ

斯クノ如キ場合ニハ「變換用意」ノ次ニ「速ニ」等ノ指示ヲ與フルヲ可トス

(三) 各個撤去ノ場合

(1) 各個撤去ヲ行フ場合ハ通常

1 撤退ヲ秘匿スルヲ第一トスル時

2 側方ニ變換スル場合、同時ニ行フ時ハ機關銃タルコトヲ發見セラル、虞レアル時

3 豫メ新陣地ニ彈藥ヲ搬送シ置ク等諸準備ヲナシタル後速ニ銃ヲ變換セントスルトキ等

(2) 動作

1 分隊長ハ「變換用意」ノ次ニ「各個ニ」ヲ加ヘ直チニ「進メ」ト令ス

2 要スレハ分隊長ハ逐次變換スル順序、時機ヲ示スコトアリ

- 3 銃手ハ同時撤去ノ要領ニ準シ(或ハ示サレタル順序ニ)各個ニ先ツ指示セラレタル位置ニ向ツテ匍匐前進等ニヨリ成ルヘク遮蔽シツ、撤去ス
- 4 地形地物ノ遮蔽ニ利用スルニ充分ナラサル時ハ要スレハ早駆ノ躍進等ヲ用フ

(参考)

銃位置ノ移動ニ就テ

銃位置ノ移動ニ就テハ制式トシテ何等規定ナキモ陣地變換ノ應用トシテ分隊教練ニ於テ演練シ置クコト肝要ナリ

抑、銃位置ノ移動ト陣地變換ノ差異ニ就テハ疑問ノ存スルモノ少カラスト雖概ネ次ノ如ク解釋スルヲ適當トス

陣地變換ハ一層有效ニ任務ヲ達成センカ爲行フモノニシテ(第四五六)廣範圍ノ變換ヲ意味シ銃ノミナラス彈藥手モ位置ヲ變換シ彈藥補充路モ自然變換スルニ至ルコトアリ

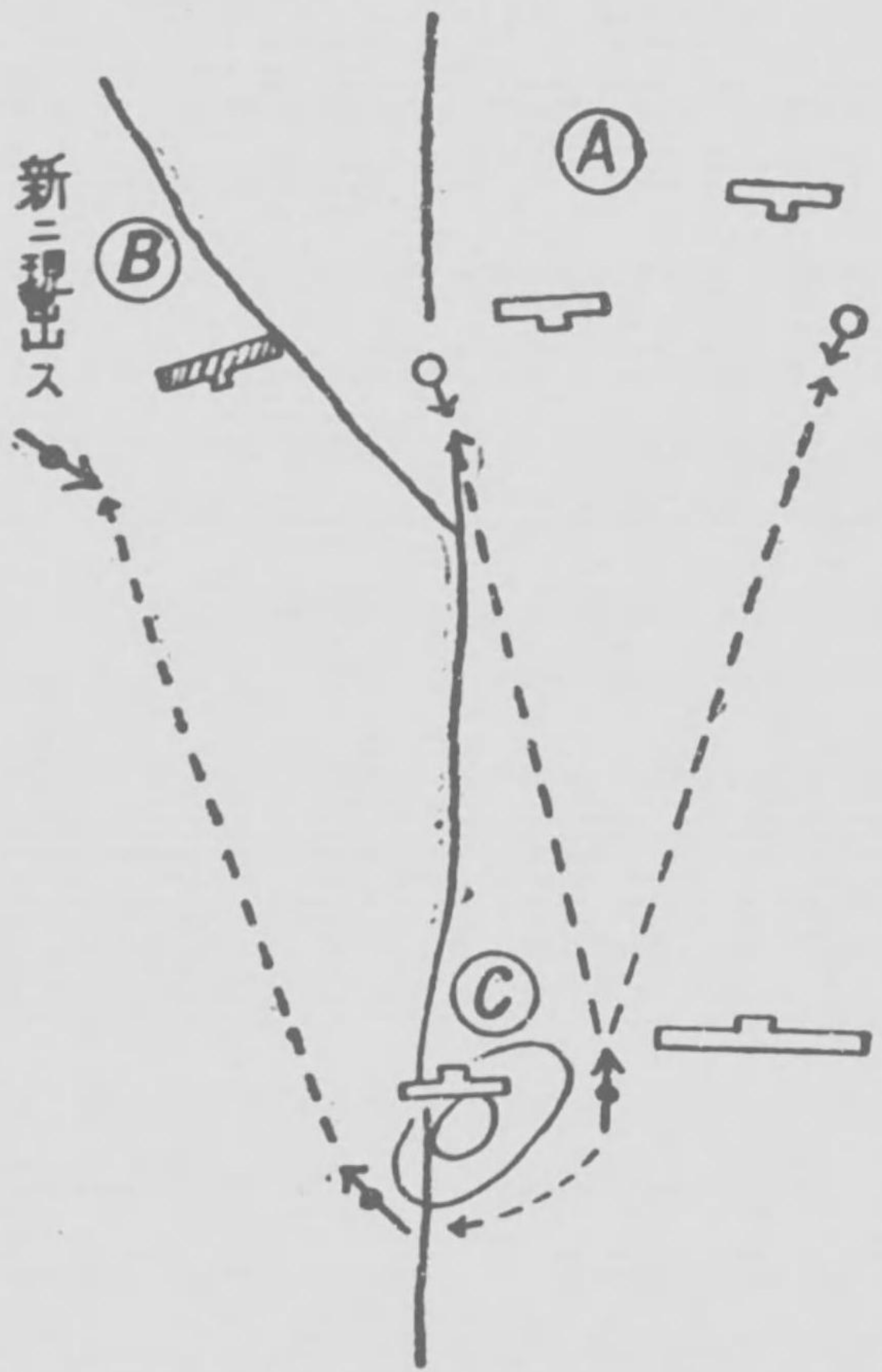
銃位置ノ移動ハ一層有效ナル射撃ヲナサントスルトキ或ハ敵ノ認識ヲ避ケテ損害ヲ減少セントスル際行ヒ銃ノ位置ヲ若干移動スルモノニシテ指揮官七、八番或ハ二番等ハ移動

セサルコトモ生スヘク其性質ヲ異ニスルモノナリ

然レトモ實施上ヨリスレハ嚴密ナル區別ヲナシ難キ場合少カラス

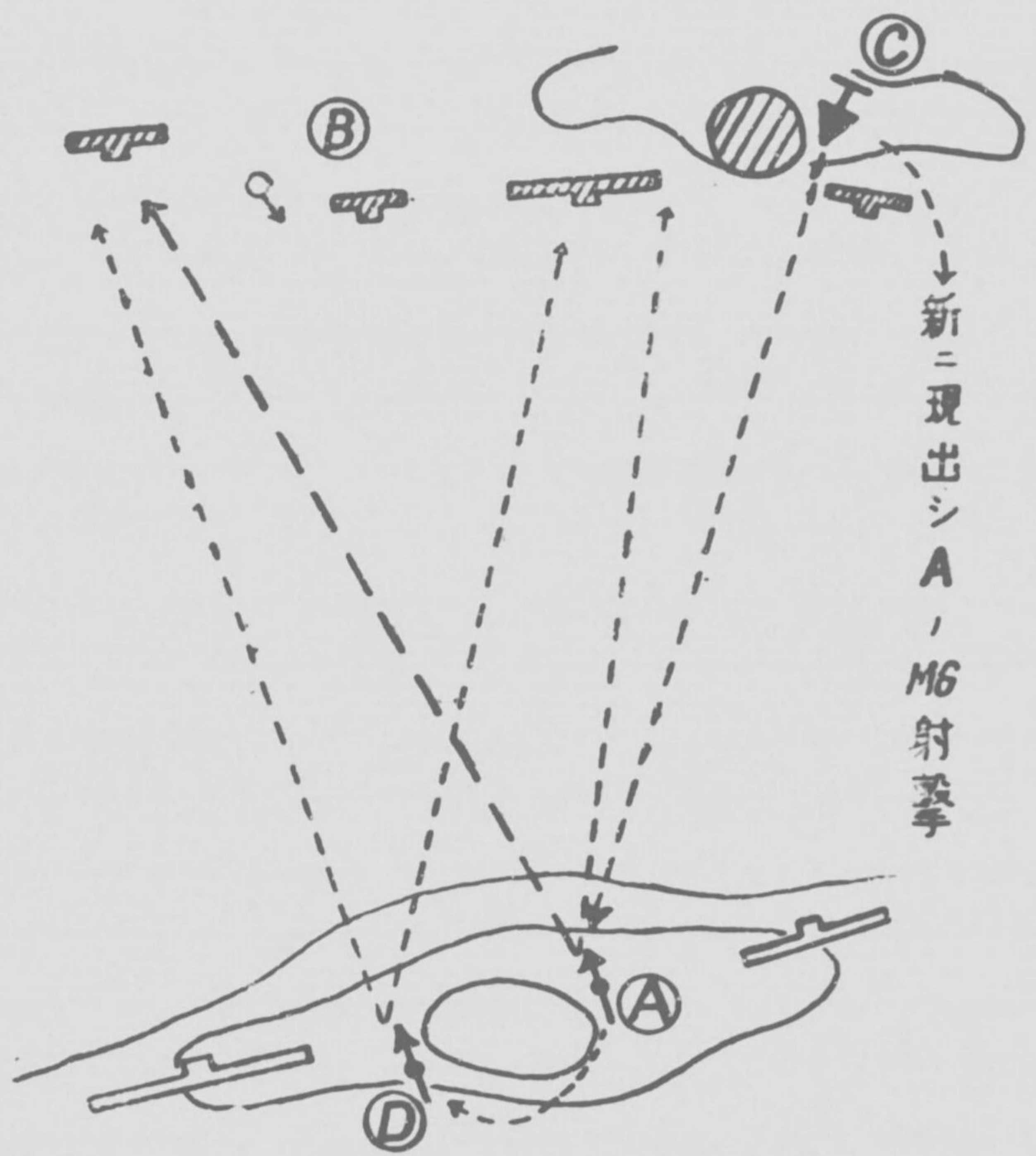
銃ノ位置ヲ移動スルカ如キ場合ノ一例

- (一) 一層有效ナル射撃ヲナサントスル場合



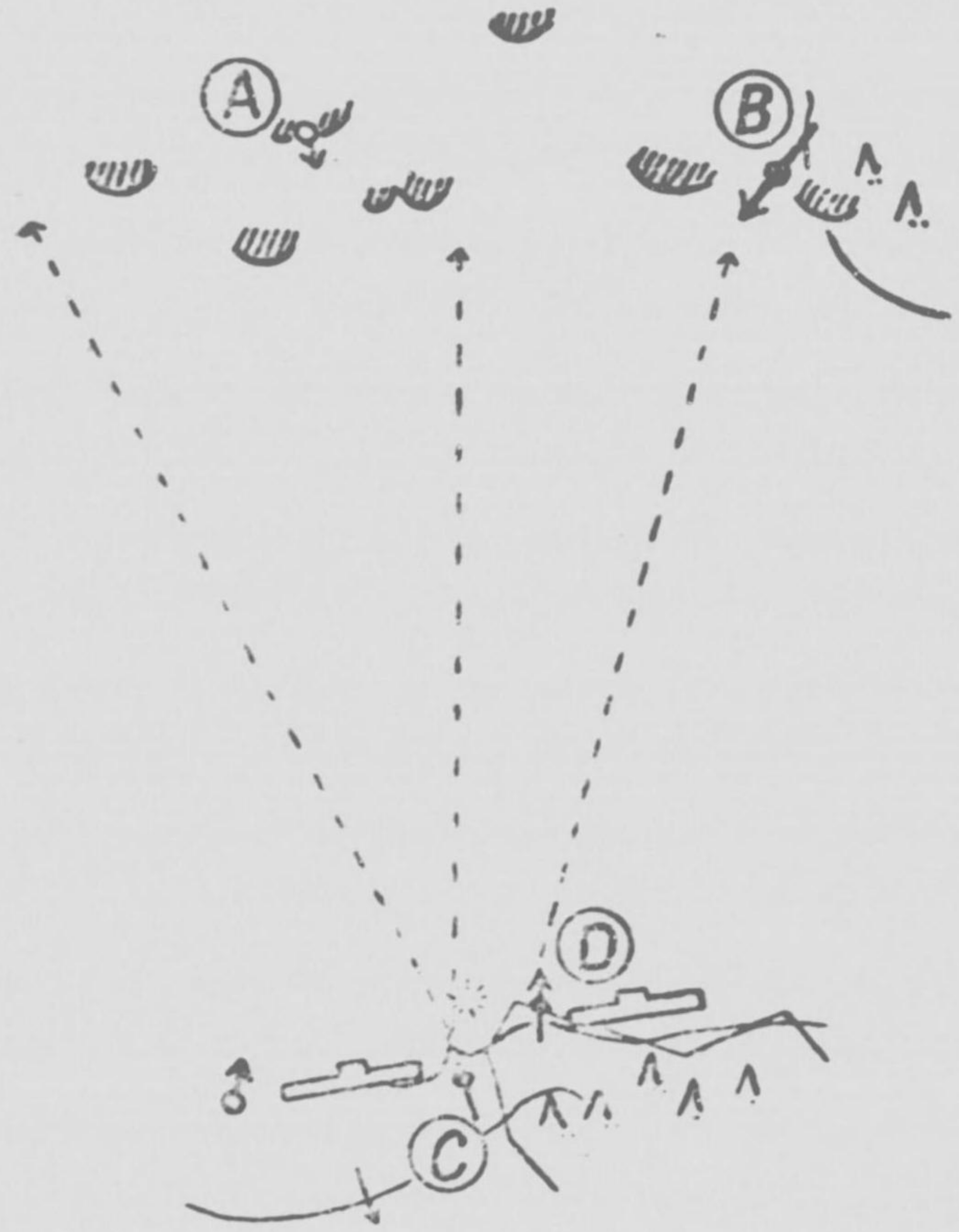
Cノ堆土ヲ利用シA方向ノ敵ヲ射撃中Bニ新たナル敵現出我左翼ヲ猛射ス

故ニ銃ヲ堆土ノ左側ニ移動シテBニ對シ射撃ス

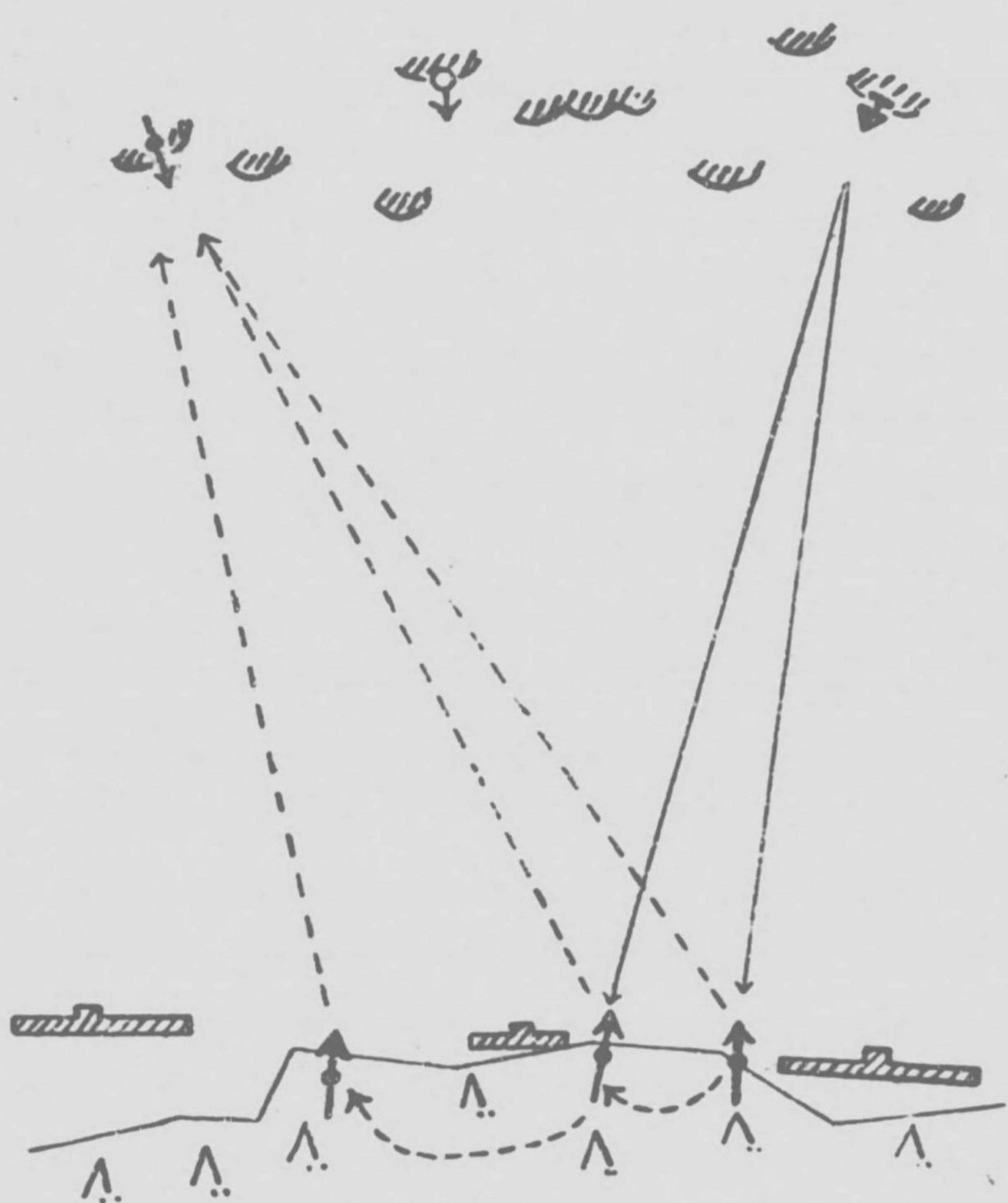


(二) 位置ノ移動ニ依リ認識ヲ困難ニシ損害ヲ避ケントスル場合

AヨリDニ位置ヲ移動シAノ射撃ノ損害ヲ避ク



Cニ於テA方向射撃中Bニ敵機関銃現出コレニ對シ射撃セントスルモ現在地ニテハ見エ難シ依テDニ銃ヲ移動ス



此ノ森林ヲ利用シ適時銃位置ヲ移動  
シ敵ノ認識ヲ困難ナラシム

分隊長ノ動作

銃位置ノ移動ヲ命セラル、ヤ「撃方止め、銃移動、アノ位置(コノ方向)(何々ノ右)」ト  
令シ直チニ新位置ニ移ラシメ射撃開始ヲ命ス移動ノ方法ハ情況、地形ニ適合セシムル

ヲ要ス

銃手ノ動作

- 1 一番、三番ハ陣地變換ノ要領ニ依リ移動ス
- 2 四番ハ銃側ノ彈藥箱ヲ新位置ニ運フ
- 3 二番ハ依然現位置ニアルカ分隊長ノ移動ニ伴ヒテ新位置ヲ占メ任務ニ就ク
- 4 前後棍ヲ舊陣地ニ殘シタル儘移動シタル時ハ四番ハ彈藥箱ヲ運ヒタル後此等ヲ整置ス
- 5 五番、六番ハ新位置ニ就クモ七、八番ハ移動セストモ可ナル場合多カルヘシ

第四一二

分隊長ハ陣地變換ニ方リ直接關係アル部隊ニ必要ナル通告ヲナス

一、分隊長ノ通告スヘキ事項

(一) 現在位置ニ於テ通告スヘキ事項

- 1 變換ノ時機、場所、目的

- 2 通路
- 3 掩護ニ關スル希望事項
- 4 要スレハ援助依頼

(二) 新陣地ニ進入スル爲通告スヘキ事項

- 1 銃位置、射撃目標(方向)要スレハ射法
- 2 任務及爾後ノ行動
- 3 掩護ニ關スル希望事項
- 4 情況特ニ敵狀等ノ聽取

二、彈藥補充ニ支障ヲ來サ、ル準備

- 1 變換ト決セハ要スレハ七、八番ニモ彈藥箱ヲ二個所持セシム
- 2 新陣地豫定シ得ハ豫メ彈藥ヲ搬送セシメ置ク
- 3 彈藥小隊ノ一部ヲ配屬セラレタル場合ニハ之ニ對スル處置ヲナス

此等ノ訓練ハ平素小銃部隊ト連繫シテ行フ場合少ナキヲ以テ往々ニシテ等閑ニ附セラ

レ易キモ戰時ニ於テハ機關銃ノ任務達成上極メテ肝要ナリ、而シテ小銃中隊トノ主ナル連絡協同ハ小隊長以上ニ於テ實施セラルヘシト雖彈丸雨飛ノ間徹底セサル場合多カルヘク分隊長モ亦自ラ連繫ヲ密ニシテ戰鬪セサルヘカラス  
 之カ爲操典總則ニモ小部隊ニ於ケル機關銃ト小銃部隊トノ連合演習ヲ高調セラレアリ  
 其主旨ニ則リ特ニ演練スヘキコトヲ肝銘シ置クヘシ

第二款 防 禦 (第四一三—第四一六)

第四一三

(一) 分隊獨立ノ意義

本條ニ於ケル獨立ノ意義ハ小隊長ノ指揮下ヲ離レタル場合ヲ示スヘシ故ニ中隊ヨリ是ヲ見レハ分置シタル場合モアルヘク又歩兵中隊ニ分屬シタル場合モアルヘシ又實際ニ於テ稀有ナルヘキモ大隊長ノ直接指揮下ニ使用セラル、場合モ思考セラル即分隊獨立セル場合ノ指揮系統ヲ圖示セハ左ノ如シ



機關銃ハ通常小隊毎ニ分置セララル、モ〔第四八二〕参照情況、地形ニヨリ分隊毎ニ分置スルノ止ムヲ得サル場合少シトセス即第四八二ニ「時宜ニヨリ分隊毎ニ分置スルモノトス」第七四七ニ「分隊毎ニ分置シテ使用スルヲ要スルコトアリ」ト示セル所以ナリ

(二) 分隊長ノ責務

分隊獨立セル場合分隊長ハ彼我全般ノ狀況、大隊ノ火力配置等ヲ明ニシ、コレニヨリ自己ノ任務ヲ達成シ得ル如ク處置セサルヘカラス、故ニ分隊長タラン者ハ平素ヨリ戰術ノ研究ヲ行ヒ少クモ大隊以下ノ戰闘法ニツキテハ充分ニ了解シアルヲ要スル

モノトス

第四一四

一、陣地、射擊區域内ノ地形、彈藥補充路等ノ偵察

右ハ任務ニ基ツキ狀況ニ適合スルコト最モ緊要ナル等攻撃ノ場合ト何等選フ所ナキモ防禦ニ方リテ特ニ注意ヲ要スル件概ネ左ノ如シ

(一) 陣地ノ偵察

- 1 徒ラニ射界ノ廣濶ヲ希望スルコトナク所命ノ地域ノ火制(特ニ火網内)充分ナルコト
- 2 上空ニ對スル遮蔽並敵火ニ對スル掩護確實ナルコト
- 3 同一射擊目標ノ爲ニモ力メテ機ヲ失スルコトナク迅速容易ニ移動シ得ル數個ノ陣地ヲ準備スルコト
- 4 敵兵突入ノ最後ニ至ル迄陣地ノ掩護確實ナルコト是レカ爲ニハ力メテ陣地前端附近ヲ避クルヲ要ス

## (二) 射撃区域内ノ地形

射撃区域内ノ地形ノ偵察ヲ實施シ得ルハ防禦ノ特性ナルヲ以テ綿密ニ是レカ偵察ヲ行ヒ爾後ノ射撃效果ヲ偉大ナラシムルコトニ注意スルコト必要ナリ其ノ偵察スヘキ事項概ネ左ノ如シ

- 1 敵兵近接ノ難易
- 2 射撃ノ爲死角ノ有無
- 3 緊要ナル地點ニ至ル距離ノ測定

## (三) 彈藥補充路ノ偵察

- 1 多少ノ迂路ヲ通ルモ敵火ニ對スル掩護確實ナルコト
- 2 彈藥集積所ノ偵察

## 二、工事ニ必要ナル部署

防禦ニ於テ分隊ノ實施スルヲ要スル工事ハ概ネ左ノ如シ

## (一) 銃坐ノ構築

- (二) 射界ノ清掃
- (三) 交通壕ノ構築
- (四) 彈藥ノ集積並銃ノ手入ヲ行フニ必要ナル掩護設備
- (五) 彈藥補充路ノ掩護設備
- (六) 偽裝

以上ノ件ヲ顧慮スレハ分隊ノ爲非常ニ大ナル作業力ヲ要スヘク少數人員ト少數ノ器具ヲ以テ是レカ完成ヲ圖ルコトハ極メテ困難ナルヲ以テ狀況ニ鑑ミ緊要ナルモノヨリ逐次之カ完成ヲ計リ人員ノ巧ナル利用ニ注意スルコト必要ナリ

## 三、比隣部隊トノ協調

比隣部隊ト緊密ニ協調スルヲ要スル事項ヲ例示セハ概ネ左ノ如シ

- (一) 比隣部隊ノ配備及火力配置ノ状態ノ聴取
- (二) 前方ニ派遣セラレアル警戒部隊ノ位置及其ノ撤退要領
- (三) 機關銃ノ任務、陣地及射撃區域ノ通報

- (四) 前方ノ地形死角主要ナル地點ニ至ル距離等相互ノ通報
- (五) 比隣部隊ノ逆襲計畫及是ニ對スル機關銃ノ協力法
- (六) 要スレハ機關銃陣地掩護ノ爲特別ナル處置ノ依頼
- (七) 要スレハ工事援助ノ依頼
- (八) 其ノ他敵情通報ノ爲ノ手段

四、要圖寫景圖ノ調製

要圖寫景圖ハ主トシテ射擊指揮ヲ便ナラシムルヲ目的トスルモ亦比隣部隊トノ連繫ノ爲ニモ便ナルヲ以テ力メテ此レカ調製ヲナシ適切ナル利用ニ勉メサルヘカラス而シテ是レカ調製ニ方リテハ時間ノ有無ト其ノ用途トニ基ツキ簡詳其ノ宜シキニ從フヲ要ス

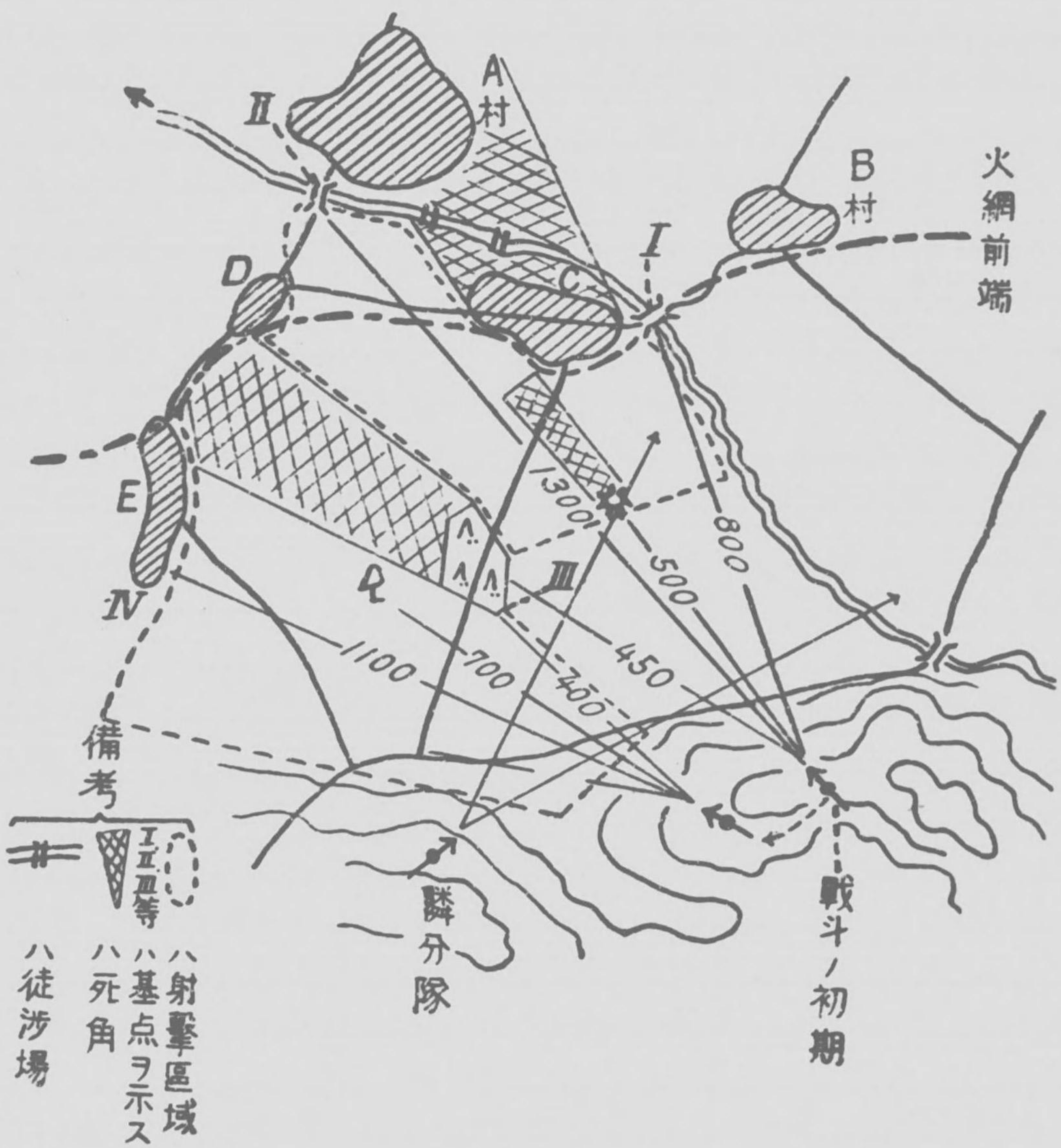
記載スヘキ事項ヲ舉クレハ概ネ左ノ如シ

- (一) 陣地ノ位置
- (二) 射擊區域

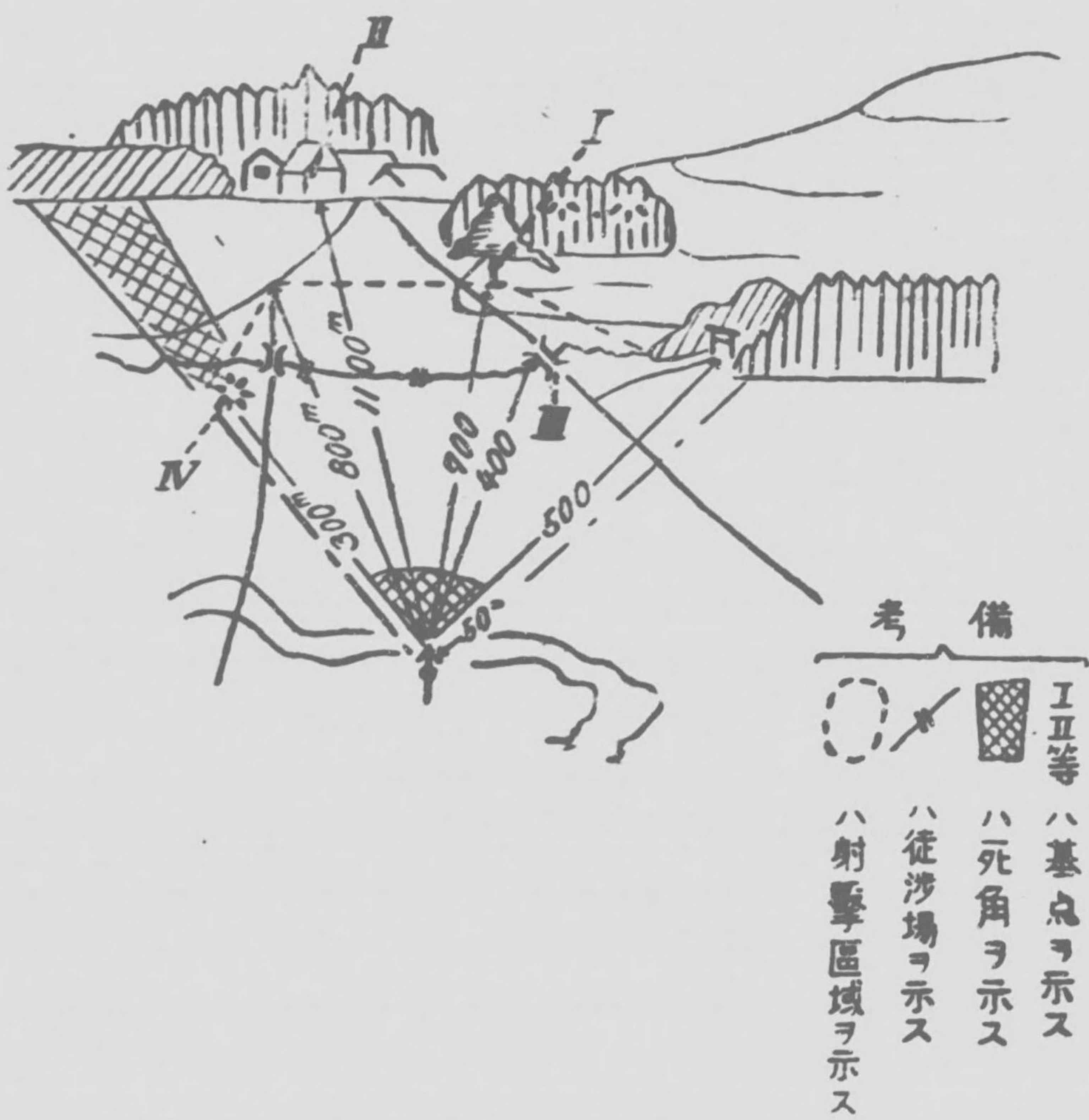
- (三) 射擊區域内ニ於ケル死角
- (四) 射擊區域内ニ於ケル重要ナル地物
- (五) 主要ナル地點ニ至ル距離
- (六) 目標指示ノ基點



要圖ノ一例 (本圖ハ射撃及隣接部隊トノ連繫ニ資スル目的ヲ以テ詳細ニ記述セリ目的ニヨリ尙ホ簡略ナラシムルコトヲ得)

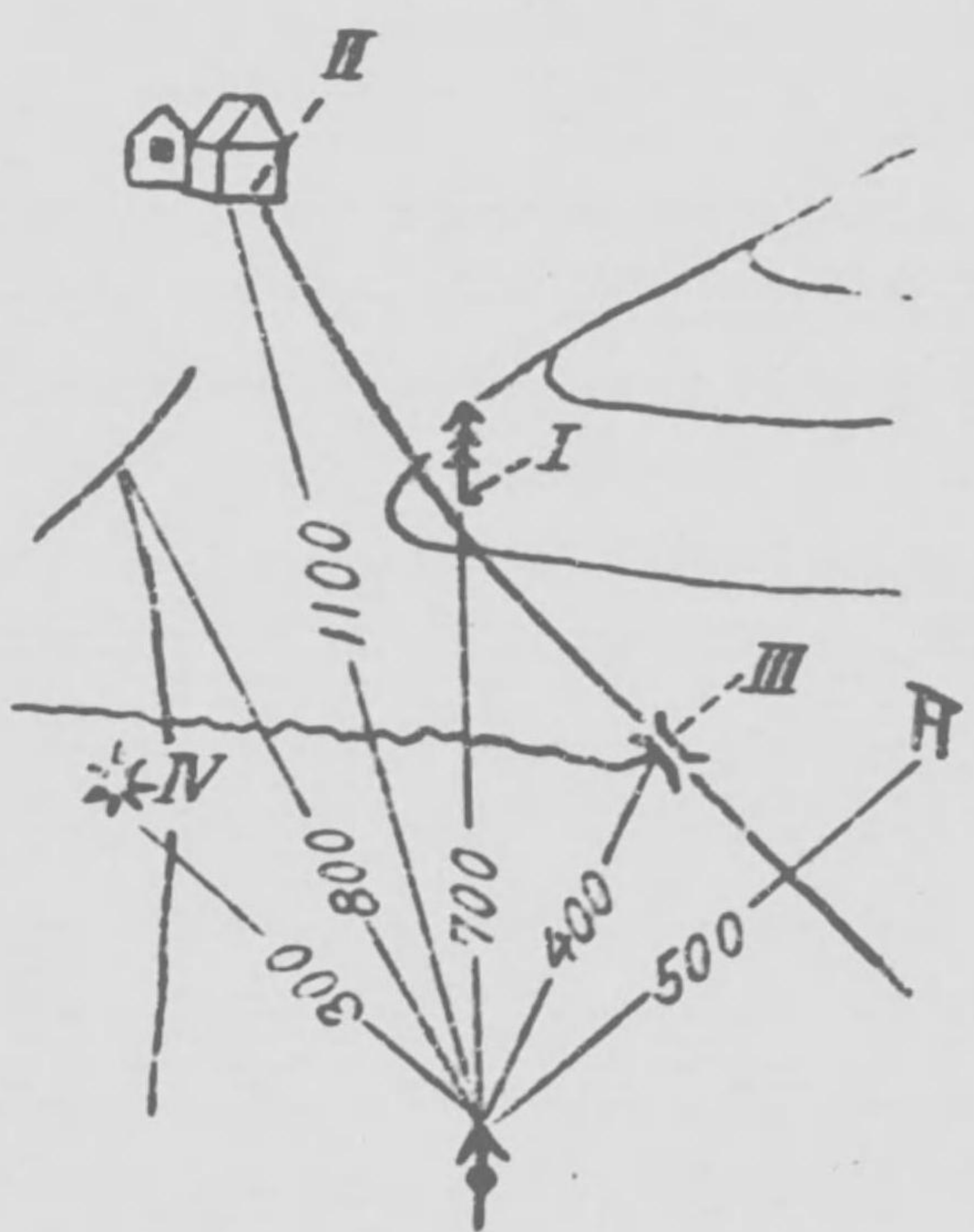


寫景圖ノ一例 (要圖ト併用ス)



時間ニ餘裕ナキ場合ニ於ケル寫景圖ノ一例

(單ニ自己ノ射擊目的ノミニ使用スルニハ本圖ニテ充分ナリ)



### 五、彈藥ノ集積掩護設備

防禦ニ於テハ豫メ陣地附近ニ彈藥ヲ集積スルコトヲ得故ニ成シ得ル限リ所要ノ彈藥ヲ陣地附近ニ集積シ且ツ之レカ掩護ノ設備ヲ施スコト必要ナリ是レカ爲陣地附近ニシテ補充容易ナル位置ニ集積所ヲ選定シ且ツ成ルヘク地形ヲ利用シテ掩護設備ヲ省略シ得

ハ有利ナリトス

### 六、銃手入ノ掩護設備

戰鬪長時間ニ互ルニ從ヒ戰鬪間ニ在リテモ銃ノ手入ヲ必要トスルヲ以テ掩護充分ナル手入所ヲ陣地附近ニ設備シ且ツ陣地トノ交通設備ヲ完備スルコト必要ナリ而シテ該手入所ハ戰鬪開始前ニ於ケル掩銃所タルモノニシテ是レカ設備ハ時間ノ多寡ニ關係スヘク掩蔽部ヲ利用シ或ハ止ムヲ得サレハ交通壕地形等ヲ利用シ其ノ設備ヲ省略スルモ可ナリ

銃手入所ノ設備トシテハ所要ノ地積ヲ有シ敵彈ニ對スル掩護充分ナルヲ要シ且ツ銃ノ冷却ニ必要ナル所要ノ水ヲ貯ヘアルコト必要ナリ

### 第四一五

最後ノ一兵トナルモ奮闘以テ任務ノ達成ニ努力スヘキハ攻防ヲ問ハス銃手ノ肝銘スヘキ事項ナルモ防禦ニ在リテハ特ニ陣地變換等ノ運動ヲ要セサルヲ以テ一兵ヲ以テスル任務ノ達成容易ナルノミナラス又其ノ威力モ絶大ナルモノナリ

歐洲大戰ノ經驗ニヨレハ縱令一銃ト雖機關銃ノ存在スル間ハ其ノ射界内ノ通過ハ絶對ニ不可能ナリト云フ宜敷任務ノ重大ナルト效果ノ偉大ナルトニ鑑ミ最後ノ一兵トナルモ奮闘以テ任務ノ達成ニ努力セサルヘカラス

故ニ一兵ヲ以テ目標ヲ發見シ自ラ裝填シ自ラ射撃スル動作モ忽諸ニ附スルコトナク日常ノ演練ニ心掛ケサルヘカラス

#### 第四一六

煙幕射撃ヲ受クル場合ノ設備法ハ概ネ夜間射撃ノ要領ニ依ルモ夜間ト異ナル所ハ煙幕内ニ於テハ銃側至近ノ位置ハ目視概ネ容易ナルト煙幕ニハ間斷ヲ生シ目標ニ對シ照準ノ點檢ヲ實施シ得ルコトナリ

實施ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

- 一、銃ノ前方至近位置(概ネ五六米)ニ補助照準點ヲ設置ス
- 二、雜射ノ限界ヲ標示ス
- 三、煙幕射撃ヲ受ケタル場合煙幕ヲ蒙ラサル方向ヨリ敵ヲ目視シテ射撃ト協調スル爲

ノ斥候ヲ準備シ所要ノ連絡法ヲ規定ス

## 戰團分隊教練終

昭和五年九月二十日印刷  
昭和五年九月二十五日發行

機關銃教育參考書 奧附

陸軍步兵學校將校集會所

右代表者 柳川真一

東京市四谷區愛住町九十四番地

發行者 山崎慶一郎

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷人 小桐新太郎

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷所 東京印刷株式會社麹町出張所

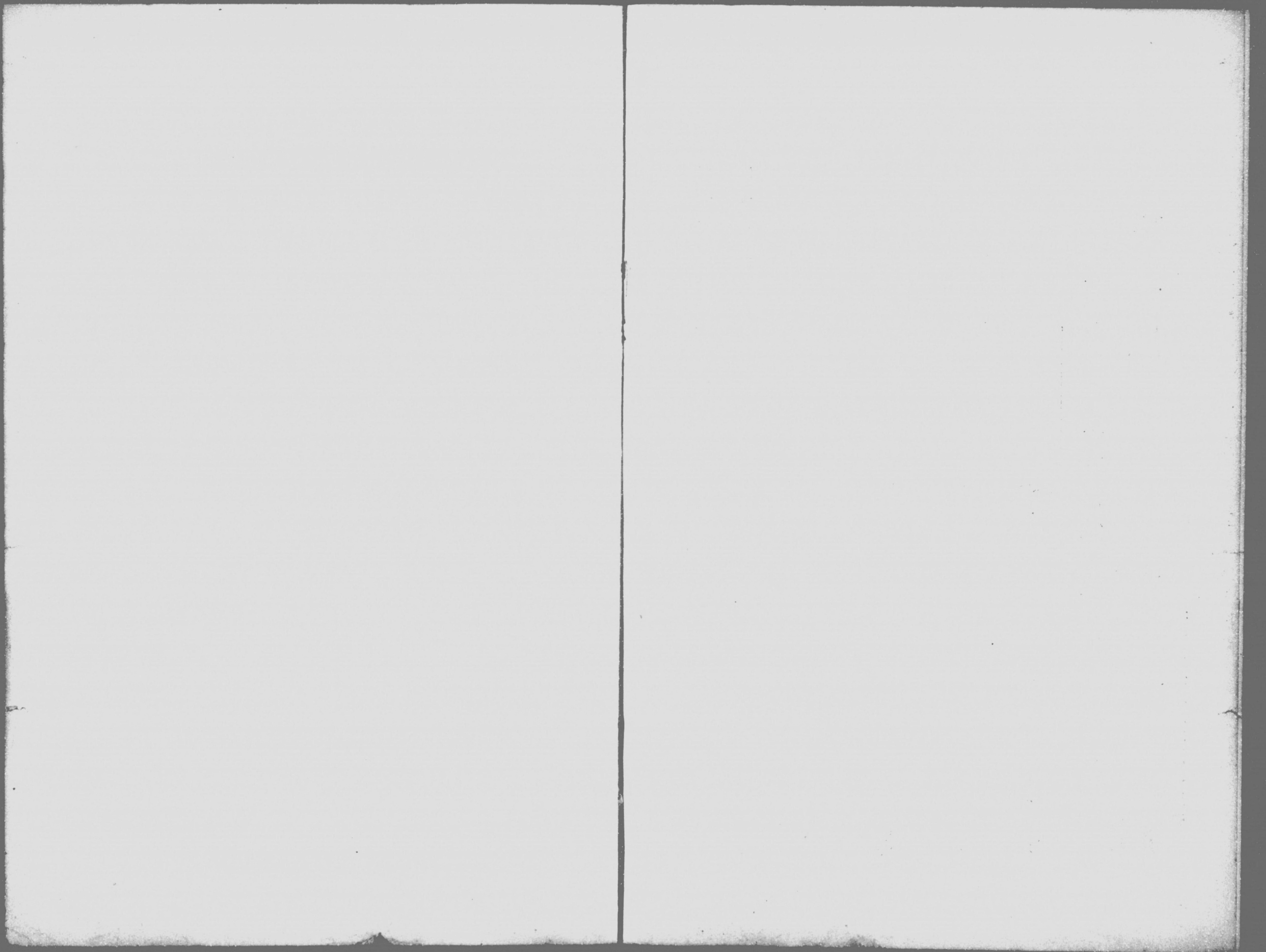
不許  
複製

東京市四谷區愛住町九十四番地

取扱所

琢磨社

振替口座東京六六一一五番



3